

宮崎海岸侵食対策検討委員会 第8回効果検証分科会

平成30年度に実施した調査結果に基づく効果検証

国土交通省・宮崎県

令和元年9月4日

目 次

第1章 分析すべき指標の洗い出し作業	1
1.1 海象・漂砂観測	2
1.2 測量	4
1.3 環境調査	7
1.4 利用調査	11
1.5 目視点検	14
1.6 洗い出し作業のさかのぼりチェック	16
第2章 分析	21
2.1 海象・漂砂観測	22
2.2 測量、施設点検	25
2.3 環境調査	29
2.4 利用調査	35
2.5 目視点検	36
2.6 分析結果の各評価単位への振り分け	38
2.6.1 対策検討の前提条件	38
2.6.2 養浜	41
2.6.3 突堤	51
2.6.4 埋設護岸	58
第3章 平成30年度に実施した調査結果に基づく年次評価(案)	65
3.1 計画検討の前提条件の評価	66
3.2 養浜の評価	71
3.3 突堤の評価	82
3.4 埋設護岸の評価	87
3.5 年次評価の総括	93

本検討資料は、今後新たな知見・情報、検討手法等によって、
変更の可能性がある数値情報を含みます。

第1章 分析すべき指標の洗い出し作業

- 「宮崎海岸の侵食対策」の効果検証の手法に基づき、分析すべき指標の洗い出し作業を実施した。なお、洗い出し作業に向けて指標に設定した範囲及び分析すべき指標の洗い出し結果の詳細は、参考資料1に整理している。

表－ 1.1 洗い出し作業において実施する機械的な分類の内容

分類項目	内 容	備 考
①範囲外↑	・指標に設定した範囲の上限を上回る場合	分析すべき指標とする。
②範囲外↓	・指標に設定した範囲の下限を下回る場合	”
③範囲外↑↓	・指標に設定した範囲の上限を上回り、かつ下限を下回る場合 ・定性評価タイプにおいて、指標に設定した範囲に合致しない場合	”
④範囲内	・指標に設定した範囲内の場合	通常の変動の範囲内であるため、分析すべき指標としない。ただし、効果に関する指標は、常に分析すべき指標とする。
⑤－	・調査非実施	調査を実施していない。

1.1 海象・漂砂観測

- 海象・漂砂観測における分析すべき指標の沿岸分布の判定結果を表－ 1.2 に示し、とりまとめた結果を表－ 1.3 に示す。指標に設定した範囲の範囲外となった項目は、調査実施4項目中2項目（波浪(30年確率波、年数回波、エネルギー平均波：波高、周期、波向)、北向きの沿岸流速）であった。

表－ 1.2 海象・漂砂観測における分析すべき指標の洗い出し作業結果

対象外 一：非実施	検証ブロック区分																		
	小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立海岸	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	港湾離岸堤	宮崎港	
平成25年度～平成29年度調査実施結果	浪高(20m)	—	—	—	—	—	0.2(埋設護岸覆土)	—	1.2(後浜)	—	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	—	—	—	—	—	—	—	
	突堤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	埋設護岸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	L=220m (計L=940m)	—	—	—	—	—	—	—	
	関連工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	護岸工事 (災害復旧)	—	—	—	—	—	
平成30年度調査実施結果	浪高(20m)	—	—	—	—	—	1.8(埋設護岸覆土)	—	1.7(後浜)	—	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	—	1.2(後浜)	—	—	—	—	—	
	突堤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	L=8m (計50m)	—	—	—	—	—	
	埋設護岸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	L=160m (計L=1,000m)	—	—	—	—	—	—	—	
	関連工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	護岸工事 (災害復旧)	—	—	—	—	—	
海象・漂砂 観測	潮位	範囲外！																	
	波	計画波高、年数回波：範囲外！ エネルギー平均波-波高：範囲外！、波向：範囲外！																	
	風	範囲内																	
	流れ	—	—	—	—	—	範囲内	—	—	—	—	—	範囲外！	—	—	—	—	—	—
	漂砂捕捉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	沖合流出土砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	飛砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	河川供給土砂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



表－ 1.3 海象・漂砂観測における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
外力関係	1.潮位観測	・計画値を超える記録(極値)は観測されず、計画変更につながる現象は認められなかった。	範囲内
	2.波浪観測 (1)30年確率波	・指標に設定した範囲よりも大きかった。	範囲外↑
	(2)年数回波	・指標に設定した範囲よりも大きかった。	範囲外↑
	(3)エネルギー平均波	・指標に設定した範囲と比べ、波高は大きく、周期は範囲内、波向きは南寄りであった。	波高:範囲外↑ 周期:範囲内 波向:範囲外↓
	3.風向・風速観測	・飛砂を発生させる可能性のある強風(8m/s)の来襲頻度は、指標に設定した範囲内であった。	範囲内
	4.流向・流速観測 (1)沿岸流	・指標に設定した範囲と比べ、St.4(大炊田海岸)は範囲内であった。St.3(動物園東)は、南向きは範囲内であったが、北向きは2018(H30)年2月28日に範囲外↑を観測した。	動物園東:範囲内 大炊田:範囲外↑
	(2)突堤周辺の離岸流	・2018(H30)年度は調査非実施である。 ※今後必要に応じて実施する。	—
漂砂関係	5.漂砂捕捉調査 (トレーサー調査)	・2018(H30)年度は調査非実施である。 ※今後必要に応じて実施する。	—
	6.沖合流出土砂調査	・2018(H30)年度は調査非実施である。 ※深浅測量成果の解析結果によると、波による地形変化の限界水深は指標に設定した範囲内であった。今後の地形変化状況を踏まえて、調査実施時期、調査方法等を検討する。	—
	7.飛砂調査	・2018(H30)年度は調査非実施である。 ※砂浜が回復し飛砂が問題となる可能性が生じた際に、調査実施時期、調査方法等を検討する。	—
	8.流砂量観測	・2018(H30)年度は調査非実施である。 ※「宮崎県中部流砂系検討委員会」の検討状況を注視し、最新の調査・検討結果を共有する。 ※流出土砂量評価に変更が生じる場合、「宮崎海岸の侵食対策」を検証する。 ※流出土砂量の増加は、侵食対策に対しては砂浜回復に効果として寄与する。一方、流出土砂量の減少は、河川に近いところから侵食を加速することになる。したがって、特に、流出土砂量の減少について注視していく。	—

1.2 測量

- 測量・施設点検における分析すべき指標の沿岸分布の判定結果を表－ 1.4 に示し、とりまとめた結果を表－ 1.5 に示す。指標に設定した範囲の範囲外となった項目は、13 項目中 9 項目（汀線変化(測量)、目標浜幅、土砂量変化、浜崖形状の変化、前浜勾配、等深線変化、汀線変化(カメラ観測)、施設点検(離岸堤)、施設点検(埋設護岸)) であった。

表－ 1.4 測量・施設点検における分析すべき指標の洗い出し作業結果

対象外 一:非実施	検証ブロック区分																		
	小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立海岸	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②之	補助突堤①之北	突堤北	県管理区間	港内離岸堤	宮崎港	
平成29年度調査対象	浜浜(方冊)	—	—	—	—	0.2(埋設護岸覆土)	—	1.2(後浜)	—	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	—	—	—	—	—	—	—	—	
	突堤																		
	埋設護岸									L=220m (計L=940m)									
	関連工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
平成30年度調査対象	浜浜(方冊)	—	—	—	—	1.8(埋設護岸覆土)	—	1.7(後浜)	—	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	—	—	—	—	—	—	—	—	
	突堤																		
	埋設護岸									L=160m (計L=1,000m)									
	関連工事	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
測量	汀線変化	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
	目標浜幅																		
	土砂量変化	範囲内	範囲内	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲内	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲内	範囲内	範囲外!	
	海岸全体の土砂収支	範囲内	範囲内															範囲内	
	地形変化(湧き水深)																		
	浜崖形状の変化																		
	前浜勾配	範囲内	範囲外!	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外!	範囲外!	範囲内	範囲内	範囲内		
	等深線変化																		
	汀線変化(カメラ観測)		範囲内																
	汀線変化(カメラ観測)短期変動幅																		
施設点検(離岸堤)																			
施設点検(突堤)																			
施設点検(埋設護岸)																			



表一 1.5(1) 測量・施設点検における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
地形測量	1.汀線変化	・補助突堤②北、港湾離岸堤で範囲外↓、県管理区間で範囲外↑の汀線変化が確認された。 ・複数ブロックで汀線予測計算と逆の変化傾向が確認された。	範囲外↓↑
	2.目標浜幅	・石崎浜②～突堤北の範囲で範囲外↓、港湾離岸堤で範囲外↑の浜幅が確認された。 ・大炊田海岸①～突堤北の範囲で、浜幅が予測値よりも狭い結果であった。	範囲外↓↑
	3.土砂量変化 (ブロック別)	・ニツ立海岸～大炊田海岸③で範囲外↑、一ツ瀬川右岸、大炊田海岸①～石崎浜②、補助突堤②北～補助突堤①北で範囲外↓の土砂量変化が確認された。 ・複数ブロックで予測計算と逆の変化傾向が確認された。	範囲外↓↑
	4.土砂量変化 (全体土砂収支)	・指標に設定した範囲内であった。 ・複数ブロックで汀線予測計算と逆の変化傾向が確認された。	範囲内
	5.波による地形変化 の限界水深	・指標に設定した範囲内であった。	範囲内
	6.浜崖形状の変化	・大炊田海岸は、基準時期(2008.12)との比較では浜崖位置の後退及び浜崖頂部高の低下ともに範囲外↓であるが、前年との比較ではいずれも範囲内(後退・低下なし)であった。 ・動物園東は、基準時期(2008.12)との比較は浜崖位置の後退及び浜崖頂部高の低下ともに範囲外↓である。前年との比較は埋設護岸未設置箇所(測線 No.-67)においていずれも範囲外↓(後退・低下あり)であった。	範囲外↓
	7.前浜勾配	・補助突堤②北で範囲外↑(指標範囲よりも緩勾配)、一ツ瀬川左岸および動物園東①で範囲外↓(指標範囲よりも急勾配)の前浜勾配が確認された。	範囲外↓↑
	8.等深線の変化	【T.P.-2m(海中の浅い場所)】補助突堤①北、県管理区間で範囲外↓、ニツ立海岸で範囲外↑の変化が確認された。 【T.P.-5m(バー内側)】大炊田海岸②～①、動物園東①～補助突堤①北、港湾離岸堤で範囲外↓、ニツ立海岸～大炊田海岸③で範囲外↑の変化が確認された。 【T.P.-8m(バー外側)】範囲内であった。	範囲外↓↑
カメラ観測	9.汀線変化 (カメラ観測)	・大炊田海岸③、石崎浜①は範囲外↓であった。 ・一ツ瀬川左岸は範囲内であったが、汀線予測計算と逆の変化傾向が確認された。	範囲外↓
	10.短期変動量 (カメラ観測)	・指標に設定した範囲内であった。	範囲内

表－ 1.5(2) 測量・施設点検における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
施設点検	11.離岸堤	<ul style="list-style-type: none"> ・離岸堤の高さに関する測量は実施されていない。 ・離岸堤の前面水深の地形変化は範囲外↓であった。 	範囲外↓
	12.突堤	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に設定した範囲内であった。 	範囲内
	13.埋設護岸 (1)サンドパック 天端高	<ul style="list-style-type: none"> ・大炊田海岸のサンドパック上段の中心線位置の高さは、一部箇所設計画値よりも低下している箇所があり範囲外↓である。前年との比較においても No.05、06 周辺で低下しており範囲外↓である。 ・動物園東のサンドパック上段の中心線位置の高さは、一部箇所設計画値よりも低下している箇所があり範囲外↓である。前年との比較においても No.-63 周辺で低下しており範囲外↓である。 	範囲外↓
	(2)背後養浜 盛土形状	<ul style="list-style-type: none"> ・大炊田海岸は、計画上の背後養浜盛土形状が、天然の浜崖に食い込む箇所があり(No.06, No.08)範囲外↓である。なお、計画上の背後養浜盛土形状の陸端部の浜崖の高さは範囲内である。 ・動物園東は、計画上の背後養浜盛土形状、計画上の背後養浜盛土形状の陸端部の浜崖の高さともに範囲内である。 	範囲外↓
(3)サンドパック露出	<ul style="list-style-type: none"> ・大炊田海岸は、①サンドパック露出、③アスファルトマット露出、④サンドパック変状が確認され、範囲外↓である。なお、④サンドパック変状は、2017(H29)年度に生じたものに加え、軽微な変状が新たに確認された。 ・動物園東は、①サンドパック露出、③アスファルトマット露出が確認され、範囲外↓である。なお、④サンドパック変状は確認されていないが、根固 SP の変状が見られた。 	範囲外↓	

1.3 環境調査

- 環境調査における分析すべき指標の沿岸分布の判定結果を表- 1.6 に示し、とりまとめた結果を表- 1.7 に示す。指標に設定した範囲の範囲外となった項目は、調査実施 12 項目中 10 項目（底質、付着生物、幼稚仔、底生生物、魚介類、漁業（漁獲調査）、植生断面、コアジサシ、アカウミガメ、固結度）であった。

表- 1.6 環境調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果

対象外 ○: 非実施	検証ブロック区分																			
	小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	二ツ立海岸	大牧田海岸③	大牧田海岸②	大牧田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	港湾岸岸堤	宮崎港		
平成29年度環境調査対象区画	養浜(石崎)	-	-	-	-	0.2(埋設護岸覆土)	-	1.2(後浜)	-	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	-	-	-	-	-	-		
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=220m (計L=940m)	-	-	-	-	-	-	-		
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-		
平成30年度環境調査対象区画	養浜(方舟)	-	-	-	-	1.8(埋設護岸覆土)	-	1.7(後浜)	-	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	1.2(後浜)	-	-	-	-	-		
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=8m (計50m)	-	-	-	-	-		
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=160m (計L=1,000m)	-	-	-	-	-	-	-		
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-		
環境	水質	水質(汀前・高)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	水質(カマラ)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	底質	底質(粒度)	範囲内	-	-	-	-	範囲内	-	-	範囲外!	-	-	-	-	範囲外!	範囲外!	-	-	
		底質(有機物)	-	-	-	-	-	-	-	範囲内	-	-	-	-	-	範囲内	範囲内	-	-	
	沿岸域付着・底生生物	養浜材	-	-	-	-	-	-	-	範囲内	-	範囲内	-	-	-	範囲内	-	-	-	
		浮遊生物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		付着生物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外!	範囲外!	-	-	
		幼稚仔	範囲外!	-	-	-	-	範囲外!	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外!	-	-	
		底生生物	範囲外! ↓	-	-	-	-	範囲外! ↓	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外!	-	-	
	魚介類	底生生物(石崎川河口)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		魚介類	範囲外!	-	-	-	-	範囲外!	-	-	-	-	特記事項なし (サーフゾーン調査)	-	-	範囲内 (遊水目標)	範囲外!	-	-	
	植物	漁獲	範囲外!																	
		植生断面	範囲外!	-	-	範囲外!	-	範囲外!	-	範囲内	-	-	-	範囲内	-	-	-	範囲外!	-	-
		植物相	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鳥類	昆虫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		鳥類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ウミガメ	コアジサシ	-	範囲外!	範囲外!	-	範囲外!	-	範囲外!	-	範囲外!	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		上陸実態	-	-	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	範囲外!	範囲内	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲外!	範囲内	範囲内	範囲外!	範囲内	-	-
		他地点実態	全国的に減少傾向																	
	固結	-	-	-	-	-	範囲外!	-	-	-	範囲外!	-	-	-	-	-	-	-	-	-



表－ 1.7(1) 環境調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果	
水質・底質	1.水質(汀線・海)	※「調査の効率化」により当面調査なし。	－	
	2.水質(カメラ観察)	※「調査の効率化」により当面調査なし。	－	
	3.底質	<p>【中央粒径】住吉(突堤北側)-汀線付近で範囲外↓であった(最小値を下回った)。</p> <p>【ふるい分け係数】住吉(突堤北側)-砕波帯で範囲外↑であった(最大値を上回った)。住吉(突堤北側)-汀線付近で範囲外↓であった(最小値を下回った)。</p> <p>【粒径加積曲線】石崎浜②-砕波帯、住吉(突堤北側)-汀線付近および砕波帯、住吉(離岸堤区間)汀線付近および砕波帯で範囲外↑(粗粒化)、住吉(突堤北側)-汀線付近および砕波帯で範囲外↓(細粒化)であった。</p> <p>※住吉(突堤北側)-砕波帯は、中央粒径、粒径加積曲線が範囲外となっているが、同ブロックは指標範囲を設定するための対策前の底質調査数が少なかったことに留意する必要がある。</p> <p>※「調査の効率化」により宮崎港～小丸川の広域調査は当面調査なし。</p>	範囲外↑↓	
	4.有機物	・いずれの項目・箇所においても基準とする指標の範囲内であった。	範囲内	
	5.養浜材	・新規養浜材採取に際して実施した調査結果はすべて指標範囲内であった。	範囲内	
生物	6.浮遊生物	※「調査の効率化」により当面調査なし。	－	
	7.付着生物	出現個体数・湿重量	<p>【突堤】着動物は範囲内であった。付着植物は緑藻綱(北側、南側ブロック表面)が範囲外↑であった(既設離岸堤最大値を上回った)。緑藻綱は南側ブロック表面は8季連続、北側ブロック表面は4季連続で範囲外↑である。</p> <p>【離岸堤】付着動物は範囲内であった。付着植物は緑藻綱が範囲外↓であった。</p>	範囲外↑↓
		出現種数	<p>【突堤】付着動物は節足動物門(北側ブロック表面)が範囲外↓であった(既設離岸堤最小値を下回った)。付着植物は紅藻綱(北側ブロック表面)が範囲外↓であった(既設離岸堤最小値を下回った)。</p> <p>【離岸堤】付着動物は範囲内であった。付着植物は紅藻綱、褐藻綱が範囲外↑であった。</p>	
	8.幼稚仔	出現個体数	・環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↑であった(既往最大値を上回った)。	範囲外↑
出現種数		・環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(住吉(離岸堤区間)、大炊田②、小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↑であった(既往最大値を上回った)。		

表－ 1.7(2) 環境調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
生物	9.底生生物 出現個体数	<p>【採泥器調査(汀線)】環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↑であった。</p> <p>【採泥器調査(碎波帯)】節足動物門(住吉(離岸堤区間))、その他(住吉(離岸堤区間)、大炊田②)が範囲外↑であり、軟体動物門(小丸川～一ツ瀬川)、環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↓であった。</p> <p>【ソリネット調査】軟体動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↓であった。</p>	範囲外↑↓
	出現種数	<p>【採泥器調査(汀線)】範囲内であった。</p> <p>【採泥器調査(碎波帯)】軟体動物門(小丸川～一ツ瀬川)、環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↓であった。</p> <p>【ソリネット調査】軟体動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↓であった。</p>	範囲外↓
	湿重量	<p>【採泥器調査(汀線)】節足動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↑であった。</p> <p>【採泥器調査(碎波帯)】その他(住吉(離岸堤区間)、大炊田②、小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↑であり、軟体動物門(住吉(離岸堤区間))、環形動物門(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(小丸川～一ツ瀬川)が範囲外↓であった。</p> <p>【ソリネット調査】軟体動物門(住吉(離岸堤区間)、小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(住吉(離岸堤区間))が範囲外↑であり、軟体動物門(大炊田②)が範囲外↓であった。</p>	範囲外↑↓
	10.底生生物(石崎川河口)	・2018(H30)年度は調査非実施である。	—

表－ 1.7(3) 環境調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果	
魚介類	11.魚介類	出現個体数	【ケタ網漁】節足動物門(大炊田②)、棘皮動物門(大炊田②、住吉(離岸堤区間))で範囲外↑であった。 【底曳網漁】軟体動物門【腹足綱】(大炊田②、住吉(離岸堤区間))、棘皮動物門(小丸川～一ツ瀬川)で範囲外↑であった。	範囲外↓↑
	出現種数	【ケタ網漁】軟体動物門【腹足綱】(小丸川～一ツ瀬川)で範囲外↑であった。 【底曳網漁】範囲内であった。		
	湿重量	【ケタ網漁】軟体動物門【腹足綱】(大炊田②)、軟体動物門【二枚貝綱】(小丸川～一ツ瀬川)、節足動物門(小丸川～一ツ瀬川、大炊田②、住吉(離岸堤区間))、棘皮動物門(小丸川～一ツ瀬川、大炊田②)で範囲外↑であった。 【底曳網漁】軟体動物門【腹足綱】(大炊田②、住吉(離岸堤区間))、棘皮動物門(小丸川～一ツ瀬川)で範囲外↑であった。		
	【大型サーフネット】 ※ データを蓄積し、指標を設定する。			
	【潜水目視観察】 過去の変動の範囲内であった。		範囲内	
	12.漁業(漁獲調査)	・船びき網漁・いわし漁が過去と比較して減少していた。 ※統計データ公表時期の都合上、効果検証の対象時期より1年前のデータを使用(2017(H29)年のデータ)	範囲外↓	
植物	13.植生断面調査	・L-1(住吉(離岸堤区間))、L-4(大炊田②)、L-5(二ツ立)、L-7(小丸川～一ツ瀬川)において範囲外↑であった(既往最大値を上回った)。	範囲外↑	
	14.植物相・植生図作成	・2018(H30)年度は調査非実施である。	－	
昆虫	15.昆虫	・2018(H30)年度は調査非実施である。	－	
鳥類	16.鳥類調査	・2018(H30)年度は調査非実施である。	－	
	17.コアジサシ利用実態調査	・現地踏査時(5月15日)に宮崎港北側の一ツ葉入江(調査地点外)では100個体以上の群れを確認した。(地元有志によるデコイ・シェルター等の設置あり)。 ・コアジサシは一ツ瀬川河口両岸、石崎浜周辺等に繁殖コロニーを形成する可能性があることを踏まえ、繁殖時期である6月のモニタリング調査時の移動時には、コアジサシの営巣・繁殖状況に留意したが、営巣・繁殖は確認されなかった。	範囲外↓	
アカウミガメ	18.アカウミガメ調査	・石崎川河川区域、石崎浜①～住吉(補助突堤②北側)の範囲、住吉(離岸堤区間)で、上陸・産卵回数が範囲外↓であった(既往最小値を下回った)。	範囲外↓	
	19.固結調査	・大炊田海岸(埋設護岸設置箇所)および動物園東(養浜実施箇所)の最小貫入量は、指標範囲を下回っている(硬い)箇所があった。	範囲外↓	

1.4 利用調査

- 利用調査における分析すべき指標の沿岸分布の判定結果を表－ 1.8 に示し、とりまとめた結果を表－ 1.9 に示す。指標に設定した範囲の範囲外となった項目は、調査実施2項目中0項目であった。

表－ 1.8 利用調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果

対象外 一 非実施		検証ブロック区分																		
		小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立	大炊田海岸②	大炊田海岸①	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	港湾岸堤	宮崎港	
平成29年度調査対象	養浜 (万㎡)						0.2(埋設護岸覆土)		1.2(後浜)			7.3 (後浜、埋設護岸覆土)								
	突堤																			
	埋設護岸											L=220m (計L=940m)								
	開通工事																			
平成30年度調査対象	養浜 (万㎡)						1.8(埋設護岸覆土)		1.7(後浜)		5.2 (後浜、埋設護岸覆土)		1.2(後浜)							
	突堤																			
	埋設護岸											L=160m (計L=1,000m)								
	開通工事																			
利用	操船																			
	利用																			
	カメラ																			
	乗艇						特記事項なし	特記事項なし					特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし				
	市民意見																			



表－ 1.9(1) 利用調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
漁業	1.漁船による操船調査	・2018(H30)年度は調査非実施である。	－
利用	2.利用調査	【海岸巡視】 2018(H30)年4月3日から2019(H31)年3月26日の間に計52回、巡視により目視点検を実施している。 ・利用者数は、動物園東①、石崎浜①・②で多く見られた。 ・利用の種類で見ると、サーフィンと釣りの利用者数がほぼ同程度で多かった。 ・場所と利用の関係を見ると、サーフンは動物園東①での利用者数が特に多く、突堤北でも見られた。釣りは海岸全体で見られたが、特に石崎浜周辺での利用者数が多い。	特記事項なし
		【利用調査】 2018(H30)年度は調査非実施である。	－
景観	3.突堤について	【視点場からの目視および写真撮影】 ・突堤の天端面のブロックのエイジングが進み、法面ブロックとの色の差が少なくなってきたと考えられる。 ・補助突堤①、②は、補助突堤①の延伸に伴い、先端部のブロックの白さが目立つもの、その他の場所では海面に近いところでブロックのエイジングが進み、風景に馴染みつつあると考えられる。	特記事項なし
	4.埋設護岸について	【市民意見等】 ・市民談義所等において、埋設護岸の景観に関する指摘、苦情は特段あげられていない。	特記事項なし

表－ 1.9(2) 利用調査における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
市民意見		<p>・7月27日(第40回)、11月9日(第41回)の2回、市民談義所を開催し、宮崎海岸の侵食対策事業に関する市民、行政、専門家等による談義を行っている。</p> <p>・新たな取り組みとして、12月8日に「第1回宮崎海岸サポーターズ 身近な海岸をもっと知ろう!」と題した「参加・体験型談義」を開催した。</p> <p>第40回市民談義所では、これまでに実施した対策の効果検証について、平成28年度の調査結果を用いて、波浪の来襲状況、地形変化、環境・利用面の効果・影響を説明するとともに、宮崎海岸の状況について空撮をみながら共有した。また、現在実施中の工事(養浜、埋設護岸等)の状況、今年度実施予定の工事スケジュールについて説明した。市民からは、事業全体および埋設護岸に対しては概ね肯定的な意見が多く出されたが、突堤については早期の工事实施を望む声や、代替案(小突堤群や離岸堤など)を検討してみてもどうかといった意見も挙げられた。また、総合土砂管理の進捗や、宮崎県との連携についても確認があった。</p> <p>第41回市民談義所では、今年度の台風の来襲状況と海岸の状況をドローン映像等で報告し、台風の規模は大きく、発生した波浪は計画波相当であったが、浜崖の後退は生じず、施設被害も限定的であったことを説明した。また、9月に開催された侵食対策検討委員会の結果を報告した。市民からは、総合土砂管理の具体的な内容についての質問や、一ツ瀬川河口に溜まっている土砂を養浜材として活用してほしいという要望等、「北からの土砂量を増やす」ことについての意見が挙がった。また、市民が考えた工法の提案もあった。</p> <p>第1回宮崎海岸サポーターズでは、広瀬西小学校区地域づくり協議会を中心に広く参加を呼びかけ、大炊田海岸にて小型地引網の実演、魚の試食、チリメンモンスター、タッチプール、お魚さばき実演等の出し物および事業の説明を行った。参加者へのアンケートの結果、行事の内容についての感想のほか、久しぶりに海岸に来て侵食の状況に驚いたという意見が挙がった。</p>	特記事項なし

1.5 目視点検

- 目視点検における分析すべき指標の沿岸分布の判定結果を表－ 1.10 に示し、とりまとめた結果を表－ 1.11 に示す。
- 養浜・覆土地形の変化、埋設護岸の変状につながる可能性のある事象（サンドパック、アスファルトマット、グラベルマットの露出）を確認した。

表－ 1.10 目視点検における分析すべき指標の洗い出し作業結果

対象外 一：非実施		検証ブロック区分																	
		小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立海岸	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	港湾離岸堤	宮崎港
平成29年度復旧対策	養浜(方巾)		—	—	—	—	0.2(埋設護岸覆土)	—	1.2(後浜)	—	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	—	—	—	—	—	—	—	—
	突堤																		
	埋設護岸										L=220m (計L=940m)								
	関連工事		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成30年度復旧対策	養浜(方巾)		—	—	—	—	1.8(埋設護岸覆土)	—	1.7(後浜)	—	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	—	1.2(後浜)	—	—	—	—	—	—
	突堤																		
	埋設護岸										L=160m (計L=1,000m)				L=8m (計50m)				
	関連工事		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
目視点検							範囲内	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲内	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲内	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲外！↓	範囲外！↓



表－ 1.11 目視点検における分析すべき指標の洗い出し作業結果のまとめ

分類	調査項目	分析すべき指標の洗い出し結果	洗い出し作業結果
目視点検	巡視	<ul style="list-style-type: none"> ・2018(H30)年 4 月 3 日から 2019(H31)年 3 月 26 日の間に計 52 回、巡視により目視点検を実施している。 ・動物園東①・②、大炊田海岸①・②ブロックにおいて、サンドパック、根固サンドパックの破損および養浜・覆土地形の変化、埋設護岸の変状につながる可能性のある事象(サンドパック、As マット、G マットの露出)を確認した。 ・石崎浜②ブロックにおいて養浜箇所の浜崖を確認した。 ・本突堤の被覆ブロックおよび先端ブロックの移動を確認した。 ・突堤北、補助突堤①北、補助突堤②北ブロックにおいてコンクリート護岸の変状につながる可能性のある事象を確認した 	範囲外↑↓

1.6 洗い出し作業のさかのぼりチェック

- 過去3ヵ年分の洗い出し結果を並べ、指標の範囲外であり、かつ同様の傾向が昨年に引き続き確認されたブロックを抽出した。
- 指標の範囲外が複数年にわたり同様の傾向で続くブロックについては、分析における要着目箇所であり、年次評価への反映に留意していく必要がある。

(1) 海象・漂砂観測

表-1.12 海象・漂砂観測における洗い出し作業結果の時系列

 : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で3年続いたブロック
 : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で2年続いたブロック

【海象・漂砂】エネルギー平均波
 将来予測の波浪外力条件であり、宮崎海岸侵食対策の重要な前提条件のひとつである。ただし、波浪外力と土砂移動の関係のモデリングは、長期を見据えた平均的な状況の予測を想定していることから、現地における地形変化の実態や現地観察結果の経年変化状況を合わせてみていくことで、その設定の妥当性を確認していく必要がある。

対象外 一:非実施	検証ブロック区分																		
	小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立海岸	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	港湾離岸堤	宮崎港	
平成28年度 年度係数対策	養浜 (万m ³)	-	-	0.5(後浜)	-	2.9(埋設護岸覆土)	-	0.7(後浜)	-	5.8 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	0.8(汀線付添) 1.1(海中)	0.6(汀線付添)	-	-	-	-	
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=50m (計50m)	L=42m (計42m)	天端被覆工 (計75m)	-	-	-	
	埋設護岸	-	-	-	-	機能復旧工L=260m (計L=1,600m)	-	-	-	L=440m (計L=720m)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	
平成29年度 年度係数対策	養浜 (万m ³)	-	-	-	-	0.2(埋設護岸覆土)	-	1.2(後浜)	-	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	L=220m (計L=940m)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	
平成30年度 年度係数対策	養浜 (万m ³)	-	-	-	-	1.8(埋設護岸覆土)	-	1.7(後浜)	-	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	1.2(後浜)	-	-	-	-	-	
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=8m (計50m)	-	-	-	-	-	
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	L=160m (計L=1,000m)	-	-	-	-	-	-	-	-	
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	
海象・漂砂	外力関係	潮位	範囲内																
		波	範囲内																
		風	範囲内																
		流れ	範囲内																
		漂砂捕戻	範囲内																
		沖合流出土砂	範囲内																
	漂砂関係	飛砂	範囲内																
		河川供給土砂	範囲内																
		漂砂捕戻	範囲内																
		沖合流出土砂	範囲内																
		飛砂	範囲内																
		河川供給土砂	範囲内																



(2) 測量

【測量】目標浜幅

宮崎海岸の侵食対策は、浜幅 50m の確保を目標としている。石崎浜～突堤北の範囲で浜幅不足傾向が続いている。

分析における着目箇所であり、年次評価への反映に留意していく必要がある。

表 1.13 測量における洗出し作業結果の時系列

■ : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で3年続いたブロック
 ■ : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で2年続いたブロック

【測量】浜崖形状の変化

基準時期(2008.12)との比較では、大炊田・動物園東とも浜崖位置の後退及び浜崖頂部高が低下したままである。

前年との比較では、大炊田では浜崖位置の後退及び浜崖頂部高が低下はともない。

分析における着目箇所であり、年次評価への反映に留意していく必要がある。

【測量】等深線変化

等深線変化は、年によって変動傾向が異なっているが、2018(H30)年は、バー内側(T.P.-5m)で後退が見られた範囲が広がった。

分析における着目箇所であり、年次評価への反映に留意していく必要がある。

【測量】施設点検

大炊田海岸の埋設護岸において、上段サンドバックの天端高の低下及びそれに伴う計画上の背後養浜盛土形状が、天然の浜崖に食い込む箇所がある。

また、海岸巡視において、大炊田海岸、動物園東ともにサンドバックの変状につながる可能性があるサンドバックの露出等が継続して確認されている。

対象外 一:非実施	検証ブロック区分																			
	小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	三ツ立海岸	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	養管理区間	港湾岸堤	宮崎港		
平成28年度 年度検査対策	養浜 (万㎡)	-	-	0.5(後浜)	-	2.9(埋設護岸覆土)	-	0.7(後浜)	-	5.8 (後浜、埋設護岸覆土)	-	0.8(汀線付添) 1.1(海中)	-	0.6(汀線付添)	-	-	-	-		
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=50m (計50m)	L=42m (計42m)	天端被覆工 (計75m)	-	-	-	-		
	埋設護岸	-	-	-	-	機能復旧工L=260m (計L=1,600m)	-	-	-	-	L=440m (計L=720m)	-	-	-	-	-	-	-		
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	-		
平成29年度 年度検査対策	養浜 (万㎡)	-	-	-	-	0.2(埋設護岸覆土)	-	1.2(後浜)	-	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	-	-	-	-	-	-	-	-		
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	L=220m (計L=940m)	-	-	-	-	-	-	-	-		
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	-		
平成30年度 年度検査対策	養浜 (万㎡)	-	-	-	-	1.8(埋設護岸覆土)	-	1.7(後浜)	-	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	-	1.2(後浜)	-	-	-	-	-	-		
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=8m (計50m)	-	-	-	-	-	-		
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	L=160m (計L=1,000m)	-	-	-	-	-	-	-	-		
	関連工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	護岸工事 (災害復旧)	-	-	-	-	-	-		
地形 測量	汀線変化	H28	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↑	
		H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
		H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
	目標浜幅	H28	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲外 ↑	
		H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲外 ↑	
		H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲外 ↑		
	土砂量変化	H28	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H29	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H30	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
	海岸全体の 土砂収支	H28	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
地形変化境界水深	H28	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
浜崖形状の変化	H28	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
	H29	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
	H30	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
前浜勾配	H28	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲内	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
等深線変化	H28	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
	H29	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
	H30	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓		
(カメラ観測) 汀線変化	H28	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
(カメラ観測) 短距離動量	H28	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
施設点検	H28	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲外 ↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		



表- 1.14 環境調査における洗出し作業結果の時系列

: 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で3年続いたブロック
 : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で2年続いたブロック

(3) 環境調査

【環境】底質(粒度)

石崎浜①、住吉海岸(突堤北)および県管理区間(住吉海岸離岸堤区間)で設定した指標の範囲を超える値が続いている。必要に応じて、指標の設定範囲の見直しを検討していく。

【環境】付着生物

突堤(突堤北)で設定した指標の範囲を超える値が続いている。必要に応じて、指標の設定範囲の見直しを検討していく。

【環境】幼稚子

小丸川～一ツ瀬川、大炊田海岸で設定した指標の範囲を超える値が続いている。必要に応じて、指標の設定範囲の見直しを検討していく。

【環境】底生生物

小丸川～一ツ瀬川、大炊田海岸、県管理区間(住吉海岸離岸堤区間)で設定した指標の範囲を超える値が続いている。必要に応じて、指標の設定範囲の見直しを検討していく。

【環境】魚介類

大炊田海岸、県管理区間(住吉海岸離岸堤区間)で設定した指標の範囲を超える値が続いている。必要に応じて、指標の設定範囲の見直しを検討していく。

【環境】植生断面

県管理区間(住吉海岸離岸堤区間)で設定した指標の範囲を超える植生の海側への拡大が続いている。

【環境】コアジサシ

営巣・繁殖が見られない状況が続いている。

【環境】アカウミガメ上陸・産卵実態

浜幅の減少傾向がつづく石崎浜～補助突堤①北の範囲で指標範囲を下回る状況が続いている。分析における着目箇所であり、年次評価への反映に留意していく必要がある。

【環境】アカウミガメ固結

大炊田、動物園東で範囲外が続いている。養浜の硬さは産卵減少につながる可能性があると考えられるため、年次評価への反映に留意していく必要がある。

対象外	一: 非実施	検証ブロック区分																	
		小丸川東端	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立	大炊田海岸③	大炊田海岸②	大炊田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	県管理区間	住吉海岸離岸堤	宮崎港
平成28年度 年度保全対策	養浜(万㎡)				0.5(後浜)		2.9(埋設護岸覆土)		0.7(後浜)		5.8 (後浜、埋設護岸覆土)			0.8(汀線付近) 1.1(海中)	0.6(汀線付近)				
	突堤													L=50m (計50m)	L=42m (計42m)	天端被覆工			
	埋設護岸						機能復旧工L=260m (計L=1,600m)						L=440m (計L=720m)						
平成29年度 年度保全対策	養浜(万㎡)						0.2(埋設護岸覆土)		1.2(後浜)		7.3 (後浜、埋設護岸覆土)								
	突堤																		
	埋設護岸												L=220m (計L=940m)						
平成30年度 年度保全対策	養浜(万㎡)						1.8(埋設護岸覆土)		1.7(後浜)		5.2 (後浜、埋設護岸覆土)			1.2(後浜)					
	突堤													L=8m (計50m)					
	埋設護岸												L=160m (計L=1,000m)						
水質	水質(汀線・海)	H28																	
	H29																		
	H30																		
底質	底質(粒度)	H28	範囲内				範囲内		範囲外↑						範囲外↑	範囲外↑			
	H29	範囲内					範囲外↑		範囲外↑						範囲外↑	範囲外↑			
	H30	範囲内					範囲内		範囲外↑						範囲外↑	範囲外↑			
底生生物	底質(有機物)	H28							範囲内						範囲内	範囲内			
	H29								範囲内						範囲内	範囲内			
	H30								範囲内						範囲内	範囲内			
魚介類	魚介類	H28							範囲内						範囲内	範囲内			
	H29								範囲内						範囲内	範囲内			
	H30								範囲内						範囲内	範囲内			
植物	植生断面	H28	範囲内			範囲外↑		範囲内		範囲外↑				範囲内			範囲外↑		
	H29	範囲外↑			範囲外↑		範囲外↑		範囲内				範囲内			範囲外↑			
	H30	範囲外↑			範囲外↑		範囲外↑		範囲内				範囲内			範囲外↑			
鳥類	コアジサシ	H28							範囲外↑		範囲外↑				範囲外↑	範囲外↑			
	H29	範囲外↑							範囲外↑		範囲外↑				範囲外↑	範囲外↑			
	H30	範囲外↑							範囲外↑		範囲外↑				範囲外↑	範囲外↑			
アカウミガメ	上陸実態	H28			特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	範囲内	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲内	範囲内	範囲外↑		
	H29				特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	範囲内	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲内	範囲内	範囲外↑		
	H30				特記事項なし	特記事項なし	特記事項なし	範囲外↑	範囲内	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲外↑	範囲内	範囲内	範囲外↑		



(5) 目視点検

表- 1.16 目視点検における洗出し作業結果の時系列

: 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で3年続いたブロック
 : 設定した指標の「範囲外」が同様の傾向(↑↓)で2年続いたブロック

【目視点検】埋設護岸の変状につながる可能性のある事象
 動物園東①、大炊田において、養浜・覆土地形の変化、埋設護岸の変状につながる可能性のある事象（サンドパック、As マット、G マットの露出）を確認した。
 2018(H30)年は、計画波相当の波浪が来襲したが、大規模なサンドパックの変状や、背後の浜崖侵食は生じていない。

【目視点検】養浜箇所への侵食
 動物園東②、石崎浜②ブロックにおいて養浜箇所の侵食を確認した。

対象外	一、養実地	検証ブロック区分																		
		小丸川東端	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立	大炊田①	大炊田②	大炊田③	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園東②	動物園東①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	島管理区間	港湾離岸堤	宮崎港	
平成28年度 年度検査対策	養浜(万㎡)				0.5(後浜)			2.9(埋設護岸覆土)		0.7(後浜)			5.8(後浜、埋設護岸覆土)		0.8(汀線付添) 1.1(海中)	0.6(汀線付添)				
	突堤														L=50m(計50m)	L=42m(計42m)	天端被覆工(計75m)			
	埋設護岸							機能復旧工L=260m(計L=1,600m)					L=440m(計L=720m)							
	関連工事														護岸工事(災害復旧)					
平成29年度 年度検査対策	養浜(万㎡)							0.2(埋設護岸覆土)		1.2(後浜)			7.3(後浜、埋設護岸覆土)							
	突堤																			
	埋設護岸												L=220m(計L=940m)							
	関連工事														護岸工事(災害復旧)					
平成30年度 年度検査対策	養浜(万㎡)							1.8(埋設護岸覆土)		1.7(後浜)			5.2(後浜、埋設護岸覆土)		1.2(後浜)					
	突堤														L=8m(計50m)					
	埋設護岸												L=160m(計L=1,000m)							
	関連工事														護岸工事(災害復旧)					
目視点検	H28							範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
	H29							範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
	H30							範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲外↑↓	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内



第2章 分析

- 「宮崎海岸の侵食対策」の効果検証における分析手法に基づき、分析を実施した。分析結果を次ページ以降に示す。
- 前章の分析すべき指標の洗い出しにおいて、要分析とされた指標については、何らかの処置が必要かを判断するために、多角的に分析(指標の空間的・時間的な分析、指標間での関連性の分析等)し、3つの分類(①要観察, ②要注視, ③要処置)に照らし合わせ、いずれの分類にするかを判断する。
- なお、分析すべき指標の洗い出しは、指標に設定した範囲と調査結果を単純に比較することにより分類するものであり、機械的に行うため、対策による影響(ネガティブな現象)を見過ごす危険性は少ないが、対策による効果(ポジティブな現象)を把握できないことが懸念される。
- このため、対策の効果に関する指標(浜幅, 土砂変化量等)は常に要分析とする。
- なお、分析に用いた図表は参考資料1に掲載した。

2.1 海象・漂砂観測

海象・漂砂観測において分析すべき指標は下記であった。

分析すべき指標

- | | |
|------------|-------------------------|
| ・ 朔望平均干潮位 | ・ ・ ・ 【参考資料 1 p6-5～6】 |
| ・ 計画波、年数回波 | ・ ・ ・ 【参考資料 1 p6-7～8】 |
| ・ エネルギー平均波 | ・ ・ ・ 【参考資料 1 p6-9～12】 |
| ・ 海岸全体の沿岸流 | ・ ・ ・ 【参考資料 1 p6-13～14】 |

(1) 朔望平均干潮位

1) 分析内容

- 宮崎港における朔望平均干潮位は T.P.-1.07m であった。これは、朔望平均干潮位の指標範囲 (T.P.-1.06m～-0.90m) をわずかではあるが下回る値であった。
- 2013(H25)～2018(H30)年の朔望平均干潮位の経年変化によると、T.P.-1.07m～-0.97m の間で変動しているが、変化の一定な傾向は見られなかった。
- 2013(H25)～2018(H30)年の年別・月別朔望最低潮位をみると、2018(H30)年は 1～3 月、6～8 月、11 月など他の年に比べて低い月が多い。一方、9 月や 12 月のように他の年に比べて高い月もあり、変化の一定な傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要注視 (今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ①計画検討の前提条件 】

(2) 計画波高、年数回波

1) 分析内容

- ネダノ瀬における年最大有義波高は $H0' = 11.7\text{m}$ (台風 22 号) で計画値と同程度であった。また、年数回波の波高は $H0' = 7.0\text{m}$ となり、前回に続き指標設定範囲 ($H0' = 3.9\text{m} \sim 6.2\text{m}$) を若干上回った。
- 2018(H30)年の有義波高上位 5 波のうち、上位 4 波の発生要因は台風であった。台風接近数の経年変化をみると、2018(H30)年の九州南部への台風の接近数は 2004(H16)年に次ぐ 2 番目に多い年であった。なお、台風接近数には年変動が見られ、変化の一定な傾向は見られない。
- 年数回波を経年変化でみると、2014(H26)年も設定範囲外を記録しているが、2016(H28)年のように来襲する波が小さい年もあるなど年変動が見られ、変化の一定な傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ①計画検討の前提条件 】

(3) エネルギー平均波

1) 分析内容

- エネルギー平均波は、波高は指標設定範囲を若干上回り、波向は指標設定範囲に対してわずかに南側からの値を示した。周期は範囲内であった。
- エネルギー平均波向の計画値は 15.1° (海岸線の法線に対して北側から 15.1° の角度) であるが、2018(H30)年は 6.9° (計画値に比べて海岸線の法線方向に近い角度) であった。これは、2011(H23)～2016(H28)年の $0.9 \sim 7.2^\circ$ と同様の傾向である。
- 近隣の波浪観測データによるエネルギー平均波の経年変化でみると、波高、周期、波向とも年変動が見られるが、近年(宮崎海岸(ネダノ瀬)観測開始の 2010(H22)年以降)、変化の一定な傾向は見られない。よって、今後も観測を継続し、更なるデータ蓄積により、来襲波浪の変化状況を検証していく必要がある。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ①計画検討の前提条件 】

(4) 海岸全体の沿岸流

1) 分析内容

- 2018(H30)年2月28日の低気圧東進時、7月3日の台風7号及び7月10日の台風8号通過時に、St.3(動物園東)地点における北向きの沿岸流速観測値が指標値1.8m/sを若干上回った。
- 北向き沿岸流速が指標値を上回った時のネダノ瀬波浪観測地点における波浪観測値は、有義波高1.9~3.7m、有義波周期7.5~11.5s、波向118~152°であった。波浪規模としては小さいが、波向は海岸線法線方向105°よりも南側から入射している。
- なお、上記期間以外は範囲内であり、今後も観測を継続し、更なるデータ蓄積により、来襲波浪と流れの関係を把握していく必要がある。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

＜分析結果＞ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ②養浜 】

2.2 測量、施設点検

測量、施設点検において分析すべき指標は下記であった。

分析すべき指標

・汀線変化(測量)	・・・【参考資料1 p6-18～27】
・目標浜幅(測量)	・・・【参考資料1 p6-18～27】
・汀線変化(カメラ)	・・・【参考資料1 p6-18～27】
・土砂量変化	・・・【参考資料1 p6-28～45】
・等深線変化	・・・【参考資料1 p6-28～45】
・浜崖形状の変化	・・・【参考資料1 p6-46～49】
・前浜勾配	・・・【参考資料1 p6-50～51】
・埋設護岸(離岸堤)	・・・【参考資料1 p6-52～53】
・埋設護岸(施設点検)	・・・【参考資料1 p6-54～55】

(1) 汀線変化、目標浜幅(測量)、汀線変化(カメラ観測)

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側の二ツ立では増加傾向、大炊田では2014(H26)年頃から横ばい若しくはやや増加傾向である。
- 石崎浜～動物園東では、2014(H26)年頃まで続いていた減少傾向が鈍化し、近年は横ばい傾向、住吉海岸(離岸堤区間)では2009(H21)年以降、横ばい傾向である。
- 区間①～⑦の浜幅は8m～68m(平均37m)であり、全体的に目標浜幅50mを確保できていない。
- 前回から(2017(H29)年と2018(H30)年)二ツ立、大炊田、動物園東で若干の回復がみられるが、傾向を大きく見直す程度ではなく監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(2) 土砂量変化、等深線変化

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の 2009 (H21)年以降、宮崎海岸北側（一ツ瀬川右岸～大炊田）は堆積もしくは維持傾向であり、石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では 2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばい若しくはやや回復傾向を示している。
- 突堤・養浜の効果・影響を把握するために、現状で砂浜が消失している突堤周辺の断面地形の変化状況を確認した。その結果、前回、2016(H28) から 2017(H29)において各突堤の北側（突堤先端より陸側）で堆積が見られるとしていたが、今回（2018(H30)）は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置（必要に応じて、何らかの処置を行う）

関連する評価単位 【 ①計画検討の前提条件、②養浜、③突堤 】

(3) 浜崖形状の変化

1) 分析内容

- 2018 (H30) 年は、台風 24 号が台風 21 号に連続して「非常に強い」勢力で宮崎県に接近し、計画波高に相当する 11.7mの高波浪にさらされた。サンドパックが露出する状況も多く見られたが著しい損傷はなく、埋設護岸設置区間の浜崖頂部の天端高は T.P.+7.0～+9.9mを確保できており、2017(H29)年から浜崖後退・頂部高の低下は生じていなかった。
- 動物園東地区では、2018(H30)年に新たに No.-66 区間を整備し、天端高 T.P.+7mを確保しており、残っていた No.-67 区間も 2019(H31)年 3 月に整備済みである。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

《分析結果》 要注視（今後、動向を注視する）

関連する評価単位 【 ④埋設護岸 】

(4) 前浜勾配

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、補助突堤②北で前浜勾配の緩勾配化、一ツ瀬川左岸および動物園東①で前浜勾配の急勾配化が見られた。
- 一ツ瀬川左岸は、前浜部分の横断図を見ると、急勾配・緩勾配が混在しており、一様な急勾配化の傾向は見られない。
- 動物園東①は、指標範囲の急勾配とほぼ同じ勾配であるため、通常の変動範囲から大きく外れるような特異な変化ではないと考えられる。
- 補助突堤②北は、指標範囲の緩勾配とほぼ同じ勾配であるため、通常の変動範囲から大きく外れるような特異な変化ではないと考えられる。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(5) 県離岸堤前面水深

1) 分析内容

- 2018(H30)年12月の県離岸堤前面の水深(測量基点から沖側に200m地点の水深)が一部で指標範囲よりも深くなっていた。
- 指標範囲より深かったのは、No.-47(離岸堤5基目)と、No.-44～-42(離岸堤1～3基目)であり、No.51の北側に設置している突堤から離れた箇所が生じている。
- 断面変化を見ると、離岸堤に近い範囲が深くなる一方で、その沖側で浅くなっている傾向が見られる。これは、主に高波による沖方向へ土砂移動に伴い生じた地形変化と推定される。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(6) 埋設護岸(施設点検)

1) 分析内容

- 2017(H29)年の目視点検では、動物園東南側および大炊田海岸において、埋設護岸の変状につながる事象(サンドパック、グラベルマット、アスファルトマットの露出)を確認した。
- 台風24号は台風21号に連続して『「非常に強い」勢力で25年振りに上陸した台風』として宮崎県に接近し、広域に記録的な暴風をもたらした。波浪観測においても計画波高(30年確率)に相当し、ネダノ瀬観測期間中(H22年～)最大の換算沖波波高となる11.7mを記録した。
- 宮崎海岸も高波浪にさらされ、サンドパックが露出する箇所も多く見られたが、浜崖の後退は防ぐことができ、事業の効果を確認することができた。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ④埋設護岸 】

2.3 環境調査

環境調査において分析すべき指標は下記であった。

分析すべき指標

・底質	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-59～60】
・付着生物	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-61～62】
・幼稚仔	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-63～66】
・底生生物(汀線、碎波帯)	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-67～72】
・魚介類	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-73～82】
・漁獲量(2017(H29)年度調査結果)	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-83～84】
・植生断面	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-85～86】
・コアジサシ利用実態	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-87～88】
・アカウミガメ(上陸・産卵回数)	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-89～92】
・アカウミガメ(砂浜の固結状況)	・ ・ ・	【参考資料 1 P6-93～94】

(1) 底質(中央粒径、ふるい分け係数、粒径加積曲線)

1) 分析内容

- 2011(H23)年から継続して水深毎の底質採取を実施している地点における粒度組成の経年変化によると、底質は粗粒化と細粒化を繰り返しており、一定の傾向は見られない。
- 突堤周辺の地形変化に対応した底質の変化は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜 】

(2) 付着生物

1) 分析内容

- 突堤周辺の付着生物の種数は、動物、植物とも、突堤の整備直後の2013(H25)年6月は種数が少ない状態であったが、2014(H26)年1月より種数が増加し、以後は増減を繰り返しながら横ばいで推移しており、突堤が生物の生息場として機能していると言える。
- 既設離岸堤における付着動物、付着植物は、いずれも種数および生物の量（動物：個体数、植物：湿重量）が変動を繰り返しながら推移しており、突堤の工事实施のタイミングとの明確な関連はみられない。
- 整備が進む突堤と付着生物の関連性を把握するため、引き続き、経過を観察する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する。)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(3) 幼稚仔

1) 分析内容

- 幼稚仔の種数および個体数は、対策実施箇所から離れた対照区であるL-7も含めて、経年変動の幅が大きい。種数や個体数の多寡が長期的に継続する傾向は見られない。
- いずれの動物門も変動幅が大きく、特に節足動物門と脊椎動物門で顕著である。節足動物門の多寡は、アミ類等の「パッチ状分布」の特性によるものである。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜 】

(4) 底生生物(汀線、碎波帯)

1) 分析内容

- 汀線では節足動物門(ヨコエビ類、ハマスナホリガニ)や軟体動物門(フジノハナガイ)、碎波帯では軟体動物門(ヒメバカガイ、シマミクリガイ)、節足動物門(クビナガスガメ)や棘皮動物門(ハスノハカシパン)等の局所的・一時的な個体数の増減の影響で、指標範囲を逸脱することがしばしばある。
- 底生生物の種数および個体数は、対策実施箇所から離れた対照区(L-7)も含めて経年変動の幅が大きく、種数や個体数の多寡が長期的に継続する傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(5) 魚介類

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、大炊田海岸でハスノハカシパンが多く採取されたことにより、夏季の棘皮動物門の個体数が既往最大となったが、冬季には範囲内に戻った。
- 養浜や突堤設置、埋設護岸設置等の対策箇所と、魚介類調査結果の変動箇所間に明確な関連性は見られない。
- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(6) 漁獲量 (2017(H29)年度調査結果)

1) 分析内容

- 2017(H29)年は、前年と比較していわし類・船びき網漁の漁獲量が25%低下した。これは、2011(H23)年の漁獲量相当である。なお、2011(H23)年の漁獲量低下は、翌年には前年と同程度まで回復している。
- 2017(H29)年のサーフゾーンにおける魚介類調査結果によると、脊椎動物門の採取状況の著しい現象は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤 】

(7) 植生断面(出現種、分布)

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、2017(H29)年に引き続き、大炊田(測線L-4)でサンドバック背後の養浜上に、ギョウギシバ等の植物が生育し、前年までと比べて植生の生育範囲が海側にやや広がった。これは、埋設護岸によりサンドバック背後が安定してきた効果と考えられる。なお、海浜性植物は、オニシバ、コウボウムギ、コウボウシバが低い被度で生育していた。
- その他の箇所は、概ね例年通りであった。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ②養浜、④埋設護岸 】

(8) コアジサシ利用実態

1) 分析内容

- 現地踏査時（2018(H30)年5月15日）に、宮崎港北側の一ツ葉入江において100個体以上のコアジサシの群れを確認したが、調査対象範囲内において営巣・繁殖は確認されなかった。
- コアジサシの営巣・繁殖は、近年比較的砂浜が回復・安定傾向にある一ツ瀬川左右岸および大炊田海岸においても見られておらず、地形変化と営巣・繁殖状況の間に明確な関係性は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要観察(引き続き、経過を観察する)

関連する評価単位 【 ②養浜 】

(9) アカウミガメ(上陸・産卵回数)

1) 分析内容

- 2018(H30)年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査（石崎浜～一ツ葉）で見ると、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少した。
- 産卵期全期間（5～8月）の宮崎海岸全体（一ツ瀬南～一ツ葉）では、上陸322回と産卵173回が確認された。そのうち、埋設護岸設置範囲に99回の上陸と43回の産卵が確認された。埋設護岸設置範囲の産卵のうち、約70%(30回)が埋設護岸上や陸側であった。
- 上陸・産卵数は前年より減少しているが、これは全国的な傾向と類似しており、今後も傾向の監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

関連する評価単位 【 ②養浜、③突堤、④埋設護岸 】

(10) アカウミガメ(砂浜の固結状況)

1) 分析内容

- 2018(H30)年度は、養浜実施区間である区間⑩(大炊田)および区間④(動物園東)において、特に硬い箇所が見られた。
- 一方、軟度が指標範囲外である箇所においても、アカウミガメの産卵が見られた。
- 今後も軟度とアカウミガメの産卵の関係に注視する目的で、現時点での指標範囲の見直しは行わない。
- 今後も砂浜が固結しないように、ほぐしや投入土砂の選定等可能な限り対応していく。なお、砂浜が狭いと砂の質がよくても産卵できないと考えられるため、引き続き養浜等による砂浜の回復を進めていく。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

関連する評価単位 【 ②養浜、④埋設護岸 】

2.4 利用調査

利用調査において分析すべき指標はなかった。

分析すべき指標

- ・ (なし)

2.5 目視点検

目視点検において分析すべき指標は下記であった。

分析すべき指標

- ・ 巡視(被覆ブロック及び捨石の移動) . . . 【参考資料1 P6-98~99】
- ・ 巡視(埋設護岸 覆土の流出、護岸の破損) . . . 【参考資料1 P6-100~101】
- ・ 巡視(養浜箇所への侵食) . . . 【参考資料1 P6-102~103】

(1) 巡視(被覆ブロック及び捨石の移動)

1) 分析内容

- 突堤南側被覆ブロックの変状が継続している。また、2018(H30)年台風24号後には先端ブロックが一部崩壊している。
- 突堤周辺は季節ごとに侵食と体積を繰り返す、変動の激しい箇所であり、これがブロック変状の要因となっていることが想定される。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ③突堤 】

(2) 巡視(埋設護岸 覆土の流出、護岸の破損)

1) 分析内容

- 2018(H30)年台風 24 号接近時、最大換算沖波波高は 11.7m であり、これは計画波高(30 年確率波) 11.6m と同程度の高い波高である。
- 台風 24 号接近時にも、サンドパットの大きな変状や浜崖頂部高の低下などは見られず、埋設護岸の効果が発揮された。
- 2015(H27)年度に洗掘対策工として新規に採用したグラベルマットは、露出後も大きな変状は見られず、サンドパット本体が変状する状況も見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

関連する評価単位 【 ④埋設護岸 】

(3) 巡視(砂丘後退の有無)

1) 分析内容

- 2018(H30)年の台風 21 号および台風 24 号に伴う高波浪により、石崎浜(自然浜区間)で大規模な侵食が見られた。同様の侵食は 2017(H29)年にもみられている。
- 高波浪が海岸法線に対して南寄りから入射した時に、侵食が生じている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

関連する評価単位 【 ②養浜 】

2.6 分析結果の各評価単位への振り分け

- 洗い出しにおいて機械的に抽出された分析すべき指標の分析結果を「対策検討の前提条件」、「養浜」、「突堤」、「埋設護岸」の計画変更につながる可能性がある現象のチェックシート(以降、計画変更現象チェックシートと略す)を用いて評価単位に振り分けた。

2.6.1 対策検討の前提条件

- 「対策検討の前提条件」の計画変更につながる可能性がある現象のうち、分析すべき指標は、海象【波浪（年数回波、エネルギー平均波）】、【潮位】、測量【土砂量変化】、【飛砂（風向・風速の出現頻度）】であった。「対策検討の前提条件」に振り分けた分析結果を以下に示す。

表－ 1.17 分析結果の振り分け結果（対策検討の前提条件）

計画変更の可能性 がある諸元	何が起こったら変更を検討するか (変更の検討は、その現象が顕著に見られたと判断された場合に実施する)						2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)				
	調査項目	計画変更につながる可能性がある現象	変更諸元										
			A	B	C	D				E	F		
計 画 検 討 の 前 提 条 件	A 計画波浪	海象 【波浪】	波高・周期の観測値及び観測統計値(5～10年程度)が、計画値より大きい。	●						【洗出】	「範囲内」	「範囲外」	「範囲外」
	B 計画潮位	海象 【波浪】	波高・周期の出現頻度が既往調査の傾向と異なる。							【分析】		「要注視」	「要注視」
	C 河川流出 土砂量	海象 【波浪】	波向の観測統計値(5～10年程度)が、計画値と異なる。	●						【洗出】	「範囲外」	「範囲内」	「範囲外」
	D 沖合流出 土砂量	海象 【波浪】	波向の出現頻度が既往調査の傾向と異なる。							【分析】	「要注視」		「要注視」
	E 飛砂損失量	海象 【潮位】	潮位の観測値及び観測統計値(5～10年程度)が、計画値と大きく異なる。		●					【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲外」
	F 沿岸漂砂量	測量 【土砂量変化】	蓄積した測量データ(5～10年程度)から得られる地形変化量が、既往の土砂変化量の速度より大きい・小さい。	●	●	●	●	●		【洗出】	「範囲内」	「範囲外」	「範囲外」
		測量 【土砂量変化】	小丸川・一ツ瀬川の河口周辺の地形及び土砂変化量の速度が既往の調査結果と異なる。	●	●			●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
		漂砂 【流砂量】	小丸川・一ツ瀬川から海域への流出土砂量が、既往の想定値より多い・少ない。		●			●		【洗出】	—	—	—
		測量 【限界水深】	水深T.P-10～-12mより深い場所の地形変化が、既往の調査結果より大きい。				●			【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
	漂砂 【飛砂】	飛砂量が、既往の推定値より大きい。 (風向・風速の出現頻度)					●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲内」	
									【分析】	「要観察」	「要観察」		

【洗出】：設定した指標範囲の「範囲内」、設定した指標範囲の「範囲外」、調査非実施「—」

【分析】：「要観察」(引き続き、経過を観察する)、「要注視」(今後、動向を注視する)、「要処置」(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(1) 計画波高、年数回波

1) 分析内容

- ▶ ネダノ瀬における年最大有義波高は $H0' = 11.7\text{m}$ (台風 22 号) で計画値と同程度であった。また、年数回波の波高は $H0' = 7.0\text{m}$ となり、前回に続き指標設定範囲 ($H0' = 3.9\text{m} \sim 6.2\text{m}$) を若干上回った。
- ▶ 2018(H30)年の有義波高上位 5 波のうち、上位 4 波の発生要因は台風であった。台風接近数の経年変化をみると、2018(H30)年の九州南部への台風の接近数は 2004(H16)年に次ぐ 2 番目に多い年であった。なお、台風接近数には年変動が見られ、変化の一定な傾向は見られない。
- ▶ 年数回波を経年変化でみると、2014(H26)年も設定範囲外を記録しているが、2016(H28)年のように来襲する波が小さい年もあるなど年変動が見られ、変化の一定な傾向は見られない。

2) 分析結果

- ▶ 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

《分析結果》 要注視 (今後、動向を注視する)

(2) エネルギー平均波

1) 分析内容

- ▶ エネルギー平均波は、波高は指標設定範囲を若干上回り、波向は指標設定範囲に対してわずかに南側からの値を示した。周期は範囲内であった。
- ▶ エネルギー平均波向の計画値は 15.1° (海岸線の法線に対して北側から 15.1° の角度) であるが、2018(H30)年は 6.9° (計画値に比べて海岸線の法線方向に近い角度) であった。これは、2011(H23)~2016(H28)年の $0.9 \sim 7.2^\circ$ と同様の傾向である。
- ▶ 近隣の波浪観測データによるエネルギー平均波の経年変化でみると、波高、周期、波向とも年変動が見られるが、近年(宮崎海岸(ネダノ瀬)観測開始の 2010(H22)年以降)、変化の一定な傾向は見られない。よって、今後も観測を継続し、更なるデータ蓄積により、来襲波浪の変化状況を検証していく必要がある。

2) 分析結果

- ▶ 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

《分析結果》 要注視 (今後、動向を注視する)

(3) 土砂量変化、等深線変化

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の 2009 (H21)年以降、宮崎海岸北側（一ツ瀬川右岸～大炊田）は堆積もしくは維持傾向であり、石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では 2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばい若しくはやや回復傾向を示している。
- 突堤・養浜の効果・影響を把握するために、現状で砂浜が消失している突堤周辺の断面地形の変化状況を確認した。その結果、前回、2016(H28) から 2017(H29)において各突堤の北側（突堤先端より陸側）で堆積が見られるとしていたが、今回（2018(H30)）は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置（必要に応じて、何らかの処置を行う）

(4) 朔望平均干潮位

1) 分析内容

- 宮崎港における朔望平均干潮位は T.P.-1.07m であった。これは、朔望平均干潮位の指標範囲（T.P.-1.06m～-0.90m）をわずかではあるが下回る値であった。
- 2013(H25)～2018(H30)年の朔望平均干潮位の経年変化によると、T.P.-1.07m～-0.97m の間で変動しているが、変化の一定な傾向は見られなかった。
- 2013(H25)～2018(H30)年の年別・月別朔望最低潮位をみると、2018(H30)年は 1～3 月、6～8 月、11 月など他の年に比べて低い月が多い。一方、9 月や 12 月のように他の年に比べて高い月もあり、変化の一定な傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要注視（今後、動向を注視する）

2.6.2 養浜

- 「養浜」の計画変更につながる可能性がある現象のうち、分析すべき指標は測量【汀線変化、目標浜幅】、測量【土砂量変化】、測量【等深線変化】、海象【流向・流速（海岸全体の沿岸流）】、【目視点検（養浜箇所への侵食）】、測量【前浜勾配】、環境【底質】、環境【アカウミガメ】、環境【植物】、環境【底生生物】、環境【魚介類】、環境【付着生物】、環境【幼稚仔】、環境【鳥類】であった。「養浜」に振り分けた分析結果を以下に示す。

表－ 1.18 分析結果の振り分け結果（養浜）

計画変更の可能性 がある諸元	何が起これば変更を検討するか								2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)					
	調査項目	計画変更につながる可能性がある現象	変更諸元													
			A	B	C	D	E	F				G	H			
養 浜 機 能 ①	A 投入場所 B 投入量	測量 【汀線変化、目標浜幅】	区間平均浜幅の前進速度が大きい・小さい。	●	●							【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
			【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」										
	C 運搬方法 D 投入方法 E 材料(粒径)	測量 【土砂量変化】	土砂変化量の増加速度が大きい・小さい。	●	●								【洗出】	「範囲内」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】											「要処置」	「要処置」	
	F 養浜材 供給源	測量 【突堤先端水深】	突堤の先端位置周辺における水深の変化が速い・遅い。	●	●			●					【洗出】	—	—	—
			【分析】													
	G 基部の 補強対策	測量 【等深線変化】	突堤設置箇所周辺の等深線形状が前進しない。	●	●								【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」										
	H 投入時期	測量 【短期変動】	台風等での短期的な地形変化が、既往の調査結果より大きい。	●	●		●	●			●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
			【分析】													
		海象 【流向・流速】	海岸全体の沿岸流の傾向が変化し、計画通り浜幅が回復しない。	●	●			●					【洗出】	「範囲内」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】												「要注視」	「要注視」
		目視点検	養浜箇所が侵食して、浜崖まで侵食がおよぶ(H30修正)。	●	●		●	●			●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」	「要処置」									
		測量 【前浜勾配】	前浜勾配が急になる。					●					【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」	「要処置」									
		漂砂 【飛砂】	飛砂量が、既往の推定値より大きい。	●	●		●	●					【洗出】	—	—	—
			【分析】													
		環境 【底質】	底質粒度組成が、既往の調査結果と異なる。					●					【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
		環境 【底質】	養浜材の新規採取箇所では有害物質が検出される。							●			【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
			【分析】													
		環境 【水質】	海水の濁り方が、既往の調査結果と異なる。				●	●					【洗出】	—	—	—
			【分析】													
		環境 【アカウミガメ】	アカウミガメの上陸・産卵個体数が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」	「要処置」									
		環境 【植物】	植生の分布特性が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
			【分析】	「要注視」	「要注視」	「要注視」	「要注視」									
	環境 【底生生物】	底生生物の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
		【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
	環境 【魚介類】	魚介類の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
		【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
	環境 【付着生物】	付着生物の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
		【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
	環境 【幼稚仔】	幼稚仔の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
		【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
	環境 【浮遊生物】	浮遊生物の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	—	—	—	
		【分析】														
	環境 【鳥類】	鳥類の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
		【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	「要観察」										
	環境 【昆虫】	昆虫の出現状況が、既往の調査結果と異なる。	●	●	●	●				●		【洗出】	—	—	—	
		【分析】														
	利用 【利用実態】	海岸利用者の快適性に問題が生じる。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
		【分析】														
	利用 【市民意見】	養浜に関して市民から要望、苦情が出る。	●	●	●	●				●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
		【分析】														
	測量 【土砂量変化】	宮崎港への流出土砂量の増加速度が大きい・小さい。	●	●	●	●						【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
		【分析】														
	測量 【汀線変化、目標浜幅】	一ツ瀬川北側の海岸の区間平均浜幅の前進速度が大きい・小さい。								●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
		【分析】														
	測量 【土砂量変化】	一ツ瀬川北側の海岸の土砂変化量の傾向の増加速度が大きい・小さい。								●		【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
		【分析】														

【洗出】：設定した指標範囲の「範囲内」、設定した指標範囲の「範囲外」、調査非実施「—」

【分析】：「要観察」(引き続き、経過を観察する)、「要注視」(今後、動向を注視する)、「要処置」(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(1) 汀線変化、目標浜幅(測量)、汀線変化(カメラ観測)

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側の二ツ立では増加傾向、大炊田では2014(H26)年頃から横ばい若しくはやや増加傾向である。
- 石崎浜～動物園東では、2014(H26)年頃まで続いていた減少傾向が鈍化し、近年は横ばい傾向、住吉海岸(離岸堤区間)では2009(H21)年以降、横ばい傾向である。
- 区間①～⑦の浜幅は8m～68m(平均37m)であり、全体的に目標浜幅50mを確保できていない。
- 前回から(2017(H29)年と2018(H30)年)二ツ立、大炊田、動物園東で若干の回復がみられるが、傾向を大きく見直す程度ではなく監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(2) 土砂量変化、等深線変化

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側(一ツ瀬川右岸～大炊田)は堆積もしくは維持傾向であり、石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばい若しくはやや回復傾向を示している。
- 突堤・養浜の効果・影響を把握するために、現状で砂浜が消失している突堤周辺の断面地形の変化状況を確認した。その結果、前回、2016(H28)から2017(H29)において各突堤の北側(突堤先端より陸側)で堆積が見られるとしていたが、今回(2018(H30))は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(3) 海岸全体の沿岸流

1) 分析内容

- 2018(H30)年 2月 28日の低気圧東進時、7月 3日の台風 7号及び7月 10日の台風 8号通過時に、St.3(動物園東)地点における北向きの沿岸流速観測値が指標値 1.8m/s を若干上回った。
- 北向き沿岸流速が指標値を上回った時のネダノ瀬波浪観測地点における波浪観測値は、有義波高 1.9~3.7m、有義波周期 7.5~11.5s、波向 118~152° であった。波浪規模としては小さいが、波向は海岸線法線方向 105° よりも南側から入射している。
- なお、上記期間以外は範囲内であり、今後も観測を継続し、更なるデータ蓄積により、来襲波浪と流れの関係を把握していく必要がある。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(4) 巡視(養浜箇所の侵食)

1) 分析内容

- 2018(H30)年の台風 21号および台風 24号に伴う高波浪により、石崎浜(自然浜区間)で大規模な侵食が見られた。同様の侵食は 2017(H29)年にもみられている。
- 高波浪が海岸法線に対して南寄りから入射した時に、侵食が生じている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(5) 前浜勾配

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、補助突堤②北で前浜勾配の緩勾配化、一ツ瀬川左岸および動物園東①で前浜勾配の急勾配化が見られた。
- 一ツ瀬川左岸は、前浜部分の横断図を見ると、急勾配・緩勾配が混在しており、一様な急勾配化の傾向は見られない。
- 動物園東①は、指標範囲の急勾配とほぼ同じ勾配であるため、通常の変動範囲から大きく外れるような特異な変化ではないと考えられる。
- 補助突堤②北は、指標範囲の緩勾配とほぼ同じ勾配であるため、通常の変動範囲から大きく外れるような特異な変化ではないと考えられる。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(6) 底質(中央粒径、ふるい分け係数、粒径加積曲線)

1) 分析内容

- 2011(H23)年から継続して水深毎の底質採取を実施している地点における粒度組成の経年変化によると、底質は粗粒化と細粒化を繰り返しており、一定の傾向は見られない。
- 突堤周辺の地形変化に対応した底質の変化は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要観察(引き続き、経過を観察する)

(7) アカウミガメ(上陸・産卵回数)

1) 分析内容

- 2018(H30)年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査(石崎浜～一ツ葉)でみると、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少した。
- 産卵期全期間(5～8月)の宮崎海岸全体(一ツ瀬南～一ツ葉)では、上陸322回と産卵173回が確認された。そのうち、埋設護岸設置範囲に99回の上陸と43回の産卵が確認された。埋設護岸設置範囲の産卵のうち、約70%(30回)が埋設護岸上や陸側であった。
- 上陸・産卵数は前年より減少しているが、これは全国的な傾向と類似しており、今後も傾向の監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(8) アカウミガメ(砂浜の固結状況)

1) 分析内容

- 2018(H30)年度は、養浜実施区間である区間⑩(大炊田)および区間④(動物園東)において、特に硬い箇所が見られた。
- 一方、軟度が指標範囲外である箇所においても、アカウミガメの産卵が見られた。
- 今後も軟度とアカウミガメの産卵の関係に注視する目的で、現時点での指標範囲の見直しは行わない。
- 今後も砂浜が固結しないように、ほぐしや投入土砂の選定等可能な限り対応していく。なお、砂浜が狭いと砂の質がよくても産卵できないと考えられるため、引き続き養浜等による砂浜の回復を進めていく。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(9) 植生断面(出現種、分布)

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、2017(H29)年に引き続き、大炊田(測線 L-4)でサンドパック背後の養浜上に、ギョウギシバ等の植物が生育し、前年までと比べて植生の生育範囲が海側にやや広がった。これは、埋設護岸によりサンドパック背後が安定してきた効果と考えられる。なお、海浜性植物は、オニシバ、コウボウムギ、コウボウシバが低い被度で生育していた。
- その他の箇所は、概ね例年通りであった。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

《分析結果》 要注視(今後、動向を注視する)

(10) 底生生物(汀線、碎波帯)

1) 分析内容

- 汀線では節足動物門(ヨコエビ類、ハマスナホリガニ)や軟体動物門(フジノハナガイ)、碎波帯では軟体動物門(ヒメバカガイ、シマミクリガイ)、節足動物門(クビナガスガメ)や棘皮動物門(ハスノハカシパン)等の局所的・一時的な個体数の増減の影響で、指標範囲を逸脱することがしばしばある。
- 底生生物の種数および個体数は、対策実施箇所から離れた対照区(L-7)も含めて経年変動の幅が大きく、種数や個体数の多寡が長期的に継続する傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要観察(引き続き、経過を観察する)

(11) 魚介類

1) 分析内容

2) 分析内容

- 2018(H30)年は、大炊田海岸でハスノハカシパンが多く採取されたことにより、夏季の棘皮動物門の個体数が既往最大となったが、冬季には範囲内に戻った。
- 養浜や突堤設置、埋設護岸設置等の対策箇所と、魚介類調査結果の変動箇所の間に明確な関連性は見られない。
- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

3) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する)

(12) 付着生物

1) 分析内容

- 突堤周辺の付着生物の種数は、動物、植物とも、突堤の整備直後の2013(H25)年6月は種数が少ない状態であったが、2014(H26)年1月より種数が増加し、以後は増減を繰り返しながら横ばいで推移しており、突堤が生物の生息場として機能していると言える。
- 既設離岸堤における付着動物、付着植物は、いずれも種数および生物の量(動物：個体数、植物：湿重量)が変動を繰り返しながら推移しており、突堤の工事实施のタイミングとの明確な関連はみられない。
- 整備が進む突堤と付着生物の関連性を把握するため、引き続き、経過を観察する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察(引き続き、経過を観察する。)

(13) 幼稚仔

1) 分析内容

- ▶ 幼稚仔の種数および個体数は、対策実施箇所から離れた対照区である L-7 も含めて、経年変動の幅が大きい。種数や個体数の多寡が長期的に継続する傾向は見られない。
- ▶ いずれの動物門も変動幅が大きく、特に節足動物門と脊椎動物門で顕著である。節足動物門の多寡は、アミ類等の「パッチ状分布」の特性によるものである。

2) 分析結果

- ▶ 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要観察 (引き続き、経過を観察する)

(14) コアジサシ利用実態

1) 分析内容

- ▶ 現地踏査時 (2018(H30)年 5 月 15 日) に、宮崎港北側の一ツ葉入江において 100 個体以上のコアジサシの群れを確認したが、調査対象範囲内において営巣・繁殖は確認されなかった。
- ▶ コアジサシの営巣・繁殖は、近年比較的砂浜が回復・安定傾向にある一ツ瀬川左右岸および大炊田海岸においても見られておらず、地形変化と営巣・繁殖状況の間に明確な関係性は見られない。

2) 分析結果

- ▶ 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

《分析結果》 要観察 (引き続き、経過を観察する)

(15) 要処置が複数年続いた指標の再分析

- 分析結果の振り分け結果（養浜）（表－ 1.18）で要処置が複数年続いた指標は、測量【目標浜幅、等深線変化】、目視点検（浜崖侵食）、環境【アカウミガメ】である。
- その指標について、範囲外となっているブロックを確認し、関連する指標の洗出し結果の時系列（表－ 1.19）から、養浜に関する処置を必要とするブロックについて検討する。

1) 分析内容

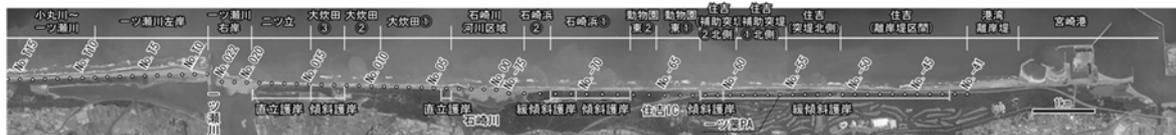
- 「目標浜幅」で範囲外↓が継続しているブロックは、石崎浜②～住吉(突堤北)である（港湾離岸堤ブロックは浜幅充足）。
- 「等深線変化」で範囲外↓（後退傾向）が継続しているブロックは、二ツ立～大炊田である。
- 「目視点検」（浜崖侵食）の範囲外↓が継続しているブロックは、埋設護岸未設置区間の動物園東②である。
- 「アカウミガメ」の上陸・産卵で範囲外↓が継続しているブロックは、石崎浜①～住吉(補助突堤②北)である。
- 「アカウミガメ」の固結で範囲外↓が継続しているブロックは、大炊田と動物園東である。
- 以上より、要処置と判断され、設定した指標の範囲外となっている現象が継続しているブロックは、アカウミガメの産卵に影響する固結で範囲外が継続している大炊田以外は、石崎浜より南側の範囲に集中している。

2) 分析結果

- 2009(H21)～2018(H30)年を比較すると、宮崎海岸北側（一ツ瀬川右岸～大炊田）は堆積もしくは維持傾向である。
- 石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では 2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばい若しくはやや回復傾向を示している。
- 突堤設置区間では、各突堤の北側で堆積傾向が確認できる。
- これらは、養浜および突堤の一定の効果と考えられる。砂浜の回復に向けてより一層の養浜を進めていく必要がある。

表- 1.19 複数年続けて「要処置」となった養浜に関連する指標の洗出し結果の時系列

対象年	対象区	検証ブロック区分																		
		小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	二ツ立	大牧田海岸②	大牧田海岸③	大牧田海岸①	石崎川	石崎浜②	石崎浜①	動物園②	動物園①	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	海岸防砂区	海岸防砂区	宮崎港	
平成28年度	養浜 (29m)				0.5(後浜)		2.9(埋設護岸覆土)		0.7(後浜)			5.8(後浜、埋設護岸覆土)			0.8(18m付添) 1.1(海中)	0.6(18m付添)				
	突堤																			
	埋設護岸						機能復旧工L=260m (計L=1,600m)					L=440m (計L=720m)								
	開通工事																			
平成29年度	養浜 (29m)						0.2(埋設護岸覆土)		1.2(後浜)			7.3(後浜、埋設護岸覆土)								
	突堤																			
	埋設護岸											L=220m (計L=940m)								
	開通工事																			
平成30年度	養浜 (29m)						1.8(埋設護岸覆土)		1.7(後浜)			5.2(後浜、埋設護岸覆土)								
	突堤																			
	埋設護岸																			
	開通工事																			
平成31年度	外力監視	浪	エネルギー平均値、波高、波向: 範囲外!																	
		風	年数回帰: 範囲外! エネルギー平均値-波高: 範囲外! 波向: 範囲外!																	
		計画波高、年数回帰: 範囲外! エネルギー平均値-波高: 範囲外! 波向: 範囲外!																		
	地形監視	目録作成	H28																	
			H29																	
			H30																	
		沿岸形状の変化	H28																	
			H29																	
			H30																	
		前浜勾配	H28																	
			H29																	
			H30																	
等深線変化		H28																		
		H29																		
		H30																		
施設点検	H28																			
	H29																			
	H30																			
環境	底質(泥状)	H28																		
		H29																		
		H30																		
	付着生物	H28																		
		H29																		
		H30																		
	幼若仔	H28																		
		H29																		
		H30																		
	成体生物	H28																		
		H29																		
		H30																		
魚介類	H28																			
	H29																			
	H30																			
植物	緑苔類																			
	コブシ																			
	コブシ																			
鳥類	コブシ																			
	コブシ																			
	コブシ																			
アウターゾーン	上陸生物																			
	上陸生物																			
	上陸生物																			
目録点検	H28																			
	H29																			
	H30																			



2.6.3 突堤

- 「突堤」の計画変更につながる可能性がある現象のうち、分析すべき指標は、測量【目標浜幅】、測量【土砂量変化】、測量【等深線変化】、測量【離岸堤前面水深】、環境【アカウミガメ】、環境【底生生物】、環境【魚介類】、環境【付着生物】、目視点検であった。「突堤」に振り分けた分析結果を以下に示す。

※「突堤」の分析結果の振り分けは、「住吉（突堤北～補助突堤②北）」ブロック、「住吉（離岸堤区間）」ブロックについての洗出し結果が「範囲外」となり、分析を実施した指標の分析結果を振り分けた。

表－ 1.20 分析結果の振り分け結果（突堤）

計画変更の可能性 がある諸元	何が起これたら変更を検討するか										2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)		
	調査項目	計画変更につながる可能性がある現象	変更諸元												
			A	B	C	D	E	F	G	H				I	
突堤 (機能②)	測量 【汀線変化、目標浜幅】	突堤北～補助突堤②北の区間平均浜幅の前進速度が大きい・小さい。	●	●							●	【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
												【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」
	測量 【突堤先端水深】	突堤の先端位置周辺における水深の変化が早い・遅い。	●	●								【洗出】	—	—	—
												【分析】			
	漂砂 【漂砂捕捉】	突堤の先端よりも陸側の土砂が突堤を越えて移動する。	●	●								【洗出】	「範囲外」	—	—
												【分析】	「要注視」		
	測量 【土砂量変化】	突堤北～補助突堤②北の土砂変化量の増加速度が大きい・小さい。	●	●							●	【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲外」
												【分析】			「要処置」
	測量 【土砂量変化】	宮崎港への流出土砂量の増加速度が大きい・小さい。	●	●							●	【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
												【分析】			
	海象 【離岸流】	突堤周辺、県離岸堤区域の沿岸流の傾向が、突堤の設置により変化し、離岸堤区域の地形変化に看過できない影響が生じる。	●	●							●	【洗出】	—	—	—
												【分析】			
	測量 【突堤の高さ】	突堤の高さが、計画値を越えて沈下する。		●							●	【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
												【分析】			
	目視点検	被覆ブロック・捨石が移動し、施設形状が変形する。				●	●					【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲外」
												【分析】			「要処置」
	利用 【操船】	操船への影響が看過できない。	●									【洗出】	—	—	—
												【分析】			
	測量 【等深線変化】	突堤設置箇所周辺の等深線形状が前進しない。	●	●								【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」
												【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」
	測量 【汀線変化】	県離岸堤区間の浜幅が維持できない。	●	●							●	【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」
												【分析】			
	測量 【離岸堤の高さ】	離岸堤の高さが、計画値を越えて沈下する。	●	●							●	【洗出】	—	—	—
												【分析】			
測量 【離岸堤前面水深】	離岸堤の前面水深が深くなり、安定性に影響を及ぼす。	●	●							●	【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲外」	
											【分析】			「要注視」	
利用 【利用実態】	海浜利用者の安全性に問題が生じる。	●	●	●		●	●	●			【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
											【分析】				
利用 【利用実態】	海浜利用者の快適性に問題が生じる。			●		●					【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
											【分析】				
海象 【離岸流】	突堤に沿う流れ(離岸流)により、利用時の安全性に問題が生じる。	●	●		●						【洗出】	—	—	—	
											【分析】				
環境 【アカウミガメ】	県離岸堤区間～補助突堤②北区間のアカウミガメの上陸・産卵個体数が、既往の調査結果と異なる。				●		●	●			【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
											【分析】	「要処置」	「要処置」	「要処置」	
環境 【底生生物】	底生生物の出現状況が、既往の調査結果と異なる。						●				【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
											【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	
環境 【魚介類】	魚介類の出現状況が、既往の調査結果と異なる。				●		●				【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
											【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	
環境 【付着生物】	付着生物の出現状況が、既往の調査結果と異なる。				●		●				【洗出】	「範囲外」	「範囲外」	「範囲外」	
											【分析】	「要観察」	「要観察」	「要観察」	
利用 【市民意見】	景観に関して市民から要望、苦情が出る。				●		●				【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
											【分析】				
利用 【市民意見】	突堤が目立ちすぎて周囲の景観を阻害する。				●		●				【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
											【分析】				
利用 【市民意見】	突堤に関して市民から要望、苦情が出る。						●				【洗出】	「範囲内」	「範囲内」	「範囲内」	
											【分析】				

【洗出】：設定した指標範囲の「範囲内」、設定した指標範囲の「範囲外」、調査非実施「—」

【分析】：「要観察」(引き続き、経過を観察する)、「要注視」(今後、動向を注視する)、「要処置」(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(1) 汀線変化、目標浜幅(測量)、汀線変化(カメラ観測)

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側の二ツ立では増加傾向、大炊田では2014(H26)年頃から横ばい若しくはやや増加傾向である。
- 石崎浜～動物園東では、2014(H26)年頃まで続いていた減少傾向が鈍化し、近年は横ばい傾向、住吉海岸(離岸堤区間)では2009(H21)年以降、横ばい傾向である。
- 区間①～⑦の浜幅は8m～68m(平均37m)であり、全体的に目標浜幅50mを確保できていない。
- 前回から(2017(H29)年と2018(H30)年)二ツ立、大炊田、動物園東で若干の回復がみられるが、傾向を大きく見直す程度ではなく監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(2) 土砂量変化、等深線変化

1) 分析内容

- 直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側(一ツ瀬川右岸～大炊田)は堆積もしくは維持傾向であり、石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばい若しくはやや回復傾向を示している。
- 突堤・養浜の効果・影響を把握するために、現状で砂浜が消失している突堤周辺の断面地形の変化状況を確認した。その結果、前回、2016(H28)から2017(H29)において各突堤の北側(突堤先端より陸側)で堆積が見られるとしていたが、今回(2018(H30))は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(3) 県離岸堤前面水深

1) 分析内容

- 2018(H30)年12月の県離岸堤前面の水深(測量基点から沖側に200m地点の水深)が一部で指標範囲よりも深くなっていた。
- 指標範囲より深かったのは、No.-47(離岸堤5基目)と、No.-44~-42(離岸堤1~3基目)であり、No.51の北側に設置している突堤から離れた箇所で生じている。
- 断面変化を見ると、離岸堤に近い範囲が深くなる一方で、その沖側で浅くなっている傾向が見られる。これは、主に高波による沖方向へ土砂移動に伴い生じた地形変化と推定される。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

(4) アカウミガメ(上陸・産卵回数)

1) 分析内容

- 2018(H30)年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査(石崎浜~一ツ葉)でみると、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少した。
- 産卵期全期間(5~8月)の宮崎海岸全体(一ツ瀬南~一ツ葉)では、上陸322回と産卵173回が確認された。そのうち、埋設護岸設置範囲に99回の上陸と43回の産卵が確認された。埋設護岸設置範囲の産卵のうち、約70%(30回)が埋設護岸上や陸側であった。
- 上陸・産卵数は前年より減少しているが、これは全国的な傾向と類似しており、今後も傾向の監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(5) 底生生物(汀線、砕波帯)

1) 分析内容

- 汀線では節足動物門(ヨコエビ類、ハマスナホリガニ)や軟体動物門(フジノハナガイ)、砕波帯では軟体動物門(ヒメバカガイ、シマミクリガイ)、節足動物門(クビナガスガメ)や棘皮動物門(ハスノハカシパン)等の局所的・一時的な個体数の増減の影響で、指標範囲を逸脱することがしばしばある。
- 底生生物の種数および個体数は、対策実施箇所から離れた対照区(L-7)も含めて経年変動の幅が大きく、種数や個体数の多寡が長期的に継続する傾向は見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要観察(引き続き、経過を観察する)

(6) 魚介類

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、大炊田海岸でハスノハカシパンが多く採取されたことにより、夏季の棘皮動物門の個体数が既往最大となったが、冬季には範囲内に戻った。
- 養浜や突堤設置、埋設護岸設置等の対策箇所と、魚介類調査結果の変動箇所の間に関連性は見られない。
- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

◀分析結果▶ 要観察(引き続き、経過を観察する)

(7) 付着生物

1) 分析内容

- 突堤周辺の付着生物の種数は、動物、植物とも、突堤の整備直後の2013(H25)年6月は種数が少ない状態であったが、2014(H26)年1月より種数が増加し、以後は増減を繰り返しながら横ばいで推移しており、突堤が生物の生息場として機能していると言える。
- 既設離岸堤における付着動物、付着植物は、いずれも種数および生物の量（動物：個体数、植物：湿重量）が変動を繰り返しながら推移しており、突堤の工事实施のタイミングとの明確な関連はみられない。
- 整備が進む突堤と付着生物の関連性を把握するため、引き続き、経過を観察する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連があるとは判断できないため、引き続き、経過を観察する。

＜分析結果＞ 要観察（引き続き、経過を観察する。）

(8) 巡視（被覆ブロック及び捨石の移動）

1) 分析内容

- 突堤南側被覆ブロックの変状が継続している。また、2018(H30)年台風24号後には先端ブロックが一部崩壊している。
- 突堤周辺は季節ごとに侵食と体積を繰り返す、変動の激しい箇所であり、これがブロック変状の要因となっていることが想定される。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

＜分析結果＞ 要注視（今後、動向を注視する）

(9) 要処置が複数年続いた指標の再分析

- 分析結果の振り分け結果（突堤）（表－ 1.20）で要処置が複数年続いた指標は、測量【目標浜幅、等深線変化】、環境【アカウミガメ】である。
- その指標について、範囲外となっているブロックを確認し、関連する指標の洗出し結果の時系列（表－ 1.21）から、突堤に関する処置を必要とするブロックについて検討する。

1) 分析内容

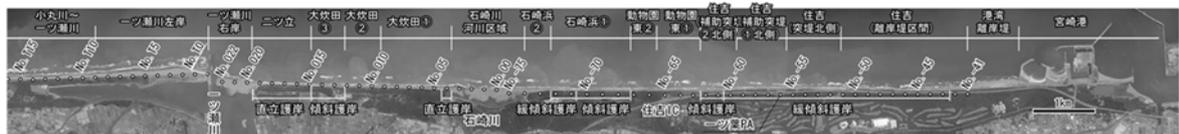
- 「目標浜幅」で範囲外↓が継続しているブロックは、住吉(補助突堤②北)～住吉(突堤北)である（港湾離岸堤ブロックは浜幅充足）。
- 「等深線変化」で範囲外↓が継続しているブロックはない。
- 「アカウミガメ」の上陸・産卵で範囲外↓が継続しているブロックは、住吉(補助突堤②北)である。

2) 分析結果

- 「アカウミガメ」の上陸・産卵で範囲外↓が継続している住吉(補助突堤②北)は、2015(H27)年にコンクリート護岸の被災原因にもつながった砂浜消失の影響が大きいと考えられる。2016(H28)年2月に補助突堤②（堤長 50m）が設置されたことから、今後の砂浜の回復を期待するところであるが、砂浜の回復過程においては、台風時期の南から来襲する波に対しては、砂浜が一時的に減少するなど変動が大きな場所になることが予想されるため、砂浜の回復状況を注視するとともに、必要に応じて突堤周辺への養浜の実施も検討する。

表 1.21 複数年続けて「要処置」となった突堤に関連する指標の洗出し結果の時系列

対象外 一:時実値	検証ブロック区分																		
	小丸川開港	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	ニツ立海岸	大炊田海岸①	大炊田海岸②	大炊田海岸③	石崎川	石崎浜①	石崎浜②	動物園①	動物園②	補助突堤①北	補助突堤②北	突堤北	海岸保護区	海岸線岸堤	宮崎港	
平成28年度洗出調査	溝浜 (79m)	---	---	0.5(後浜)	---	2.9(埋設護岸覆土)	---	0.7(後浜)	---	---	5.8 (後浜、埋設護岸覆土)	---	---	0.8(計測付添) 1.1(海中)	0.6(計測付添)	---	---	---	
突堤	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
埋設護岸	---	---	---	---	---	機能復旧工L=260m (計L=1,600m)	---	---	---	---	L=440m (計L=720m)	---	---	L=50m (計90m)	L=42m (計73m)	---	---	---	
閉鎖工事	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
平成29年度洗出調査	溝浜 (79m)	---	---	---	---	0.2(埋設護岸覆土)	---	1.2(後浜)	---	---	7.3 (後浜、埋設護岸覆土)	---	---	---	---	---	---	---	
突堤	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
埋設護岸	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	L=220m (計L=940m)	---	---	---	---	---	---	---	
閉鎖工事	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
平成30年度洗出調査	溝浜 (79m)	---	---	---	---	1.8(埋設護岸覆土)	---	1.7(後浜)	---	---	5.2 (後浜、埋設護岸覆土)	---	---	---	---	---	---	---	
突堤	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
埋設護岸	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	L=8m (計90m)	---	---	---	
閉鎖工事	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
海岸・環境	浪	H28	エネルギー平均波 波高、周期、波向 範囲外！																
		H29	年数回波 範囲外！ エネルギー平均波・周期 範囲外！																
		H30	計画波高、年数回波 範囲外！ エネルギー平均波・波高 範囲外！、波向 範囲外！																
	風	H28	範囲外！																
		H29	範囲外！																
		H30	範囲外！																
	目標達成	H28	---	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H30	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
	浜岸形状の変化	H28	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H29	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H30	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
	防波勾配	H28	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H29	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
		H30	範囲内	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
	等深線変化	H28	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H29	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
		H30	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	
	施設点検	H28	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
		H29	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
		H30	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	
	遊具(埋設)	H28	範囲内	---	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H29	範囲内	---	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H30	範囲内	---	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
	付着生物	H28	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	
		H29	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H30	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
	幼魚仔	H28	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	---	---	
		H29	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	---	---	
		H30	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	---	---	
	遊魚生物	H28	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	
		H29	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	
		H30	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	
	魚介類	H28	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H29	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	---	---	
		H30	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	---	---	
	緑化計画	H28	範囲内	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H29	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲外！	範囲外！	---	---	
		H30	範囲外！	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	---	---	
	コウジサン	H28	---	範囲外！	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
		H29	---	範囲外！	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
		H30	---	範囲外！	---	---	範囲外！	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	上陸動物	H28	---	---	---	---	特記事項なし	---	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲外！	
		H29	---	---	---	---	特記事項なし	---	範囲内	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲外！	
		H30	---	---	---	---	特記事項なし	---	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲外！	
	菌類	H28	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
		H29	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
		H30	---	---	---	---	---	---	範囲外！	---	---	---	---	---	---	---	---	---	
	目標点検	H28	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	
		H29	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	
		H30	---	---	---	---	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲外！	



2.6.4 埋設護岸

- 「埋設護岸」の計画変更につながる可能性がある現象のうち、分析すべき指標は測量【浜崖形状の変化】、【目視点検】、環境【アカウミガメ】、環境【植物】であった。「埋設護岸」に振り分けた分析結果を以下に示す。

※「埋設護岸」の分析結果の振り分けは、「大炊田海岸①、②」ブロック、「動物園東①、②」ブロックについての洗出し結果が「範囲外」となり、分析を実施した指標の分析結果を振り分けた。

表－ 1.22 分析結果の振り分け結果（埋設護岸）

計画変更 の可能性 がある諸元	何が起ったら変更を検討するか					2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)		
	調査項目	計画変更につながる可能性がある現象	変更諸元							
			A	B	C				D	E
埋 設 護 岸 (機能③)	A 高さ B 材料 C 覆土 D 施工中の配慮 E 撤去	測量 【浜崖形状の変化】	浜崖が後退する。浜崖頂部高さが低下する。	●	●	●			【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要処置」 「要処置」 「要処置」	
			目視点検	波が護岸を越えて、浜崖に作用する。	●					【洗出】 「範囲内」 「範囲内」 「範囲内」 【分析】
	目視点検	サンドバック、アスファルトマット等の洗掘対策工が露出、移動する(H27修正)。護岸が破損、変状して材料が流出する。		●	●			【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要注視」 「要注視」 「要注視」		
	目視点検	台風等の高波浪で、護岸周辺に地形変化が生じる。	●	●	●		●	【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要処置」 「要処置」 「要処置」		
	目視点検	覆土地形が流出して、護岸が露出する。			●			【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要処置」 「要処置」 「要処置」		
	利用 【利用実態】	海浜利用者の安全性に問題が生じる。		●	●	●		【洗出】 「範囲内」 「範囲内」 「範囲内」 【分析】		
	環境 【アカウミガメ】	大炊田海岸区間、動物園東区間のアカウミガメの上陸・産卵個体数が、既往の調査結果と異なる。		●	●			【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要処置」 「要処置」 「要処置」		
	環境 【植物】	植生の分布特性が、既往の調査結果と異なる。			●			【洗出】 「範囲外」 「範囲外」 「範囲外」 【分析】 「要注視」 「要注視」 「要注視」		
	利用 【市民意見】	景観に関して市民から要望、苦情が出る。		●	●			【洗出】 「範囲内」 「範囲内」 「範囲内」 【分析】		
	利用 【市民意見】	埋設護岸が目立ちすぎて周囲の景観を阻害する。			●	●		【洗出】 「範囲内」 「範囲内」 「範囲内」 【分析】		
	利用 【市民意見】	埋設護岸に関して市民から要望、苦情が出る。				●		【洗出】 「範囲内」 「範囲内」 「範囲内」 【分析】		

【洗出】：設定した指標範囲の「範囲内」、設定した指標範囲の「範囲外」、調査非実施「－」

【分析】：「要観察」(引き続き、経過を観察する)、「要注視」(今後、動向を注視する)、「要処置」(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(1) 浜崖形状の変化

1) 分析内容

- 2018 (H30) 年は、台風 24 号が台風 21 号に連続して「非常に強い」勢力で宮崎県に接近し、計画波高に相当する 11.7m の高波浪にさらされた。サンドバックが露出する状況も多く見られたが著しい損傷はなく、埋設護岸設置区間の浜崖頂部の天端高は T.P.+7.0~+9.9m を確保できており、2017(H29)年から浜崖後退・頂部高の低下は生じていなかった。
- 動物園東地区では、2018(H30)年に新たに No.-66 区間を整備し、天端高 T.P.+7m を確保しており、残っていた No.-67 区間も 2019(H31)年 3 月に整備済みである。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(2) 埋設護岸(施設点検)

1) 分析内容

- 2017(H29)年の目視点検では、動物園東南側および大炊田海岸において、埋設護岸の変状につながる事象(サンドバック、グラベルマット、アスファルトマットの露出)を確認した。
- 台風 24 号は台風 21 号に連続して『「非常に強い」勢力で 25 年振りに上陸した台風』として宮崎県に接近し、広域に記録的な暴風をもたらした。波浪観測においても計画波高(30 年確率)に相当し、ネダノ瀬観測期間中(H22 年~)最大の換算沖波波高となる 11.7m を記録した。
- 宮崎海岸も高波浪にさらされ、サンドバックが露出する箇所も多く見られたが、浜崖の後退は防ぐことができ、事業の効果を確認することができた。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

(3) 巡視(養浜箇所の侵食)

1) 分析内容

- 2018(H30)年の台風 21 号および台風 24 号に伴う高波浪により、石崎浜(自然浜区間)で大規模な侵食が見られた。同様の侵食は 2017(H29)年にもみられている。
- 高波浪が海岸法線に対して南寄りから入射した時に、侵食が生じている。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

◀分析結果▶ 要処置(必要に応じて、何らかの処置を行う)

(4) 巡視(埋設護岸 覆土の流出、護岸の破損)

1) 分析内容

- 2018(H30)年台風 24 号接近時、最大換算沖波波高は 11.7m であり、これは計画波高(30 年確率波) 11.6m と同程度の高い波高である。
- 台風 24 号接近時にも、サンドパットの大きな変状や浜崖頂部高の低下などは見られず、埋設護岸の効果が発揮された。
- 2015(H27)年度に洗掘対策工として新規に採用したグラベルマットは、露出後も大きな変状は見られず、サンドパット本体が変状する状況も見られない。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

(5) アカウミガメ(上陸・産卵回数)

1) 分析内容

- 2018(H30)年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査(石崎浜～一ツ葉)でみると、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少した。
- 産卵期全期間(5～8月)の宮崎海岸全体(一ツ瀬南～一ツ葉)では、上陸322回と産卵173回が確認された。そのうち、埋設護岸設置範囲に99回の上陸と43回の産卵が確認された。埋設護岸設置範囲の産卵のうち、約70%(30回)が埋設護岸上や陸側であった。
- 上陸・産卵数は前年より減少しているが、これは全国的な傾向と類似しており、今後も傾向の監視を継続する。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(6) アカウミガメ(砂浜の固結状況)

1) 分析内容

- 2018(H30)年度は、養浜実施区間である区間⑩(大炊田)および区間④(動物園東)において、特に硬い箇所が見られた。
- 一方、軟度が指標範囲外である箇所においても、アカウミガメの産卵が見られた。
- 今後も軟度とアカウミガメの産卵の関係に注視する目的で、現時点での指標範囲の見直しは行わない。
- 今後も砂浜が固結しないように、ほぐしや投入土砂の選定等可能な限り対応していく。なお、砂浜が狭いと砂の質がよくても産卵できないと考えられるため、引き続き養浜等による砂浜の回復を進めていく。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が高いため、必要に応じて、何らかの処置を行う。

《分析結果》 要処置(必要に応じて、何らかの対処を行う)

(7) 植生断面(出現種、分布)

1) 分析内容

- 2018(H30)年は、2017(H29)年に引き続き、大炊田(測線 L-4)でサンドバック背後の養浜上に、ギョウギシバ等の植物が生育し、前年までと比べて植生の生育範囲が海側にやや広がった。これは、埋設護岸によりサンドバック背後が安定してきた効果と考えられる。なお、海浜性植物は、オニシバ、コウボウムギ、コウボウシバが低い被度で生育していた。
- その他の箇所は、概ね例年通りであった。

2) 分析結果

- 対策の効果・影響と関連がある可能性が認められるため、今後、動向を注視する。

◀分析結果▶ 要注視(今後、動向を注視する)

(8) 要処置が複数年続いた指標の再分析

- 分析結果の振り分け結果（埋設護岸）（表－ 1.22）で要処置が複数年続いた指標は、測量【浜崖形状の変化】、【目視点検】、環境【アカウミガメ】である。
- その指標について、範囲外となっているブロックを確認し、関連する指標の洗出し結果の時系列（表－ 1.23）から、埋設護岸に関する処置を必要とするブロックについて検討する。

1) 分析内容

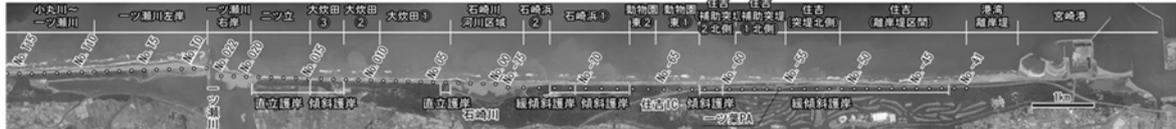
- 測量【浜崖形状の変化】、【目視点検】のいずれにおいても、動物園東及び大炊田ブロックで範囲外が継続している。
- 環境【アカウミガメ】は、動物園東及び大炊田ブロックで範囲外が継続している。

2) 分析結果

- 浜崖形状の変化に関しては、大炊田海岸に関しては、埋設護岸設置以降は新たな浜崖侵食は生じていないが、直轄事業開始時の浜崖規模までの復旧には至っていない。動物園東に関しては、埋設護岸未設置区間において浜崖頂部高の低下が進行していることから、埋設護岸の整備を進めていく必要がある。
- 目視点検による埋設護岸の変状に関しては、動物園東南側および大炊田海岸において、埋設護岸の変状につながる可能性がある事象（サンドパック、グラベルマット、アスファルトマットの露出）が確認されているが、背後の浜崖侵食は見られなかったことから、埋設護岸は一定の効果を発揮しているものと考えられる。
- なお、台風 24 号による高波来襲時にも、大炊田海岸・動物園東ともにサンドパックおよびアスファルトマット、グラベルマットの大きな変状は見られなかった。
- 2015(H27)年度に洗掘対策工として新規に採用したグラベルマットは、露出後も大きな変状は見られず、サンドパック本体が変状する状況も見られない。
- アカウミガメに関しては、埋設護岸上で産卵している状況も確認されていることから、サンドパックが露出しないように可能な限り養浜を実施していく。

表 1.23 複数年続けて「要処置」となった埋設護岸に関連する指標の洗出し結果の時系列

対象年	対象区	特設ブロック区分																					
		小丸川周辺	一ツ瀬川左岸	一ツ瀬川右岸	二ツ立海岸	大牧田海岸①	大牧田海岸②	大牧田海岸③	石崎川	石崎浜①	石崎浜②	動物園東①	動物園東②	補助突堤②北	補助突堤①北	突堤北	海岸管理区	海岸管理区	宮崎港				
平成28年度調査対象区	護岸 (79m)	-	-	0.5(後浜)	-	2.9(埋設護岸覆土)	-	0.7(後浜)	-	-	5.8(後浜、埋設護岸覆土)	-	-	0.8(汀線付帯、1.1(海中))	0.6(汀線付帯)	-	-	-	-	-			
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	埋設護岸	-	-	-	-	橋脚復旧工L=260m(計L=1,600m)	-	-	-	-	L=440m(計L=720m)	-	-	L=50m(計50m)	L=42m(計42m)	天端被覆工(計75m)	-	-	-	-			
	閉鎖工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
平成29年度調査対象区	護岸 (79m)	-	-	-	-	0.2(埋設護岸覆土)	-	1.2(後浜)	-	-	7.3(後浜、埋設護岸覆土)	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=220m(計L=940m)	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	閉鎖工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
平成30年度調査対象区	護岸 (79m)	-	-	-	-	1.8(埋設護岸覆土)	-	1.7(後浜)	-	-	5.2(後浜、埋設護岸覆土)	-	-	-	-	1.2(後浜)	-	-	-	-			
	突堤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
	埋設護岸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	L=160m(計L=1,000m)	-	-	-	-	L=8m(計50m)	-	-	-	-			
	閉鎖工事	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
調査項目	外力関係	浪	エネルギー平均値 波高、周期、波向 範囲外！																				
		風	年数回風 範囲外！ エネルギー平均値・周期 範囲外！																				
		計画波高、年数回波 範囲外！ エネルギー平均値・波高 範囲外！																					
	地形変化	目標達成	H28	範囲外！																			
			H29	範囲内																			
			H30	範囲内																			
		浜床形状の変化	H28	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
			H29	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
			H30	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
		浜流勾配	H28	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
			H29	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
			H30	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内
等深線変化		H28	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H29	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
		H30	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	
閉鎖点検	H28	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H29	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
	H30	範囲外！	範囲外！	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内	範囲内		
環境	遊歩(用)地	H28	範囲内	-	-	-	-	範囲内	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	範囲外！		
		H29	範囲内	-	-	-	-	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	範囲外！		
		H30	範囲内	-	-	-	-	範囲内	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	範囲外！		
	付着生物	H28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		H29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		H30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	幼稚仔	H28	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		H29	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		H30	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	成生生物	H28	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-	
		H29	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-	
		H30	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-	
集介種	H28	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
	H29	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
	H30	範囲外！	-	-	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
緑化計画	H28	範囲内	-	-	範囲外！	-	範囲内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
	H29	範囲外！	-	-	範囲外！	-	範囲内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
	H30	範囲外！	-	-	範囲外！	-	範囲内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	範囲外！	-		
鳥害	コウライ	-	範囲外！	-	-	-	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	コウライ	-	範囲外！	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	コウライ	-	範囲外！	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	範囲外！	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
アホウドリ	上陸繁殖	-	-	-	-	特記事項なし	-	特記事項なし	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		
	上陸繁殖	-	-	-	-	特記事項なし	-	特記事項なし	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		
	上陸繁殖	-	-	-	-	特記事項なし	-	特記事項なし	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		
閉鎖点検	H28	範囲内	-	-	-	範囲外！	-	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		
	H29	範囲内	-	-	-	範囲外！	-	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		
	H30	範囲内	-	-	-	範囲外！	-	範囲外！	範囲内	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！	範囲外！		



第3章 平成30年度に実施した調査結果に基づく年次評価(案)

- 分析結果をもとに、計画検討の前提条件、養浜、突堤、埋設護岸の4つの評価単位の評価(素案)を作成した。

3.1 計画検討の前提条件の評価

- 2018(H30)年1～12月の調査結果を踏まえた、計画検討の前提条件の年次評価票を表－3.1に示す。

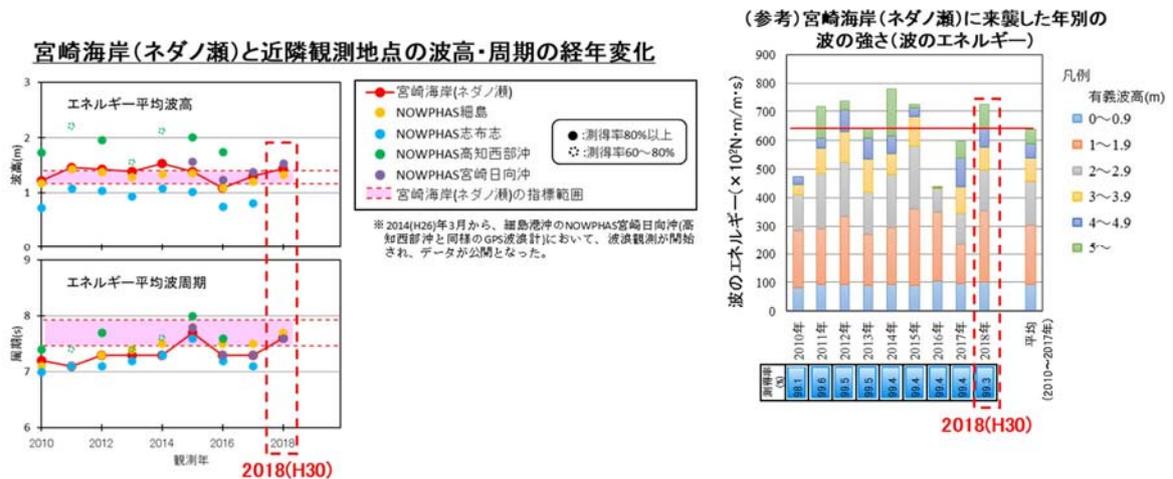
(1) 主な結果

- 来襲した高波浪が、護岸等の天端高やブロックの安定性などの設計に用いている計画値（30年確率波）や突堤の天端高の検討などに用いられている計画値（年数回波）を越えていないかを確認した結果、2018(H30)年の年最大の波高は11.7m（台風24号）で計画値と同程度であった。また、年数回波の波高は7.0mとなり、前回に続き指標設定範囲を若干上回った。



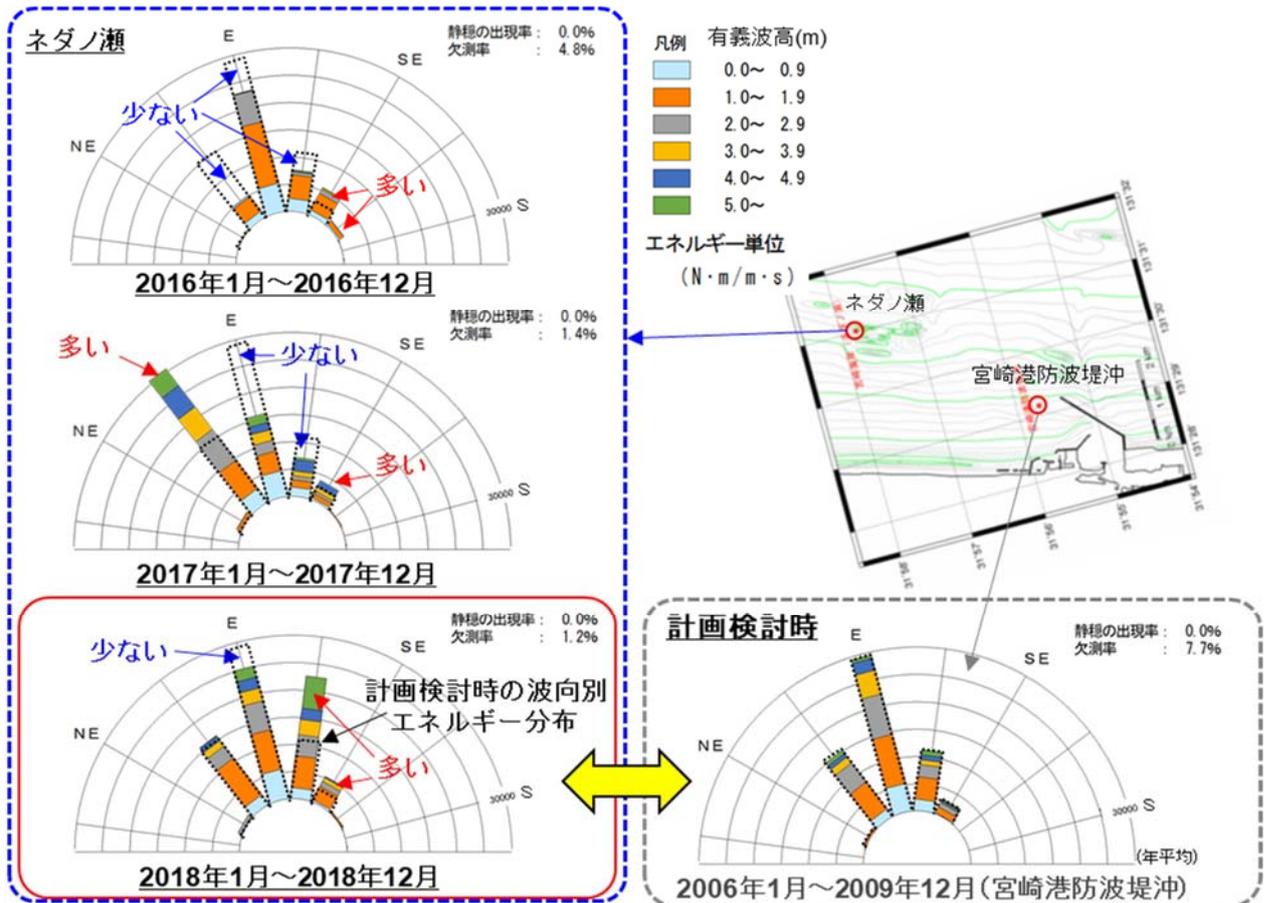
図－3.1 高波浪来襲状況

- 地形変化が生じる要因となる土砂を動かす波の強さ（エネルギー）が、計画で想定している範囲を超えていないか確認した結果、2018(H30)年の1年間の波高は指標設定範囲を若干上回った。周期は範囲内であった。
- また、2018(H30)年の1年間の波の強さ（波のエネルギー）は、平年より大きかった。

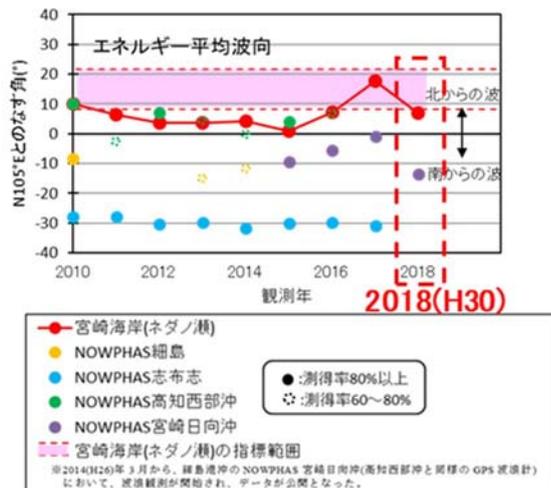


図－3.2 エネルギー平均波及び年別波浪エネルギーの経年変化

- ▶ 地形変化が生じる要因となる土砂を動かす波の向きが、計画で想定している傾向と異なっていないか確認した結果、2018(H30)年は、計画検討時に比べてやや南側（ESE～SE 方向）からの波が多かった。
- ▶ エネルギー平均波の波向は、指標設定範囲に対して若干南側からの値を示した。



図－ 3.3 宮崎海岸沖における波高・波向別エネルギー分布



図－ 3.4 宮崎海岸および近隣のエネルギー平均波向の経年変化

(2) 課題

- ネダノ瀬沖の定点波浪流況連続観測は、観測開始からの時間経過は9年間程度と短く、統計的な信頼度は高くない。このことから、宮崎海岸の計画検討の前提条件の妥当性を検証していくためには、他の観測地点(青島沖、宮崎港防波堤沖)の過去の観測データを活用しつつ、ネダノ瀬沖において引き続き観測を行い、データの蓄積を図る必要がある。
- 2018(H30)年は、計画波高(11.6m)と同程度の波が観測された。これにより、年数回波高は指標設定範囲を上回り、来襲した波のエネルギー（土砂を動かす力）も平年より大きかった。
- エネルギー平均波の波向は、2017(H29)年は計画値に比べて若干北側からの波向であったが、2018(H30)年は指標設定範囲より若干南側からの波向であった。年変動が一定の傾向ではないため、今後も十分に注視することが必要である。

(3) 今後の検討の方向性

- 海岸保全施設の設計諸元となる波浪、潮位、将来予測計算の境界条件としている河川流出土砂量、沖合への土砂流出、飛砂については、計画変更が必要となるような兆候が見られなかったが、データの蓄積が不十分であることや土砂動態は解明されていないことなどを踏まえ、引き続き注視していく必要がある。
- 地球規模では、今後、海面上昇等の気候変動の影響が生じることが予測されているが、これらの将来予測には時期や程度に相当な幅があることや、宮崎海岸に対しての影響は把握できていないことから、データを蓄積し、今後新たな知見が得られたときに適宜モデル等の見直しを行うものとする。
- エネルギー平均波の波向が計画値とやや異なる傾向が確認されたが、長期的に波向が変化したと現時点では判断できないため、計画変更の必要性は判断できない。
- 高波浪の来襲やエネルギー平均波向には年変動が見られるが、計画検討の前提条件の変更が必要となる現象は認められない。
- 以上のことから「計画検討の前提条件」は、調査結果を特に注視し継続して使用することができるとした。

表一 3.1(1) 評価（計画検討の前提条件）その1

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票素案で追記更新

検討対象		計画検討の前提条件	外力関係：2018(H30)年1月～12月 漂砂関係：2018(H30)年度
事業概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> 計画外力等の妥当性を確認する。 	
	背景・経緯	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎海岸周辺の定点波浪流況連続観測データとしては、青島沖 ※(観測期間：1990年4月～2003年6月)、宮崎港防波堤沖(観測期間：2004年12月～2011年10月)、ネダノ瀬沖(2010年2月～現在継続中)がある。 現在観測を継続しているネダノ瀬沖は、宮崎港防波堤沖観測地点との同時観測により、波浪観測の一定の精度は確認されているが、観測開始からの日が浅いため、9年分しかデータが蓄積されていない。 潮位観測は、宮崎港における観測、データの蓄積が1980年代より継続されている。 ※NOWPHAS 宮崎 	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 定点波浪流況連続観測 <ul style="list-style-type: none"> ○ネダノ瀬沖観測地点：宮崎海岸一ツ葉有料道路パーキングエリア沖合、水深21m(国土交通省宮崎河川国道事務所) ○大炊田地区前面：水深3～4m程度(国土交通省宮崎河川国道事務所) ○動物園東地区前面：水深2m程度(国土交通省宮崎河川国道事務所) ○宮崎港沖観測地点：宮崎港防波堤沖、水深15m(宮崎県(観測終了)) ○青島沖観測地点：青島沖、水深29m(港湾局(観測終了)) 潮位観測 <ul style="list-style-type: none"> ○宮崎港(国土交通省宮崎港湾・空港整備事務所) 測量：年2回 	
計画検討の前提条件の評価	海象・漂砂	<ul style="list-style-type: none"> 漂砂移動の将来予測に用いる指標であり、対策を進める上でもっとも重要な計画値の一つであるエネルギー平均波の波向が、2016(H28)年まで計画値(海岸線の法線となす角15°)よりやや南からの波向(同$0.9\sim 7.2^\circ$)であったが、2017(H29)年は計画値よりやや北からの波向(同17.6°)であったが、2018(H30)年は6.9°(計画値に比べて海岸線の法線方向に近い角度)であった。【参考資料1 p6-9～12】。 2018(H30)年の年最高潮位はT.P.+1.73mであり、越波防護の前提条件としている計画高潮位(T.P.+2.42m)を越える値は観測されなかった【参考資料1 p2-4】。 2018(H30)年の年最大有義波高は11.7m(台風24号)であり、計画波高(30年確率波11.62m)と同程度であったを越える値は観測されなかった。なお、統計処理した年数回波の波高は7.0mであり、計画値の指標範囲(3.93～6.15m)よりやや高かった。が、来襲した波のエネルギー(土砂を動かす力)は平年より大きかった並みである。【参考資料1 p2-8、p6-9～12】 以上より、計画検討の前提条件の変更が必要となるような現象は認められなかった。 	
	地形	<ul style="list-style-type: none"> 直轄事業着手以降、宮崎海岸北側の二ツ立を除き侵食傾向であった状況が、H26年頃を前後して侵食傾向が鈍化し、近年は横ばいもしくは若干の堆積傾向を示す区間も見られている。【参考資料1 p6-28～45】 突堤設置区間では、各突堤の北側(突堤先端より陸側)で若干の堆積傾向がみられ、一定の効果が確認できる。養浜土砂の供給によりさらなる効果が期待できる。【参考資料1 p6-30～31】 前回から(H29年とH30年)単年でみると変動が見られるものもあるが、傾向を大きく見直す程度ではなく、監視を継続する。 2017(H29)年は、これまで土砂量等が回復傾向であった宮崎海岸北側の範囲(二ツ立、大炊田など)で、2016(H28)年と2017(H29)年と比較すると若干減少が見られた。 石崎浜～住吉海岸(離岸堤区間)は、2009(H21)年と比較すると侵食であるが、2013(H25)～2014(H26)年からは横ばいまたはやや回復傾向である。特に突堤北側の範囲は、堆積の兆しを示している【参考資料1 p6-30～47】。 	

青字:前回評価票から削除
赤字:今回の評価票素案で追記更新

表一 3.1(2) 評価 (計画検討の前提条件) その2

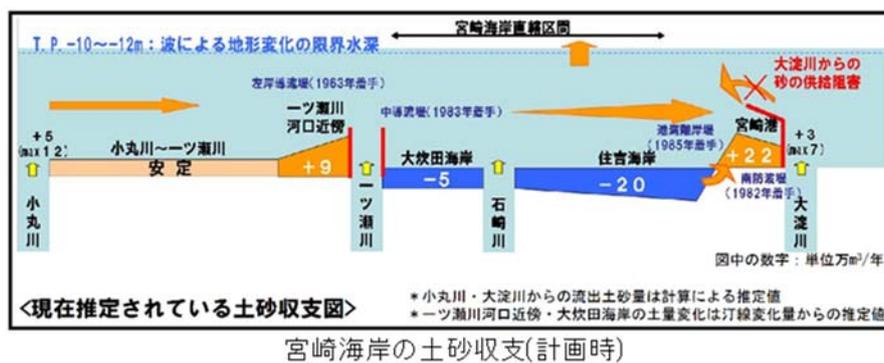
検討対象	計画検討の前提条件	外力関係 : 2018 (H30) 年 1 月 ~ 12 月 漂砂関係 : 2018 (H30) 年度
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潮位観測は、宮崎港湾・空港湾整備事務所のデータを活用することにより、効率化を図っている。 	
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネダノ瀬沖の定点波浪流況連続観測は、観測開始からの時間経過は 9 年間程度と短く、統計的な信頼度は高くない。このことから、宮崎海岸の計画検討の前提条件の妥当性を検証していくためには、他の観測地点 (青島沖、宮崎港防波堤沖) の過去の観測データを活用しつつ、ネダノ瀬沖において引き続き観測を行い、データの蓄積を図る必要がある。 ・ 2018 (H30) 年は、計画波高 (11.6m) と同程度の波が観測された。これにより、年数回波高は指標設定範囲を上回り、来襲した波のエネルギー (土砂を動かす力) も平年より大きかった。 ・ 2016 (H28) 年まで、エネルギー平均波の波向が計画値よりやや南側から入射する傾向が継続していたが、は、2017 (H29) 年は計画値に比べて若干北側からの波向であったが、2018 (H30) 年は指標設定範囲より若干南側からの波向であった。年変動が一定の傾向ではないため、今後も十分に注視することが必要である。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《市民意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 気候変動が激しく心配である。いまのうちに検討して備えることも考えて欲しい。(第 40 回市民談義所 2018 (H30) 年 7 月 27 日) ■ 最近の温暖化の傾向について考え方を提示していただきたい。(第 42 回市民談義所 2019 (R01) 年 7 月 25 日) </div>	
今後の検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸保全施設の設計諸元となる波浪、潮位、将来予測計算の境界条件としている河川流出土砂量、沖合への土砂流出、飛砂については、計画変更が必要となるような兆候が見られなかったが、データの蓄積が不十分であることや土砂動態は解明されていないことなどを踏まえ、引き続き注視していく必要がある。 ・ 地球規模では、今後、海面上昇等の気候変動の影響が生じることが予測されているが、これらの将来予測には時期や程度に相当な幅があることや、宮崎海岸に対しての影響は把握できていないことから、データを蓄積し、今後新たな知見が得られたときに適宜モデル等の見直しを行うものとする。 ・ エネルギー平均波の波向が計画値とやや異なる傾向が確認されたが、長期的に波向が変化したと現時点では判断できないため、計画変更の必要性は判断できない。 ・ 高波浪の来襲やエネルギー平均波向には年変動が見られるが、計画検討の前提条件の変更が必要となる現象は認められない。 <p>・ 以上のことから「計画検討の前提条件」は、調査結果を特に注視し継続して使用することができるとした。</p>	
評 価	<p>調査結果を注視し、前提条件の使用を継続</p>	
	<p style="text-align: center;">調査結果を特に注視し、前提条件の使用を継続</p> <p>主な理由 : 来襲する波のエネルギーおよびその方向に年変動が見られるが、現時点で土砂の移動方向が想定と異なるような変化傾向は見られない。なお、計画波高 (11.6m) と同程度の波が観測され、2017 (H29) 年に計画値に比べ若干北側からとなっていたエネルギー平均波の波向が計画値よりやや南側から入射する傾向が平成 28 年まで継続していたが、平成 29 年は、計画値より若干北側からとなった。は、2018 (H30) 年は指標設定範囲より若干南側からの波向であった。この点を特に注視しつつ観測を継続する。</p> <p style="text-align: center;">前提条件の継続使用を保留</p>	

3.2 養浜の評価

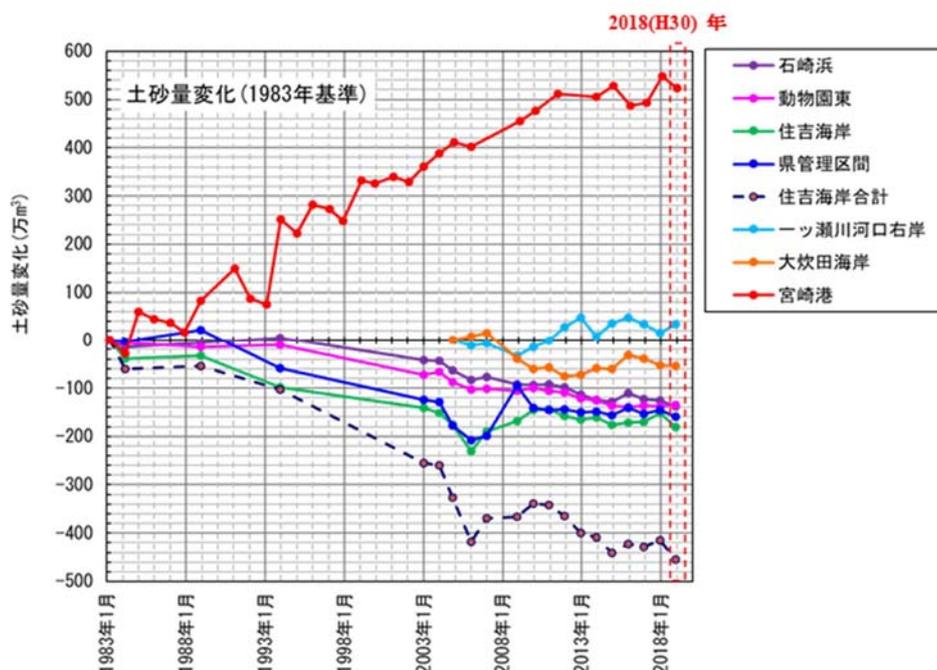
- ▶ 北からの流入土砂を増やす当面の土砂供給として、2008(H20)～2016(H28)年度までに 112.0 万 m³ の養浜を実施している。2017(H29)年度の養浜は、大炊田、動物園東に計 8.7 万 m³、2018(H30)年度の養浜は、大炊田、石崎浜、動物園東、住吉に計 9.9 万 m³ を実施した。
- ▶ 2017(H29)年度までの事業に対し、2018(H30)年度の調査結果を踏まえた、養浜の年次評価票を表－ 3.2 に示す。

(1) 主な効果と影響

- ▶ 1983(S58)年から 2018(H30)年までの約 36 年間の土砂量変化は、住吉海岸(直轄住吉地区：石崎浜～住吉突堤間)では約 454 万 m³ (前年比 38 万 m³ の減少)の侵食、宮崎港では約 524 万 m³ (前年比 24 万 m³ の減少)の堆積である。



宮崎海岸の土砂収支(計画時)



図－ 3.5 宮崎海岸周辺の土砂量変化

- 浜幅の変化状況を確認した結果、直轄事業着手後の2009(H21)年以降、宮崎海岸北側のニツ立では増加傾向、大炊田では2014(H26)年頃から横ばい若しくはやや増加傾向である。
- 石崎浜～動物園東では、2014(H26)年頃まで続いていた減少傾向が鈍化し、近年は横ばい傾向、住吉海岸(離岸堤区間)では2009(H21)年以降、横ばい傾向である。
- 区間①～⑦の浜幅は8m～68m(平均37m)であった。

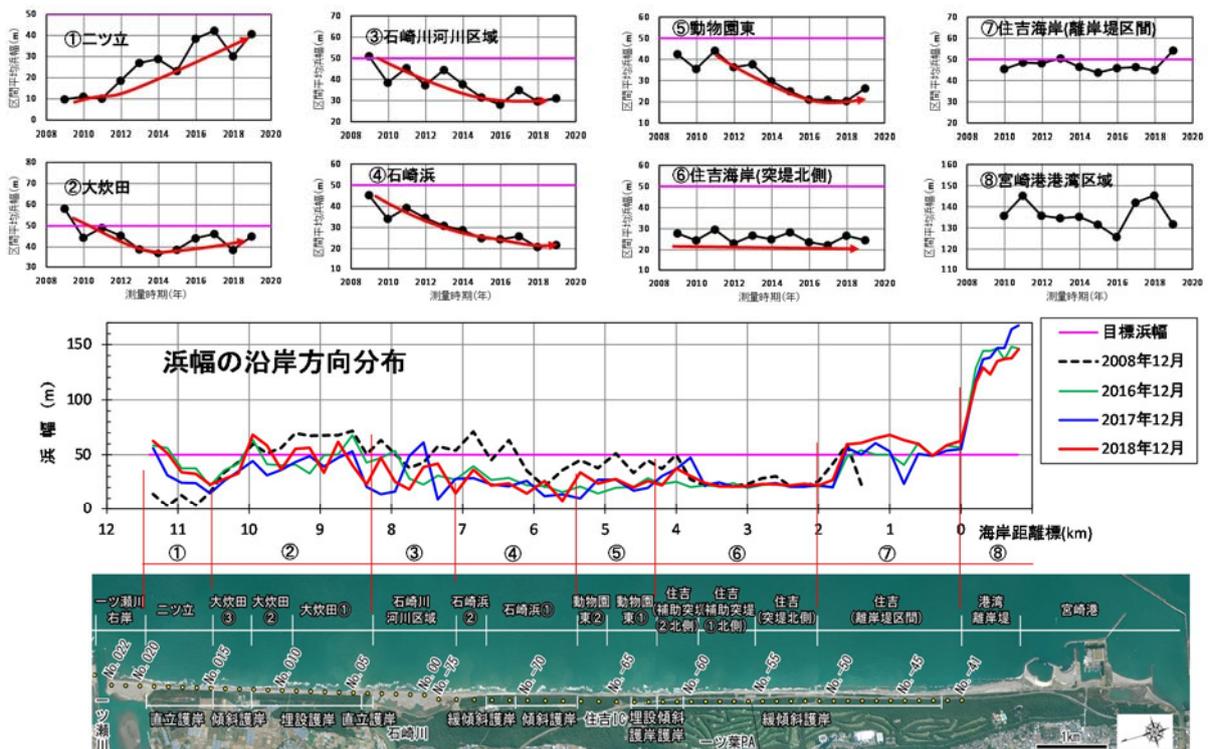
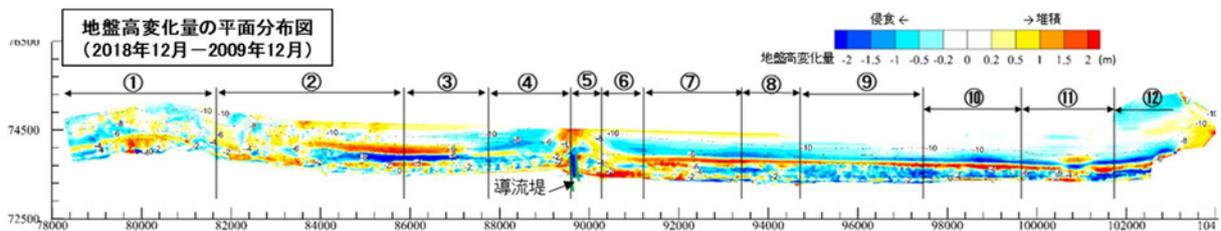
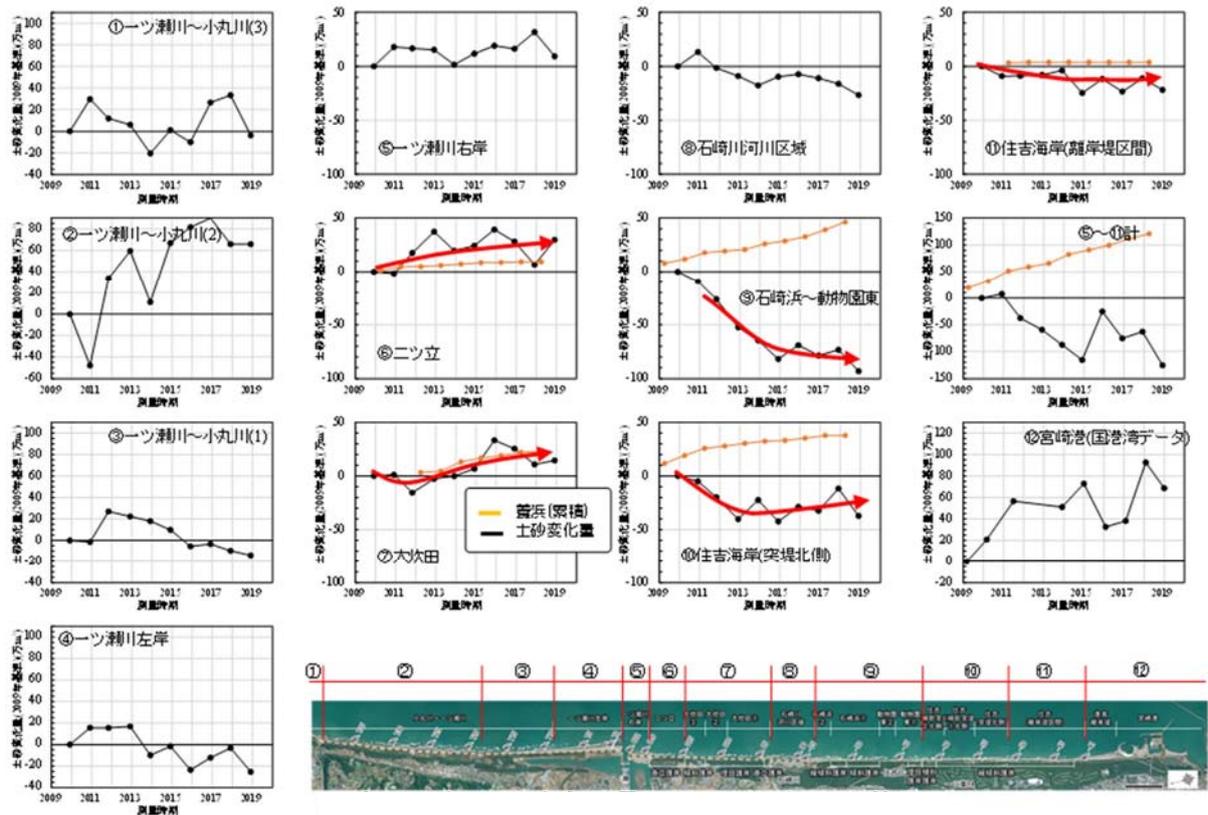


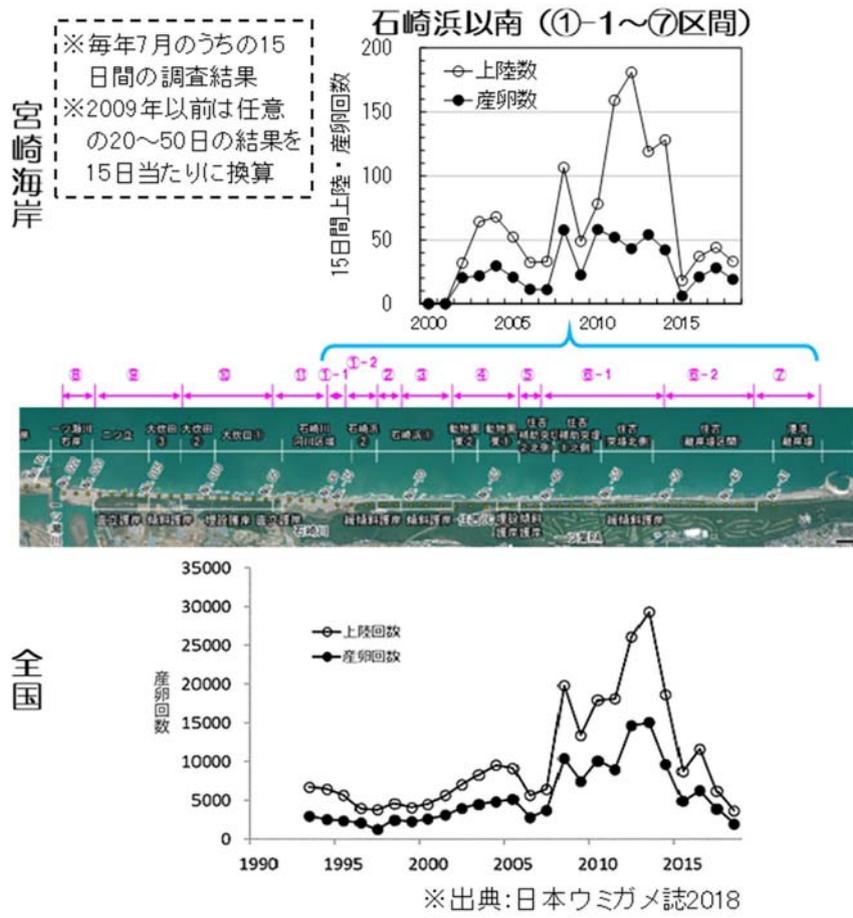
図 3.6 浜幅の変化状況

- ▶ 詳細な測量データを用いて海中部(沖合約 1km, T.P.-10m 程度以浅)も含めた土砂量の変化状況を確認した結果、直轄事業着手後の 2009 (H21)年以降、宮崎海岸北側（一ツ瀬川右岸～大炊田）は堆積もしくは維持傾向である。
- ▶ 石崎浜～住吉海岸(突堤北側)では 2014(H26)年頃まで続いていた侵食傾向が鈍化し、近年は横ばいもしくはやや回復傾向を示している。
- ▶ 前回から(2017(H29)年と 2018(H30)年)ニツ立では堆積、石崎浜～住吉海岸では侵食となっている。

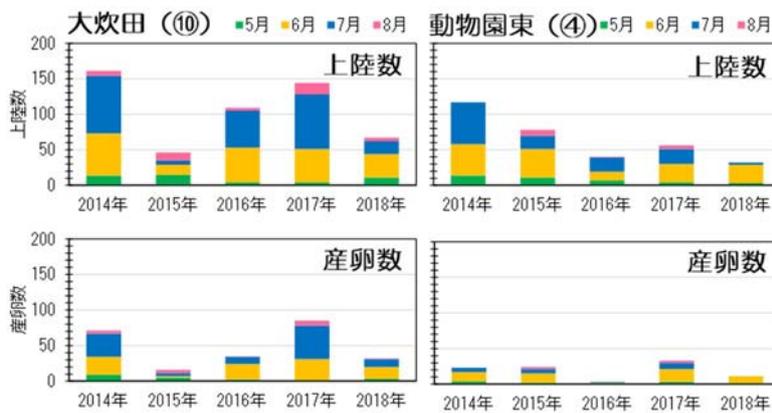


図－ 3.7 沿岸区分毎の土砂変化量 (2009 (H21) 年 12 月基準)

- ▶ アカウミガメの上陸状況や産卵状況を確認した結果、2018 (H30) 年のアカウミガメの産卵状況は、7月の15日間調査（石崎浜～一ツ葉）でみると、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少した。
- ▶ 産卵期全期間（5～8月）の宮崎海岸全体（一ツ瀬南～一ツ葉）では、上陸322回と産卵173回が確認された。そのうち、埋設護岸設置範囲に99回の上陸と43回の産卵が確認された。埋設護岸設置範囲の産卵のうち、約70%(30回)が埋設護岸上や陸側であった。
- ▶ 上陸・産卵数は前年より減少しているが、これは全国的な傾向と類似している。



埋設護岸区間(計画も含む)の上陸・産卵数



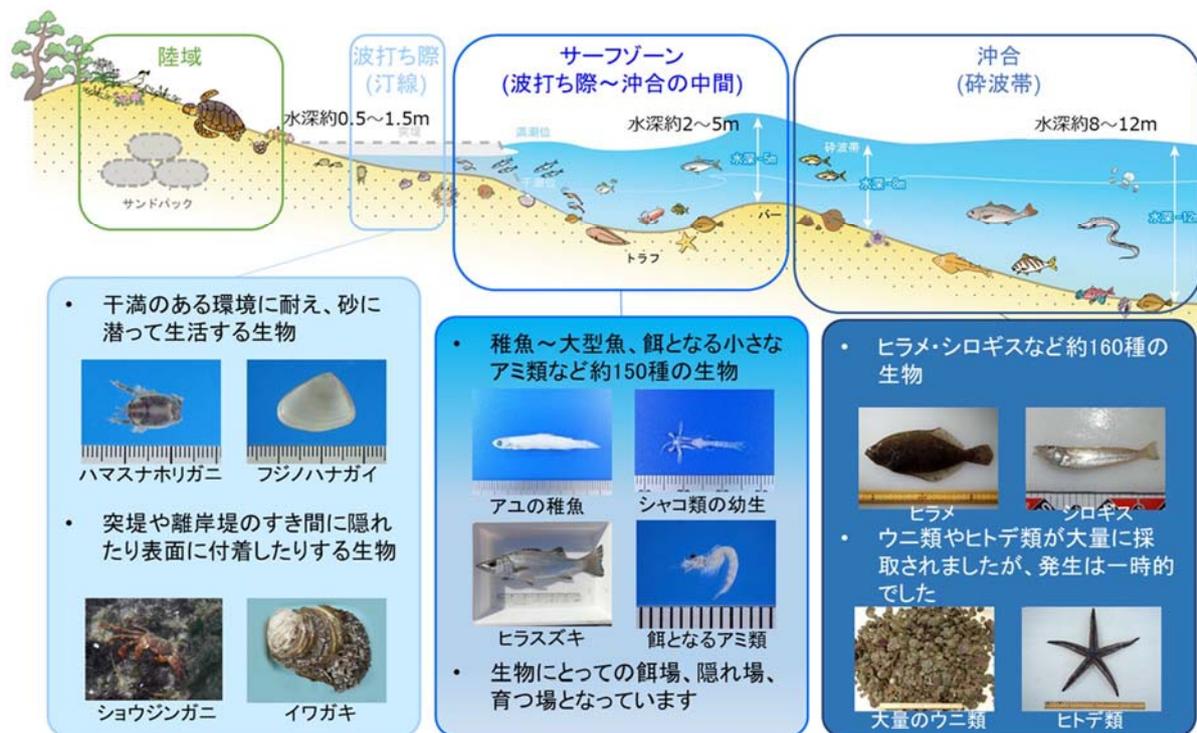
図一 3.8 アカウミガメの上陸・産卵状況

- ▶ 埋設護岸の覆土養浜材には良質な砂を使う工夫や、陸側の締まった砂をほぐすなどの工夫を実施している。
- ▶ 令和元年は5～6月までに宮崎海岸全体（一ツ瀬南～一ツ葉）で135回の上陸、76回の産卵が確認されている（速報値）。
- ▶ 令和元年6月23日22時半頃に、大炊田海岸でアオウミガメの上陸・産卵が確認された。アオウミガメの上陸・産卵・帰海行動を個体とともに確認した事例は、宮崎県では初めてである。



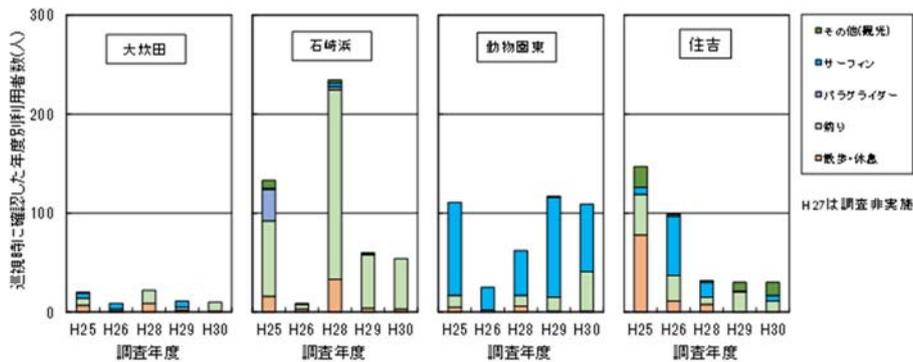
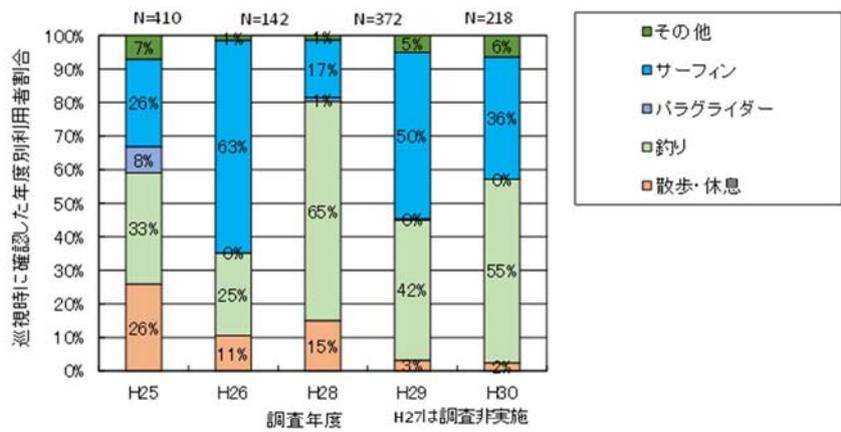
写真－ 3.1 埋設護岸上でのアカウミガメの産卵状況例

- ▶ 海域における魚介類の生息状況を確認した結果、波打ち際から沖合までの海域では、サーフゾーンで約 150 種、沖合で約 160 種の生物を確認するなど、前回までと同様に多様な種が確認された。



図－ 3.9 海域の自然環境調査結果概要

- 海岸の利用形態と利用者数を確認した結果、2018(H30)年4月～2019(H31)年3月の海岸巡視時の目視調査によると、釣り、サーフィンの順で利用が多かった。
- サーフィンは動物園東での利用が特に多かった。釣りは石崎浜周辺および動物園東で多いが海岸全体で見られた。



図一 3.10 海岸巡視による利用者調査

- 埋設護岸の設置、砂浜の回復によって 2017(H29)年に復活した浜下り神事が、2018(H30)も引き続き実施された。
- なお、2019(RI)年も実施されている。

2018 (H30) 年の実施状況

○新名爪八幡神社
平成30年7月29日(日) 動物園東地区 約50名参加



○島之内八幡神社
平成30年8月5日(日) 動物園東地区 約50名参加



※下田島神社も6月30日に大炊田地区で浜下りを予定していたが台風のため中止

2019 (R1) 年の実施状況

○島之内八幡神社
令和元年8月4日(日) 動物園東地区 約50名参加




※満潮と台風8号の影響による高波浪が重なり、波打ち際の清め砂採取は行われなかった。

※このほか、下田島神社(大炊田地区)は6月30日、新名爪八幡宮は7月14日にそれぞれ浜下りを予定していたが、悪天候のため中止

写真－ 3.2 浜下り神事の様子

(2) 課題

- 長期的に見ると、特に石崎浜～住吉地区で浜幅の減少は深刻である。浜幅を回復するために更なる養浜の推進により、海浜全体の土砂量を回復する必要がある。
- 養浜は年間侵食量 20 万 m³ に対する対応としては十分ではなく、突堤も延長 75m で先端水深は T.P.-2～-3m 程度であり、沿岸漂砂を捕捉するに十分な水深までの施工となっていない。また、養浜のみの実施では現状維持も困難となっている。
- 宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やす流砂系における総合土砂管理の取り組みについては、具体的な成果を出せる段階に到達していない。
- 夏季に南からの波浪が卓越すると北向きの漂砂が卓越するため、時期によっては漂砂の卓越方向の逆転が起こることを想定して養浜を実施していくことも必要である。
- 埋設護岸区間でサンドバックが露出した箇所ではアカウミガメが産卵できない状況もみられる。適切な養浜を実施する必要がある。

(3) 今後の対策の方向性

- 投入土砂量が全体養浜事業量 280 万 m³ に対して絶対的に不足しているため、養浜量を増やして継続していくとともに、南への流出土砂を減らす突堤を早急に整備する。
- 動物園東における侵食の進行を抑制することが必要である。
- 養浜材の確保については様々な機関との連携が図れているが、必要とされる養浜量が多いことからさらなる連携により効率的に事業を進めていくことが必要である。また、中長期的な課題となっている宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やすために、流砂系における総合土砂管理の取り組みを関係機関と連携し、一刻も早く具体的に推進していくことが必要であり、今後、更なる養浜の推進および将来の維持養浜に向けたサンドバイパス、サンドバックパスの検討を行う。先行し、北側からの流入土砂量を増やすためのサンドバイパスの試験施工を関係機関と協力し実施する。
- 養浜の実施においては、沿岸漂砂の上手となる北側からの効率的な投入、台風来襲時には北側への沿岸漂砂が卓越する現象、侵食が進む脆弱箇所（大炊田海岸、石崎浜、動物園東、住吉突堤設置区間）を見据えた効果的な投入が必要と考えられる。
- 埋設護岸設置区間については、サンドバックの露出や養浜そのものが環境・利用の妨げにならないように養浜を実施していく必要がある。
- 以上のことから、対策の内容（投入場所の精査、投入量の増加、養浜材の質）の修正・工夫を行い、事業を継続していくことが妥当であると考えている。

表－ 3.2(1) 評価（養浜）その 1

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票案で追記更新

評価対象		養 浜	～2017(H29)年度*
対策の概要	目的	・北からの流入土砂を増やす当面の土砂供給として養浜を行い、近年、侵食が著しい大炊田海岸、動物園東の応急対策を行うとともに砂浜を維持、回復させる。	
	背景・経緯	・長期的に侵食が進行している中で、石崎浜～動物園東の侵食進行と、住吉海岸の侵食（砂浜消失状態の継続）が顕著である。	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・養浜量は 8.7 万 m³ である。投入箇所及び採取箇所等の内訳は下記のとおり。 ○一ツ瀬川河口右岸（一ツ瀬川河口航路浚渫主砂） ○大炊田（サンビーチ整地主砂、宮崎港マリーナ浚渫主砂、川南漁港掘削主砂、大淀川河口仮置主砂、小丸川掘削土砂、佐土原浄化センター掘削主砂） ○石崎浜（三財川掘削土砂、大淀川河口仮置主砂、天神川掘削主砂、小丸川掘削主砂） ○動物園東（宮崎港仮置土砂、三財川掘削土砂、大淀川河口仮置主砂、本庄川掘削主砂、サンビーチ整地主砂、石崎浜仮置土砂） ○住吉（サンビーチ整地主砂、宮崎港マリーナ浚渫主砂、宮崎港仮置主砂） ○住吉海岸沖（宮崎港マリーナ浚渫主砂） 	
地元要望	<ul style="list-style-type: none"> ・下記の地元要望が挙げられている。 ○宮崎海岸侵食対策事業促進期成同盟会（2018(H30)年 6 月、10 月） 要望内容：・宮崎海岸における直轄海岸保全施設整備事業の推進を図ること。 ・本事業の推進に向け、継続的な予算の確保を図ること。 ○九州治水期成同盟連合会（2018(H30)年 7 月） 要望内容：宮崎海岸の侵食被害を防ぐ海岸保全施設の整備 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>《市民意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■サーフィン、釣り等、利用者が多くなっているように感じる。 (第 40 回市民談義所 2018(H30)年 7 月 27 日) ■砂浜 50m の復元を、1 日も早く実現してほしい。 ■一ツ瀬川導流堤沖側の土砂を浚渫して、養浜材として使用してほしい。 ■北から流入する土砂を増やすことについて、総合土砂管理の中で検討してもらいたい。 (第 41 回市民談義所 2018(H30)年 11 月 9 日) ■大炊田海岸は砂が付きはじめている。良い傾向。 (第 42 回市民談義所 2019(R01)年 7 月 25 日) </div>		

※2018(H30)年度に実施した対策も一部含む

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票素案で追記更新

表－ 3.2(2) 評価（養浜）その2

評価対象		養 浜	～2017 (H29) 年度*
対策実施による効果・影響	定量評価	地形	・宮崎海岸北側に位置する二ツ立・大炊田の一部区間では浜幅・土砂量回復が見られ、石崎浜以南の区間では侵食抑制効果および土砂量の回復傾向が見られる【本資料図－ 3.6, 図－ 3.7, 参考資料 1 p6-20～45】。
		環境	・アカウミガメの上陸・産卵は、全体的に前年より増加した。特に大炊田地区は浜幅の回復・維持傾向が寄与しつつあると考えられる【本資料図－ 3.8, 参考資料 1 p4-145～146, p6-78～83】。 ・海域における魚介類の生息状況を確認した結果、波打ち際から沖合までの海域では、サーフゾーンで約 150 種、沖合で約 160 種の生物を確認するなど、前回までと同様に多様な種が確認された。養浜事業との関連性は明らかではないが、養浜を実施した大炊田海岸、動物園東、住吉海岸において、幼稚仔、底生生物、魚介類の出現状況に著しい変化は認められなかった【本資料図－ 3.9, 参考資料 1 p6-63～82】。
		利用	・定量的な調査は実施していないが、海岸巡視時の目視による調査結果によると、石崎浜(釣り)および動物園東(サーフィン)の利用者が多く、多様な利用があることを確認した【本資料図－ 3.10】。
		地形	・石崎浜以南において、浜幅が狭い状況が継続している【本資料図－ 3.6, 参考資料 1 p6-20】。
	影響	環境	・養浜との関係性は不明であるが、コアジサシの営巣が確認できなかった【参考資料 1 p6-87～88】。 ・アカウミガメについて、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少しているが、これは全国的な傾向と類似している。なお、動物園東は上陸・産卵ともに回復が見られない。浜幅が狭いことや埋設護岸等の工事が上陸・産卵に影響している可能性がある【本資料図－ 3.8, 参考資料 1 p6-89～92】。
		利用	・定量的な調査は実施しなかった。
		効果	・サンドバック覆土時には、良好な砂浜景観が形成されていた【本資料写真－ 3.1, 巻末状況写真】。 ・大炊田海岸で最近ハマグリ、キサゴが見られるようになった【第 36 回市民談義所での市民意見】。 ・埋設護岸の設置、砂浜の回復によって浜下り神事が復活した【本資料写真－ 3.2】。
	定性評価	影響	・大炊田埋設護岸上等の養浜箇所で降雨時にガリ侵食が生じる【巻末状況写真】。
	効率性	・養浜土砂の調達は、漁港・道路・河川・港湾事業と連携して実施している。	
	計画全体に対する進捗	計画全体数量	280 万 m ³
2017 (H29) 年度		8.7 万 m ³	
直轄化以降 (2008 (H20)～2017 (H29) 年度)		120.7 万 m ³ * うち、35.8 万 m ³ は住吉海岸への海中養浜、 3.8 万 m ³ は住吉海岸離岸堤裏への投入	
計画策定以降 (2011 (H23)～2017 (H29) 年度)		69.2 万 m ³ * うち、10.0 万 m ³ は住吉海岸への海中養浜、 0.6 万 m ³ は住吉海岸離岸堤裏への投入	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的に見ると、特に石崎浜～住吉地区で浜幅の減少は深刻である。浜幅を回復するために更なる養浜の推進により、海浜全体の土砂量を回復する必要がある。 ・養浜は年間侵食量 20 万 m³ に対する対応としては十分ではなく、突堤も延長 75m で先端水深は T.P.-2～-3m 程度であり、沿岸漂砂を捕捉するに十分な水深までの施工となっていない。また、養浜のみの実施では現状維持も困難となっている。 ・宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やす流砂系における総合土砂管理の取り組みについては、具体的な成果を出せる段階に到達していない。 ・夏季に南からの波浪が卓越すると北向きの漂砂が卓越するため、時期によっては漂砂の卓越方向の逆転が起こることを想定して養浜を実施していくことも必要である。 ・埋設護岸区間でサンドバックが露出した箇所ではアカウミガメが産卵できない状況もみられる。適切な養浜を実施する必要がある。 		
今後の対策の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・投入土砂量が全体養浜事業量 280 万 m³ に対して絶対的に不足しているため、養浜量を増やして継続していくとともに、南への流出土砂を減らす突堤を早急に整備する。 ・動物園東における侵食の進行を抑制し、砂丘の後退を防止することが必要である。 ・養浜材の確保については様々な機関との連携が図れているが、必要とされる養浜量が多いことからさらなる連携により効率的に事業を進めていくことが必要である。また、中長期的な課題となっている宮崎海岸への北からの土砂の供給を増やすために、流砂系における総合土砂管理の取り組みを関係機関と連携し、一刻も早く具体的に推進していくことが必要であり、今後、更なる養浜の推進および将来の維持養浜に向けたサンドバイパス、サンドバックパスの検討を行う。先行し、北側からの流入土砂量を増やすためのサンドバイパスの試験施工を関係機関と協力し実施する。 ・養浜の実施においては、沿岸漂砂の上手となる北側からの効率的な投入、台風来襲時には北側への沿岸漂砂が卓越する現象、侵食が進む脆弱箇所(大炊田海岸、石崎浜、動物園東、住吉突堤設置区間)を見据えた効果的な投入が必要と考えられる。 ・埋設護岸設置区間については、サンドバックの露出や養浜そのものが環境・利用の妨げにならないように養浜を実施していく必要がある。 <p>以上のことから、対策の内容(投入場所の精査、投入量の増加、養浜材の質)の修正・工夫を行い、事業を継続していくことが妥当であると考えられる。</p>		
評価	対策は順調に進んでおり工法を継続		
	<p>対策は概ね順調に進んでおり工法を継続</p> <p>主な理由：宮崎海岸全体で侵食進行の抑制効果が見られ、これまでに実施してきた養浜に一定の効果が見られる。一方、目標浜幅50mを確保するだけの回復には至っていないことから、養浜の投入場所の精査、投入量の増加、養浜材の質について修正・工夫した更なる養浜の推進が必要である。なお、アカウミガメの上陸・産卵回数は前年に比べてやや増えているため、引き続き適切な養浜の実施が必要である。</p>		
	対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留		

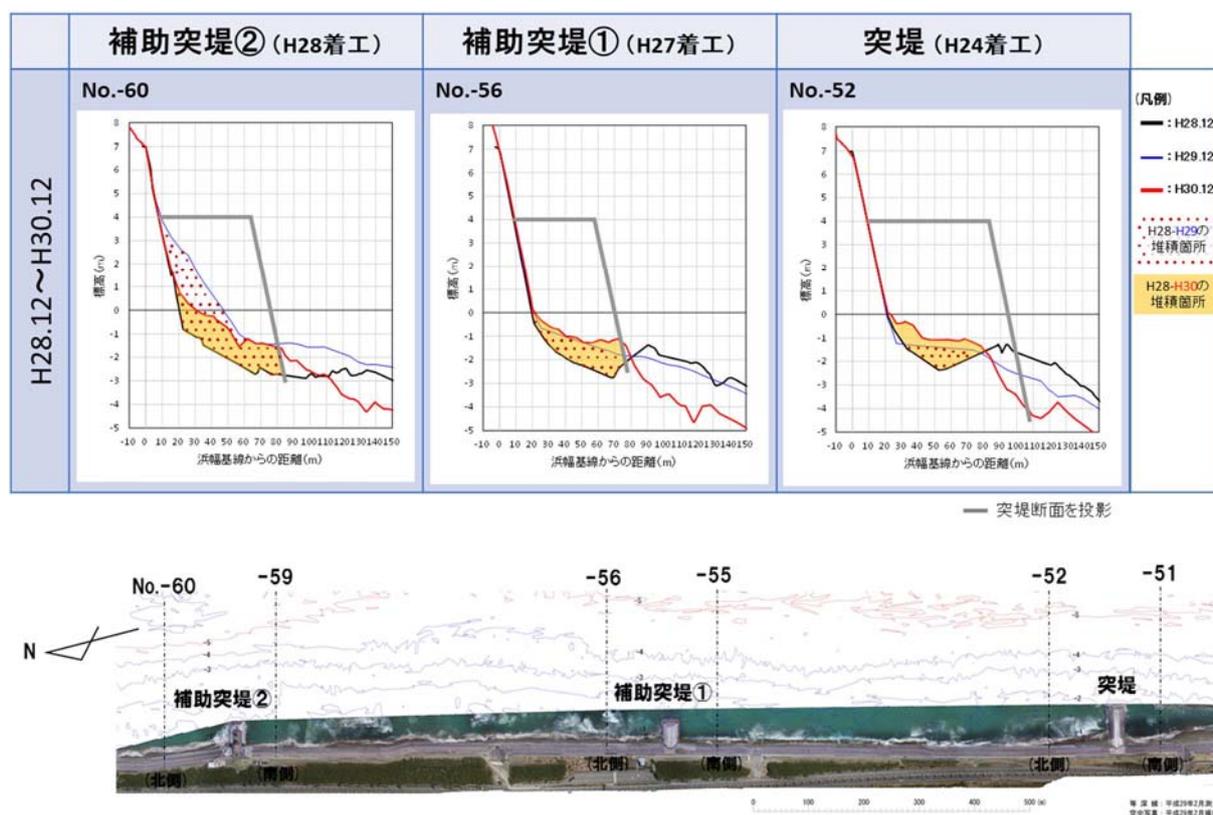
※2018 (H30) 年度に実施した対策も一部含む

3.3 突堤の評価

- 2017(H29)年度は、突堤の施工は実施していない。
- 2017(H29)年度までの事業に対し、2018(H30)年度の調査結果を踏まえた、突堤の年次評価票を表－ 3.3 に示す。

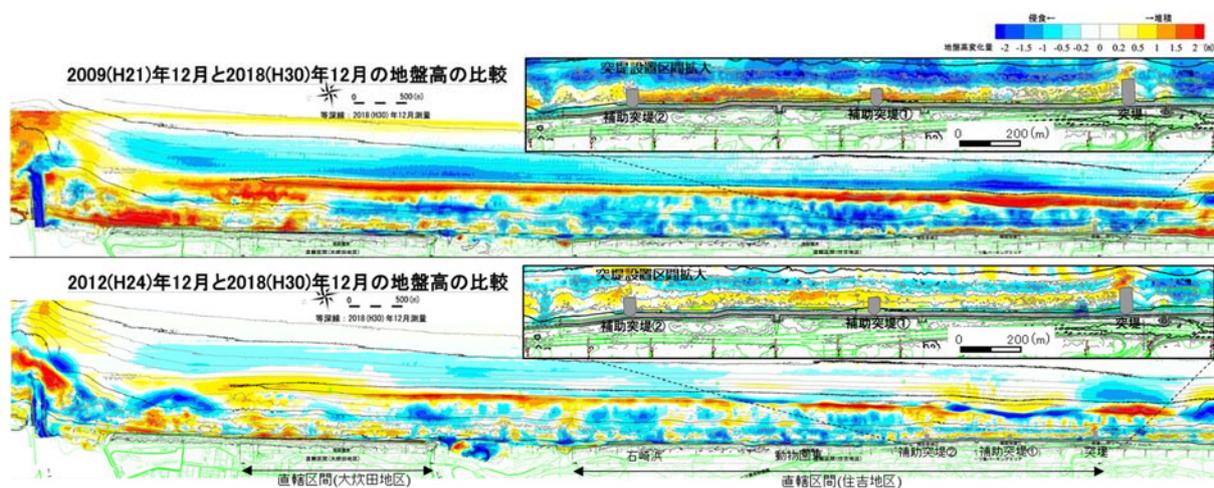
(1) 主な効果と影響

- 突堤の効果・影響を把握するために突堤周辺の断面地形の変化状況を確認した結果、前回、2016(H28) から 2017(H29)において各突堤の北側（突堤先端より陸側）で堆積が見られるとしていたが、今回（2018(H30)）は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっている。



図－ 3.11 突堤周辺の断面地形変化

- ▶ 詳細な測量データを用いて海中部(沖合約 1km, T.P.-10m 程度以浅)も含めた平面的な地盤高変化状況を確認した結果、直轄事業着手後の 2009 (H21) 年から 2018 (H30) 年及び突堤建設着手後の 2012 (H24) 年から 2018 (H30) 年の地盤高変化図をみると、海岸護岸、浜崖から約 500m 付近より沖側は侵食傾向、岸側は堆積傾向であることがわかる。
- ▶ 堆積傾向が顕著にみられるのは、海岸護岸、浜崖から 300m~450m 付近であり、突堤設置区間では、各突堤の北側で堆積傾向が確認できる。
- ▶ 一方、汀線付近は住吉海岸北側(動物園東付近)を中心に青色がみられ、未だ堆積傾向(砂浜回復)に至っていない。



図－ 3.12 地盤高変化量の平面分布

(2) 課題

- 2016(H28)年度末の整備済み延長は、突堤 L=75m（計画 L=300m）であり、沿岸漂砂上手側に補助突堤①L=42m（計画 L=150m）、補助突堤②L=50m（完成）が整備されたこともあり、突堤 L=75m 単体の漂砂の捕捉効果を明確に捉えることは困難であった。
- 現時点では下手側(南側)への影響は確認されていないものの、突堤の延伸は、南側に隣接する県管理区間の地形変化に影響を与える可能性があることに注視していく必要がある。
- 前回、2016(H28)～2017(H29)において各突堤の北側（突堤先端より陸側）で堆積が見られるとしていたが、今回、2017(H29)～2018(H30)は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっており、特に補助突堤②の北側で傾向の逆転（堆積傾向→侵食傾向）が見られた。
- 突堤の延伸に伴う漁業操業への影響について漁業者に確認しながら工事を進めていく必要がある。
- 工事期間以外には、突堤周辺でのサーフィン利用が見られる。また、緩傾斜護岸天端は年間を通じて散策者がおり、工事箇所周辺の安全管理が課題である。

(3) 今後の対策の方向性

- 引き続き、測量等による定量的な効果・影響把握、堤体の機能維持に努めるとともに、巡視等により突堤周辺の地形変化状況や利用状況等を確認していく必要がある。
- 長期的に北から南への土砂移動が生じていると考えられることから、南への流出土砂を減らす突堤による漂砂制御を推進する必要がある。
- 今後、2018(H30)年度に試験的に実施した川砂利、川砂などを用いた養浜による土砂供給と突堤のセットで砂浜回復を進めていく。
- 以上のことから、事業を継続していくことが妥当であると考ええる。

表－ 3.3(1) 評価（突堤）その 1

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票素案で追記更新

評価対象		突 堤	～2017 (H29) 年度*
対策の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> 効率的に海岸の土砂を回復させるため、北から南に動く養浜砂を直接止める（捕捉する）突堤を設置する。効果の早期発現のため、補助突堤を設置する。 	
	背景・経緯	<ul style="list-style-type: none"> これまでの土砂移動機構実態調査によると、宮崎海岸の土砂移動は、季節や年、波浪の来襲状況などにより、北に向かう場合と南に向かう場合の両方が考えられるが、総じて南に向かう土砂の移動が卓越する。 動物園東以南の区間は、宮崎海岸の中でも早期に侵食が進んだ箇所であり、護岸整備が完了している一方、前浜のない状態が続いている。 一方、事業開始以降、沿岸漂砂上手となる大炊田海岸や動物園東への養浜投入が継続されており、効率的に海岸の土砂を回復させる突堤の整備が必要となっている。 	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 突 堤：天端被覆プロットの設置工、延伸施工なし 2012 (H24) 年度施工 0～30m 2013 (H25) 年度施工 30～75m 補助突堤①：延伸施工なし 2016 (H28) 年度施工 0～42m 補助突堤②：延伸施工なし 2016 (H28) 年度施工 0～50m（完成） 	
	地元要望	<ul style="list-style-type: none"> 下記の地元要望が挙げられている。 ○宮崎海岸侵食対策事業促進期成同盟会（2018 (H30) 年 6 月， 10 月） 要望内容：・宮崎海岸における直轄海岸保全施設整備事業の推進を図ること。 ・本事業の推進に向け、継続的な予算の確保を図ること。 ○九州治水期成同盟連合会（2018 (H30) 年 7 月） 要望内容：宮崎海岸の侵食被害を防ぐ海岸保全施設の整備 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《市民意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■突堤をつくっても砂がついていないのではないか。 (第 36 回市民談義所 2017 (H29) 年 6 月 30 日) ■突堤を早く延伸して欲しい。 ■突堤を増やした方が良いのではないか。 ■突堤の構造は透過型の方が良いのではないか。 (第 40 回市民談義所 2018 (H30) 年 7 月 27 日) ■突堤を延伸しないと砂は止まらないのではないか。 (第 42 回市民談義所 2019 (R01) 年 7 月 25 日) </div>	

※2018 (H30) 年度に実施した対策も一部含む

表－ 3.3(2) 評価（突堤）その2

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票案で追記更新

評価対象		突 堤		～2017 (H29) 年度*	
対策実施による効果・影響	定量評価	効果	地形	<ul style="list-style-type: none"> ・砂浜消失が続く突堤近傍で一時的ではあるが砂浜が見られる【本資料図－ 3.11】。 ・住吉海岸(突堤北側)の区間の土砂量においては侵食抑制効果が見られ、最近では回復傾向の兆しが見られる【本資料図－ 3.7, 参考資料 1 p6-28～43】。 ・現状で汀線の回復までには至っていない突堤周辺であるが、沖合では堆積が見られる【本資料図－ 3.12, 参考資料 1 p6-30～31】。 	
			環境	<ul style="list-style-type: none"> ・突堤側面、正面には継続的に付着生物が確認されているが、2016(H28)年度に突堤の被覆ブロックの撤去・再設置をしているため、引き続き経過を確認していく必要がある【参考資料 1 p6-61～62】。 	
			利用	<ul style="list-style-type: none"> ・定量的な調査は実施していないが、海岸巡視時の目視による調査結果によると、石崎浜(釣り)および動物園東(サーフィン)の利用者が多く、多様な利用があることを確認した【本資料図－ 3.10】。 	
	影響	地形	<ul style="list-style-type: none"> ・海中も含めた土砂変化量は、過去から侵食傾向であり、浜幅の回復傾向にまでは至っていない【本資料図－ 3.6, 図－ 3.7, 参考資料 1 p6-28～43】。 ・突堤周辺の沖合では堆積が見られるが、砂浜の再生までには至っていない。これは沿岸漂砂上手側の補助突堤を設置したことによる沿岸漂砂捕捉効果の影響の可能性とも考えられるため、引き続き経過を確認していく必要がある【本資料図－ 3.11, 参考資料 1 p6-30～31】。 ・住吉海岸の離岸堤区間に対しては、突堤の施工延長が短く、設置水深も浅いため、目に見える明らかな影響は確認されない。【参考資料 1 p6-52～53】 		
			環境	<ul style="list-style-type: none"> ・突堤側面、正面には継続的に付着生物が確認されているが、変動が大きく、突堤整備との関係性は明らかではないが、引き続き経過を確認していく必要がある【参考資料 1 p6-61～62】。 	
			利用	<ul style="list-style-type: none"> ・定量的な調査は実施しなかった。 	
			効果	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の堆砂状況が継続している状況にはないが、突堤の上手側の基部に砂の堆積がみられる状況は確認された【巻末状況写真】。 	
	定性評価	影響	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち入り禁止の突堤の上で釣りをしている人がいる【第 37 回市民談義所での市民意見】。 		
			効果	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の堆砂状況が継続している状況にはないが、突堤の上手側の基部に砂の堆積がみられる状況は確認された【巻末状況写真】。 	
	効率性		<ul style="list-style-type: none"> ・堤体基部の法先補強に、設置に伴い撤去した既設護岸の根固ブロックを再利用。 ・突堤中詰め材への発生材の再利用を検討。 		
計画全体に対する進捗			補助突堤②	補助突堤①	突堤
		計画全体数量	50m	150m	300m
		2017 (H29) 年度	0m	0m	0m
		2017 (H29) 年度まで	50m	42m	75m
課題		<ul style="list-style-type: none"> ・2017(H29)年度末の整備済み延長は、突堤 L=75m(計画 L=300m)であり、沿岸漂砂上手側に補助突堤① L=42m(計画 L=150m)、補助突堤②L=50m(完成)が整備されたこともあり、突堤 L=75m 単体の漂砂の捕捉効果を明確に捉えることは困難であった。 ・現時点では下手側(南側)への影響は確認されていないものの、突堤の延伸は、南側に隣接する県管理区間の地形変化に影響を与える可能性があることに注視していく必要がある。 ・前回、2016(H28)～2017(H29)において各突堤の北側(突堤先端より陸側)で堆積が見られるとしていたが、今回、2017(H29)～2018(H30)は、補助突堤②の北側で若干の侵食、補助突堤①及び突堤の北側で若干の堆積となっており、特に補助突堤②の北側で傾向の逆転(堆積傾向→侵食傾向)が見られた。 ・補助突堤②よりも南側の範囲は、突堤の設置範囲より陸側で堆積は見られるものの、海中部の堆積にとどまっている。 ・本突堤 75m より短い、堤長 50m の補助突堤②の北側で砂浜が見られるような堆積が生じている。これは、補助突堤②の北側には砂浜があるが、突堤の北側には砂浜がないことがひとつの要因と考えられる。 ・突堤の延伸に伴う漁業操業への影響について漁業者を確認しながら工事を進めていく必要がある。 ・工事期間以外には、突堤周辺でのサーフィン利用が見られる。また、緩傾斜護岸天端は年間を通じて散策者があり、工事箇所周辺の安全管理が課題である。 			
今後の対策の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、測量等による定量的な効果・影響把握、堤体の機能維持に努めるとともに、巡視等により突堤周辺の地形変化状況や利用状況等を確認していく必要がある。 ・長期的に北から南への土砂移動が生じていると考えられることから、南への流出土砂を減らす突堤による漂砂制御を推進する必要がある。 ・今後、2018(H30)年度に試験的に実施した川砂利、川砂などを用いた養浜による土砂供給と突堤のセットで砂浜回復を進めていく。 ・以上のことから、事業を継続していくことが妥当であると考える。 			
評価		対策は順調に進んでおり工法を継続			
		対策は概ね順調に進んでおり工法を継続			
		<p>主な理由：突堤群の設置範囲(陸側)でも若干の土砂量の回復が見られ、突堤近傍では一時的ではあるが砂浜も見られるようになってきた。ただし、砂浜の回復にまでは至っておらず、現在の堤長では沿岸漂砂を捕捉する効果を十分に発揮するには短いと考えられる。</p>			
		対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留			

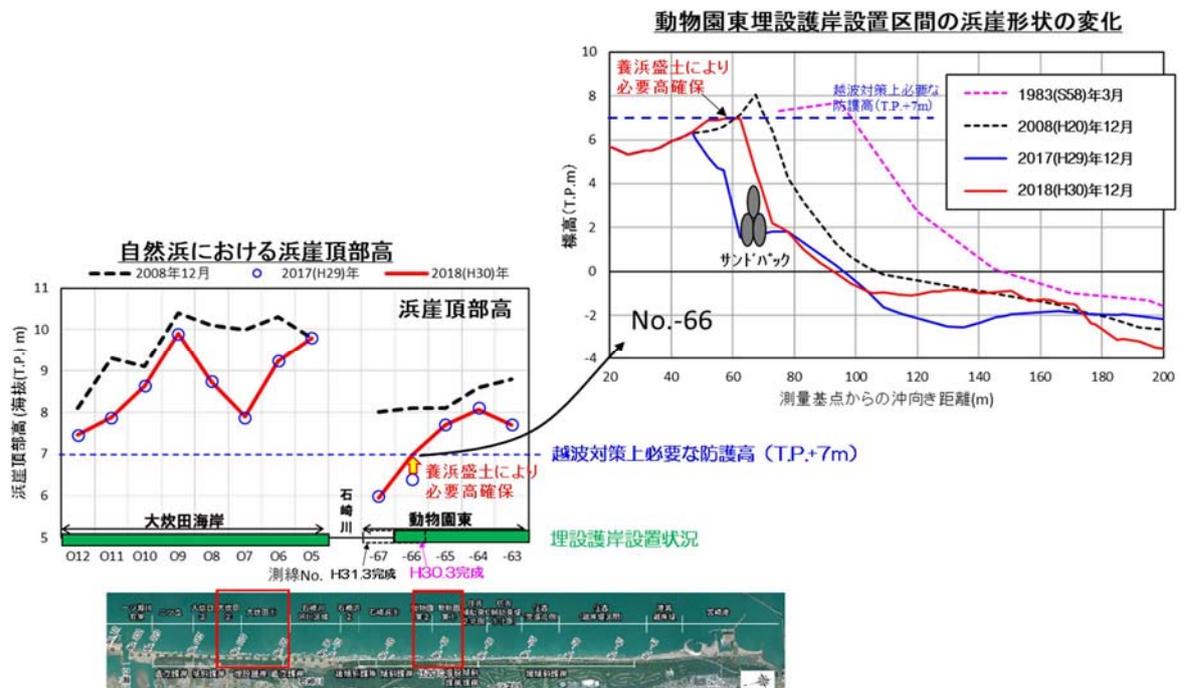
※2018 (H30) 年度に実施した対策も一部含む

3.4 埋設護岸の評価

- 2017(H29)年度は、動物園東地区で0.22kmの埋設護岸の施工、大炊田地区で0.02kmの埋設護岸の補修を実施している。なお、2017(H29)年度までに動物園東で0.94km、大炊田地区で1.6km（KDDIタワー前面の20m程度区間は袋詰玉石で仮設施工済み）の埋設護岸が整備されている。
- 2017(H29)年度までの事業に対し、2018(H30)年度の調査結果を踏まえた、埋設護岸の年次評価票を表ー3.4に示す。

(1) 主な効果と影響

- 埋設護岸設置箇所・設置予定箇所において浜崖頂部が対策上必要な高さを有しているかを確認した結果、2018(H30)年の埋設護岸設置区間の浜崖頂部の天端高はT.P.+7.0~+9.9mであり、2017(H29)年から浜崖後退・頂部高の低下は生じていなかった。
- 2018(H30)年に、動物園東地区で新たにNo.-66区間を整備し、天端高T.P.+7mを確保した。
- 残っていたNo.-67区間は2019(H31)年3月に整備済みである。



図ー 3.13 浜崖頂部高の変化および動物園東埋設護岸設置区間の浜崖形状の変化

- ▶ 大炊田の陸域では埋設護岸設置後の砂浜回復により、陸生型のギョウギシバ等の植物が生育し、生育範囲が広がった。海浜性植物は、オニシバ、コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ等が確認された。
- ▶ その他の箇所は、概ね例年通りであった。



図－ 3.14 陸域（大炊田）の自然環境調査結果概要

- 埋設護岸等の施設の異常や、浜崖侵食の有無等を確認した結果、2018(H30)年の目視点検によると、大炊田地区・動物園東地区ともにサンドバックが露出した時期・区間はあったものの、背後の浜崖侵食は生じなかった。



大炊田地区北端側

動物園東地区南端側



(2018年11月5日(波高11.7m来襲後)撮影)

写真－ 3.3 海岸巡視等による埋設護岸等の施設の異常や浜崖侵食の有無の確認

(2) 課題

- 2015(H27)年までの埋設護岸の変状の根本的な原因は、サンドパック前面の砂浜が狭くなったことである。早急な砂浜の回復や緊急時の速やかな養浜実施が課題である。
- 砂浜回復に向けた事業半ばであることから、侵食傾向の大きい動物園東を中心に、波浪によりサンドパックが露出する状況がみられる。

(3) 今後の対策の方向性

- 埋設護岸設置により、浜崖の後退・浜崖頂部高の低下を抑制する効果は確認されるとともに端部処理や急激な侵食への対応が課題となった。端部については、ストック養浜等により対応していく。
- サンドパックが露出した場合には、緊急養浜を行う等の対応を進めていく。
- 対策の実施にあたっては、工事の内容も含めて市民への丁寧な情報提供をしていく。
- 引き続き、測量および海岸巡視等で施設および背後の浜崖の状態を確認しながら機能維持に努める。
- 埋設護岸区間のアカウミガメ産卵回復に寄与する対応を検討・実施していく。
- 養浜と突堤による砂浜回復を推進するとともに、学識者や地元環境保護団体と協力し、適正な維持・管理に努める。
- 以上のことから、事業を継続していくことが妥当であると考える。

表－ 3.4(1) 評価（埋設護岸）その 1

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票素案で追記更新

評価対象		埋設護岸	～2017(H29)年度*
対策の概要	目的	<ul style="list-style-type: none"> 越波・浸水の防止に対し、自然堤防として重要な役割を果たす砂丘の高さを確保するため、高波浪が来襲した時の浜崖の後退を抑制する埋設護岸を設置する。 	
	背景・経緯	<ul style="list-style-type: none"> 護岸が設置されていない自然浜の区域は、動物園東、石崎浜及び大炊田海岸であり、そのうち、浜崖の後退が顕著であるのは、動物園東、大炊田海岸である。そのため、浜崖後退を抑制する対策の実施範囲は、動物園東（延長 1.1km）および大炊田海岸（延長 1.6km）とする【2011(H23)年 7 月 17 日第 6 回技術分科会】。 宮崎海岸侵食対策の埋設護岸については、「できるだけコンクリート以外の材料を使う」という方針に基づき、2013(H25)年 8 月 12 日の第 8 回技術分科会において、埋設護岸の工法選定及び基本設計について検討し、同 9 月 18 日の第 12 回侵食対策検討委員会で「埋設護岸にサンドパックを使う」こと及び「サンドパックの表面を養浜で覆う」ことの 2 点が了承された。 サンドパックは本施工としては全国初の取り組みであり、十分に確認しながら実施することが必要であるため、各種モニタリングを行い、必要に応じて改善することとしている。 	
	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 大炊田：新設なし(0.02km 補修) 動物園東：0.22km 	
	地元要望	<ul style="list-style-type: none"> 下記の地元要望が挙げられている。 <ul style="list-style-type: none"> ○宮崎海岸侵食対策事業促進期成同盟会(2018(H30)年 6 月, 10 月) 要望内容：・宮崎海岸における直轄海岸保全施設整備事業の推進を図ること。 ・本事業の推進に向け、継続的な予算の確保を図ること。 ○九州治水期成同盟連合会(2018(H30)年 7 月) 要望内容：宮崎海岸の侵食被害を防ぐ海岸保全施設の整備 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《市民意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ■アカウミガメはサンドパックの上側まで乗り越えて産卵している。 ■埋設護岸を設置していなければ浜崖はまだひどくなっていたと思う。 (第 40 回市民談義所 2018(H30)年 7 月 27 日) ■台風が来るとサンドパックが露出し、アカウミガメの産卵に支障が出ている。 (第 41 回市民談義所 2018(H30)年 11 月 9 日) </div>	

※2018(H30)年度に実施した対策も一部含む

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票案で追記更新

表一 3.4(2) 評価（埋設護岸）その2

評価対象		埋設護岸	～2017(H29)年度*		
対策実施による効果・影響	定量評価	地形	・埋設護岸を設置した箇所は大炊田海岸・動物園東ともに、埋設護岸の機能により、浜崖位置の後退及び浜崖頂部高の低下とみられなかった【本資料図－3.13、参考資料1 p6-46～49】。		
		環境	・大炊田海岸では、背後の浜崖地形が安定し、植生の生息範囲が海側にやや広がった【本資料図－3.14、参考資料1 p6-88～89】。 ・埋設護岸の覆土養浜上でアカウミガメの産卵が見られた【本資料写真－3.1】。		
		利用	・定量的な調査は実施していないが、海岸巡視時の目視による調査結果によると、石崎浜(釣り)および動物園東(サーフィン)の利用者が多く、多様な利用があることを確認した【本資料図－3.10】。		
	影響	地形	・動物園東の埋設護岸の未設置区間は浜崖頂部の天端高が2008(H20)年に比べて低下しており、越波対策上必要な防護高(T.P.+7m)よりも低い状況となっている【本資料図－3.13】。 ・砂浜回復に向けた事業半ばであることから、侵食傾向の大きい動物園東を中心に、波浪によりサンドバックが露出する状況がみられる【本資料写真－3.3】。		
		環境	・アカウミガメについて、上陸数・産卵数ともに前年から若干減少しているが、これは全国的な傾向と類似している。なお、動物園東は上陸・産卵ともに回復が見られない。浜幅が狭いことや埋設護岸等の工事が上陸・産卵に影響している可能性がある【本資料図－3.8、参考資料1, p6-89～92】。		
		利用	・定量的な調査は実施しなかった。		
	定性評価	効果	・サンドバック覆土時には、良好な砂浜景観が形成されていた【本資料写真－3.1、巻末状況写真】。 ・埋設護岸の変状につながる事象(サンドバック、グラベルマット、アスファルトマットの露出)を巡視時の点検で確認したが、背後の浜崖侵食は見られなかった。なお、大炊田地区の一部でSP前面の局所的な侵食が生じ、SP39の上段サンドバックが転落した(H30年に復旧予定)が、この区間においても背後の浜崖侵食は生じなかった【本資料写真－3.3、参考資料1 p5-4～7】。 ・埋設護岸の設置、砂浜の回復によって浜下り神事が復活した【本資料写真－3.2】。		
		影響	・年間を通してサンドバックが露出する箇所が見られる【参考資料1 p5-4～7】。		
	効率性		・サンドバック中詰材に、現地発生土砂を利用している。 ・サンドバック背後の盛土材(背後養浜盛土の下層の固定土砂)に、養浜材としてはやや不適な粒度の悪い材料を利用している。		
	計画全体に対する進捗			大炊田地区	動物園東地区
計画全体数量			1.6km	1.1km	
2017(H29)年度			新設なし(0.02km補修)	0.22km	
2017(H29)年度まで			1.58km (1.60km：仮設工含む)	0.94km	
課題		<ul style="list-style-type: none"> ・動物園東北部は埋設護岸が設置されておらず、養浜で砂丘の侵食に対応しているため、埋設護岸の整備を進める必要がある。 ・2015(H27)年までの埋設護岸の変状の根本的な原因は、サンドバック前面の砂浜が狭くなったことである。早急な砂浜の回復や緊急時の速やかな養浜実施が課題である。 ・砂浜回復に向けた事業半ばであることから、侵食傾向の大きい動物園東を中心に、波浪によりサンドバックが露出する状況がみられる。 			
今後の対策の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・埋設護岸設置により、浜崖の後退・浜崖頂部高の低下を抑制する効果は確認されるとともに端部処理や急激な侵食への対応が課題となった。端部については、ストック養浜等により対応していく。 ・埋設護岸を粘り強く、変状しにくくするために、不陸の生じにくい洗掘防止工(グラベルマット)の導入等、埋設護岸のステップアップを実施していく。また、サンドバックが露出した場合には、学識者や地元環境保護団体と協力し、緊急養浜を行う等の適正な維持・管理に努める。対応を進めていく。 ・対策の実施にあたっては、工事の内容も含めて市民への丁寧な情報提供をしていく。 ・引き続き、測量および海岸巡視等で施設および背後の浜崖の状態を確認しながら機能維持に努めるとともに、改良した洗掘防止対策(グラベルマット)の機能を確認していく。 ・大炊田の埋設護岸区間のアカウミガメ産卵回復に寄与する対応を検討・実施していく。 ・動物園東の埋設護岸未設置区間への対応を進める。 <p>以上のことから、事業を継続していくことが妥当であると考え。</p>			
評価		対策は順調に進んでおり工法を継続			
		<p>対策は概ね順調に進んでおり工法を継続</p> <p>主な理由：計画波高相当の高波浪来襲においても、埋設護岸設置区間の浜崖後退を防ぐことができ、一定の効果が確認された。頂部は守られているが、埋設護岸未設置区間背後の浜崖頂部高は低く、埋設護岸整備が必要である。なお、アカウミガメの上陸・産卵回数は前年に比べてやや増えているため、引き続き適切な養浜の実施一方、侵食傾向の大きい動物園東を中心に、波浪によりサンドバックが露出する状況がみられるため、養浜と突堤による砂浜回復を推進するとともに、学識者や地元環境保護団体と協力し、適正な維持・管理が必要である。</p>			
		対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留			

※2018(H30)年度に実施した対策も一部含む

3.5 年次評価の総括

- 以上の 4 つの評価単位の評価を踏まえた 2017(H29)年度までの事業に対し、2018(H30)年度の調査結果を踏まえた、年次評価の総括を表－ 3.5 に示す。

青字：前回評価票から削除
赤字：今回の評価票素案で追記更新

表－ 3.5 年次評価の総括

評価対象		～2017(H29)年度*
評価	計画検討の前提条件	<p>調査結果を特に注視し、前提条件の使用を継続</p> <p>主な理由：来襲する波のエネルギーおよびその方向に年変動が見られるが現時点で土砂の移動方向が想定と異なるような変化傾向は見られない。なお、計画波高(11.6m)と同程度の波が観測され、2017(H29)年に計画値に比べ若干北側からとなっていたエネルギー平均波の波向が計画値よりやや南側から入射する傾向が平成28年まで継続していたが、平成29年は、計画値より若干北側からとなった。は、2018(H30)年は指標設定範囲より若干南側からの波向であった。この点を特に注視しつつ観測を継続する。</p>
	養浜	<p>対策は概ね順調に進んでおり工法を継続</p> <p>主な理由：宮崎海岸全体で侵食進行の抑制効果が見られ、これまでに実施してきた養浜に一定の効果が見られる。一方、目標浜幅50mを確保するだけの回復には至っていないことから、養浜の投入場所の精査、投入量の増加、養浜材の質について修正・工夫した更なる養浜の推進が必要である。なお、アカウミガメの上陸・産卵回数は前年に比べてやや増えているため、引き続き適切な養浜の実施が必要である。</p>
	突堤	<p>対策は概ね順調に進んでおり工法を継続</p> <p>主な理由：突堤群の設置範囲(陸側)でも若干の土砂量の回復が見られ、突堤近傍では一時的ではあるが砂浜も見られるようになってきた。ただし、砂浜の回復にまでは至っておらず、現在の堤長では沿岸漂砂を捕捉する効果を十分に発揮するには短いと考えられる。</p>
	埋設護岸	<p>対策は概ね順調に進んでおり工法を継続</p> <p>主な理由：計画波高相当の高波浪来襲においても、埋設護岸設置区間の浜崖後退を防ぐことができ、一定の効果が確認された。頂部は守られているが、埋設護岸未設置区間背後の浜崖頂部高は低く、埋設護岸整備が必要である。なお、アカウミガメの上陸・産卵回数は前年に比べてやや増えているため、引き続き適切な養浜の実施一方、侵食傾向の大きい動物園東を中心に、波浪によりサンドバックが露出する状況がみられるため、養浜と突堤による砂浜回復を推進するとともに、学識者や地元環境保護団体と協力し、適正な維持・管理が必要である。</p>
年次評価の総括		<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画検討の前提条件である波浪について、波向が計画値と異なる場合には、土砂移動が想定と異なってくる。この場合には、養浜や突堤の計画を再検討する必要が生じる。今後、この傾向が一時的な現象であるかを注意深く監視していくことが重要である。 ■ 3つの対策（突堤、養浜、埋設護岸）は、各対策ともに一定の効果は発揮している。また、環境においては調査結果に変動はあるが看過できない影響は見られず、利用においては看過できない変化・影響は見られていない。 ■ 海岸全体としては侵食進行の抑制効果が見られ、これまでに実施してきた対策に一定の効果が見られる。一方、目標浜幅50mを確保するだけの回復には至っていない傾向が継続している。また、局所的に浜幅が狭くなり、埋設護岸をはじめとする施設に被害が生じている。埋設護岸については、急激な浜崖の後退の防止には寄与しているものの、砂浜を回復させる機能はないことから、3つの対策のうち、砂浜を回復するための抜本的な対策である「土砂供給量の増加」、「養浜」により土砂を増やすことと、「突堤」により南へ流出する土砂を減らすことのバランスを考えて今後一層進めていく必要がある。

※計画検討前提条件については外力関係：2018(H30)年1月～12月、漂砂関係：2018(H30)年度調査結果について養浜、突堤、埋設護岸については2018(H30)年度に実施した対策も一部含む

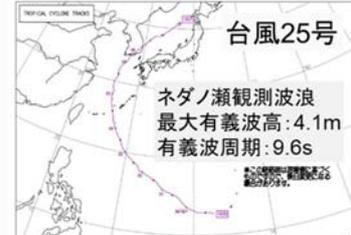
対策評価の主要ポイント 非常に大きな波浪が来襲するも海岸は守られた

- 台風24号は台風21号に連続して『非常に強い』勢力で25年振りに上陸した台風』として宮崎県に接近し、広域に記録的な暴風をもたらした。波浪観測においても計画波高(30年確率)に相当し、ネダノ瀬観測期間中(H22年～)最大波高※となる11.7mを記録した。
- 宮崎海岸も高波浪にさらされ、サンドバックが露出する箇所も多く見られたが、浜崖の後退は防ぐことができ、事業の効果を確認することができた。

【動物園東】	【大炊田】
<p>全景</p> <p>・全体的に露出が見られるが浜崖後退は見られない</p>  <p>南側端部</p> <p>・これまでサンドバックが露出していた南側端部では露出が著しいが、大きな損傷は見られない</p>  <p>H30.10.7撮影</p>	<p>全景</p> <p>・養浜した覆土は、北側は比較的残っていたが、南側ではサンドバックの露出が見られた。ただし、浜崖は守られている</p>  <p>南側端部</p> <p>・サンドバックの露出は多く見られたが損傷は見られなかった</p>  <p>H30.10.7撮影</p>

※ここでの波高とは換算沖波波高(観測波高から地形による影響を除外して換算した波高)

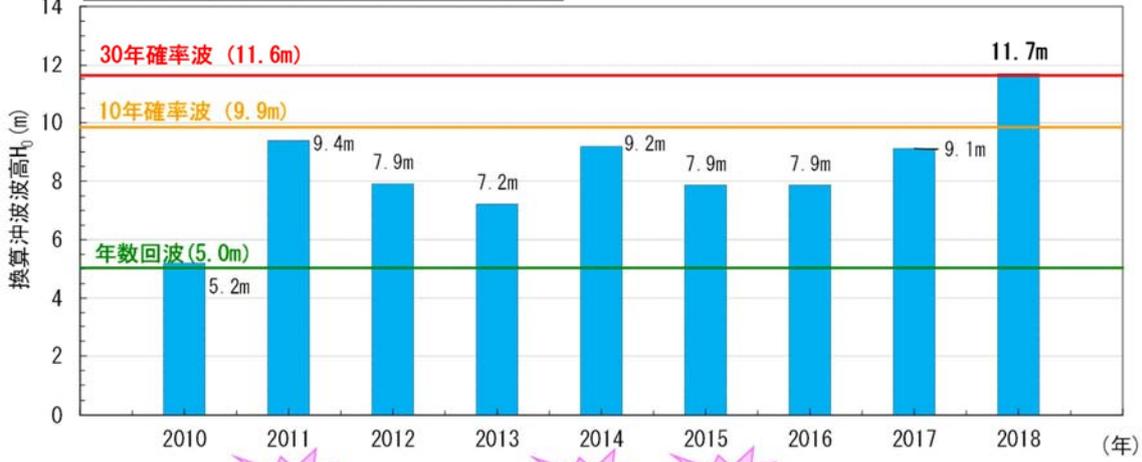
【台風経路と特徴】

台風21号	台風24号	台風25号
 <p>ネダノ瀬観測波浪 最大有義波高: 5.6m 有義波周期: 12.3s</p>	 <p>ネダノ瀬観測波浪 最大有義波高: 10.5m 有義波周期: 10.0s</p>	 <p>ネダノ瀬観測波浪 最大有義波高: 4.1m 有義波周期: 9.6s</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・21号は、25年振りに「非常に強い」勢力で上陸した台風。 ・9月4日に九州の東側を通過し、宮崎海岸に影響を及ぼした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・21号通過の約25日後の9月30日に24号が「非常に強い」勢力で連続して上陸する台風となった。 ・さらに宮崎海岸に接近し、長時間、高波浪にさらされることになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24号通過のわずか5日後の10月5日に25号が強い勢力で九州の西側を通過した。



- 2018(H30)年に観測された最大の波高※は台風24号接近時の11.7m。
- この波高11.7mは、宮崎海岸の高波浪時の越波検討や、突堤や埋設護岸等の安定性の設計に用いている計画波高(30年確率波)11.6mと同程度の高い波高。

近年の年最大波高(ネダノ瀬)



H23大炊田
浜岸後退

H26大炊田
埋設護岸被災

H27動物園東
埋設護岸被災
浜山コンクリート護岸被災

※ここでの波高とは換算沖波波高(観測波高から地形による影響を除外して換算した波高)

動物園東地区

- 埋設護岸設置前の2014(H26)年は波高9.2mで、浜岸の後退、保安林の流出など被災。
 - 2015(H27)は波高7.9mで、コンクリート護岸及び埋設護岸など被災。
 - 2018(H30)年は、より大きな波高11.7mが来襲するも、背後の浜岸侵食は見られず、サンドバックの露出、根固工の一部被災程度で大きな被災はなかった。
- ⇒ これまでに実施してきた侵食対策の効果



2014(H26)年

養浜のみ(動物園東)

台風18号通過後 H26.10.11 | 台風19号通過後 H26.10.13 | 地形変化(H26.6~H26.10)

(出典: 第24回宮崎海岸市民談話所資料 p.18)

2015(H27)年

H27.8.26撮影

SP05, SP03, SP01

(出典: 第29回宮崎海岸市民談話所別紙資料 浜山防潮護岸工の被災について) | (出典: 第28回宮崎海岸市民談話所資料 p.21)



対策評価の主要ポイント 宮崎海岸の風景が広く評価された

 **宮崎海岸が優良な風景として、「第2回風景デザインアワード」を受賞！**

※風景デザインアワードとは、「規範」となる風景の発見をめざし、風景デザイン研究会が年に1回を目安に独自に選出する取り組みです。他地域で知られていない風景の、多様な価値を見出し、保全を支援し、もって優良な風景とその観方を社会に広く共有することを目的とします。



～講評の抜粋～

(前略) **宮崎海岸の十全な復活は道半ば**である。しかしながら、伝統的な地域住民の慣行である浜下り神事の復活を見た現段階で、この風景の重要な転換が行われたと考えられる。この点を評価し、これからの対策に一層の弾みがつくことを期待したい。

出典: <https://fukei-design-award.amebaownd.com/>



宮崎海岸

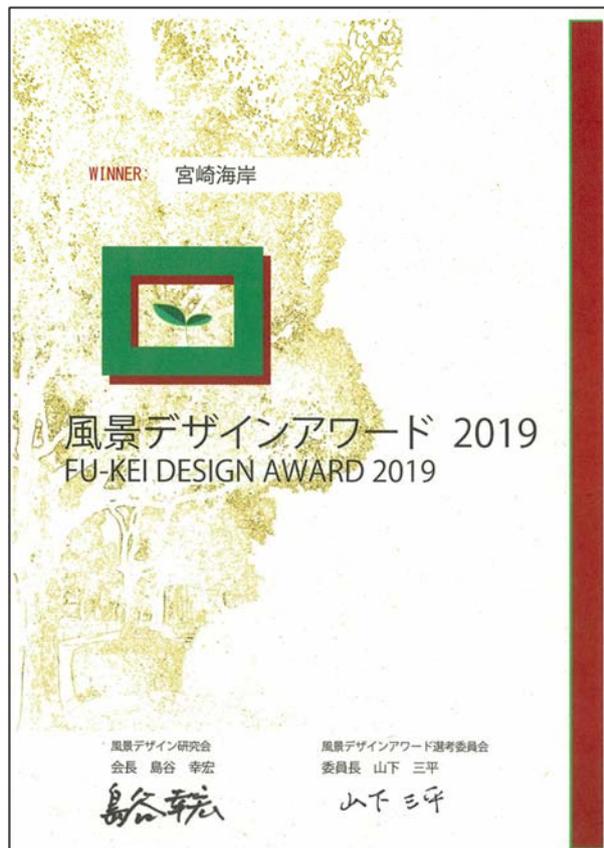
宮崎県宮崎市・日向市

太平洋に面し、宮崎県から日向市までの約60kmにおよぶ宮崎海岸。その宮崎海岸から一歩離れた宮崎県はアカシガメの産卵地であり、貴重な野生動物の生息地であるとともに、海洋レジャーも盛んに行われている。しかし、1990年代前半までは、徐々に海岸線が侵食し、宮崎県民の認知が低下していた。対策として市民参加の産卵対策の集まりが継続的に開催されることとなった。こうして産卵の継続と巨大土嚢の投入を含む海岸の回復対策が講じられた。その結果、海岸線の生息範囲の再開に広がり、集積された産卵でのアカシガメの産卵とその増加の確立された。そして、近年より、海岸の景観によって遊歩道が整備された。浜下りの神事が復活した。一方、かつての自然の風景が復活されるには、自然環境の回復がさらに大きく促される必要がある。したがって宮崎海岸の十全な復活は道半ばである。しかしながら、伝統的な地域住民の慣行である浜下り神事の復活を見た現段階で、この風景の重要な転換が行われたと考えられる。この点を評価し、これからの対策に一層の弾みがつくことを期待したい。



【ポイント】
 ・浜下り神事が復活したことで、この風景の重要な転換が行われたと考えられること
 ・海岸線の生息範囲が再開に広がり、集積された産卵でのアカシガメの産卵とその増加の確立されたこと
 ・本調査に、これからの対策の促進効果を期待すること

写真提供：宮崎県・国土交通省



西日本新聞(2019年5月20日)に、表彰された他の風景(九州全体で9箇所)とともに紹介されました。

西日本新聞記事(2019/9/4現在):
<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/511454/>

<参考> 海岸よろず相談所に寄せられた市民からの最近の意見・情報
(平成30年4月～令和元年8月)

～環境・利用について～

- 釣りを趣味にしている。宮崎の海岸は、台風通過後はトラフが形成され良い釣り場となる。(H30.10、石崎浜)
- ウミガメが産卵するのに養浜材が硬い。(R01.7、大炊田海岸)

～対策について～

- 航路安全確保のために一ツ瀬川河口の土砂浚渫を要望している。この砂を海岸侵食対策に利用してほしい。(H30.9、海岸よろず相談所)
- 大炊田海岸に養浜を投入すると、石崎川河口に土砂が堆積するため、シラスウナギ漁に影響がある。(H31.2、海岸よろず相談所)
- 昨年の大型台風でも、サンドバックが地域を守ってくれたのを実感した。(R01.7、大炊田海岸)

～宮崎海岸市民談議所について～

- 市民談議所は毎回佐土原で実施されているが、住吉の住民は参加しにくいいため、開催場所の一考をお願いしたい。(H31.2、住吉振興会)

<参考> サンドバイパスの試験施工
(令和元年度実施予定)

- 目的 : 総合土砂管理の取り組みの一環として、将来の維持養浜に向けた一ツ瀬川河口周辺でのサンドバイパスの効果および効率的な手法を把握するために試験施工を関係機関と連携して実施
- 場所 : 一ツ瀬川河口付近で0.5万 m^3 程度を予定
- 時期 : 令和元年12月～令和2年3月(予定)



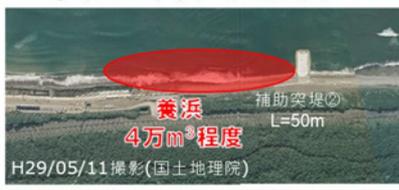
<参考> 突堤周辺の早期の砂浜形成 ～川砂利・川砂などを用いた養浜～
(令和元年度実施予定)

- 目的 : コンクリート護岸区間に早期に砂浜を形成させるため、より動きにくい川砂利、川砂などによる養浜を実施
- 場所 : 補助突堤②の北側に4万 m^3 程度を予定
- 時期 : 令和元年7月～10月(予定)
- 備考 : 効果を確認しつつ、次年度以降も継続を想定

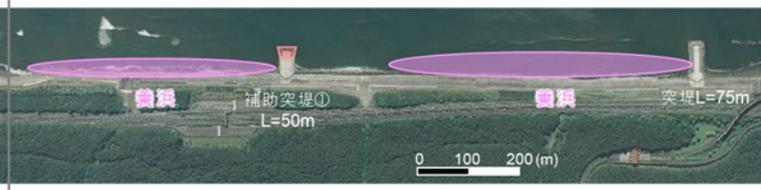
○投入予定の材料



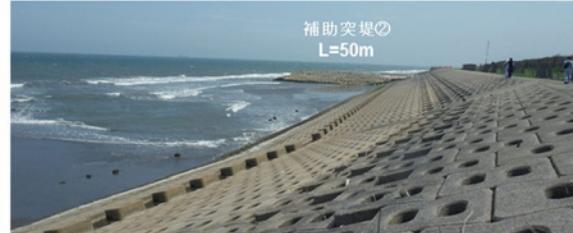
令和元年度に実施予定



令和2年度～3年度に同程度を想定



○投入予定地点



【発生要因】
最大有義波高(発生月日)

2018 (H30) 年度の宮崎海岸の状況

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉PA前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H30.4.23								
H30.5.29								
H30.6.25								
H30.7.24								
H30.8.28								
H30.9.25								

【北高型気圧配置】
3.3m (5/21)

【低気圧】
3.6m (6/18)

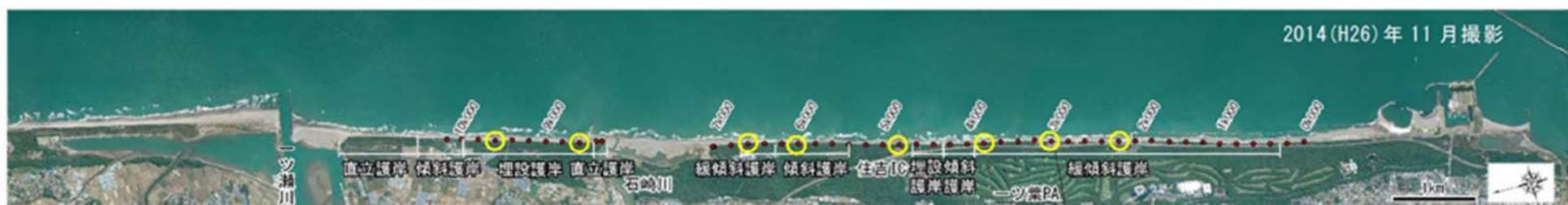
【台風7号】
4.3m (7/3)

【台風8号】
3.1m (7/10)

【台風19号】
6.6m (8/21)

【台風20号】
5.2m (8/23)

【台風21号】
5.6m (9/4)



宮崎海岸に来襲した高波浪(有義波高3m以上)

発生要因	ネダノ瀬波浪観測地点における観測値			
	発生日	最大有義波高 H _{1/2} (m)	有義波周期 T _{1/2} (s)	平均波向 (°)
T1824	18/9/30	10.5	10.0	105
T1819	18/8/21	6.6	11.9	106
T1821	18/9/4	5.6	12.3	111
T1820	18/8/23	5.2	14.6	88
T1807	18/7/3	4.3	8.5	132
T1825	18/10/5	4.1	9.6	84
低気圧	18/6/18	3.6	8.4	76
北高型気圧配置	18/5/21	3.3	8.2	75
T1826	18/10/28	3.2	14.8	116
T1808	18/7/10	3.1	13.7	116

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉 PA 前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H30.9.25								
H30.10.22								
H30.11.26								
H30.12.25								
H31.1.29								
H31.2.26								
H31.3.26								

【台風 24 号】
10.5m (9/30)

【台風 25 号】
4.1m (10/5)

【台風 26 号】
3.2m (10/28)



(参考) 2017 (H29) 年度の宮崎海岸の状況

【発生要因】
最大有義波高 (発生月日)

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸 (動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉 PA 前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H29.4.25								
H29.5.30								
H29.6.27								
H29.7.25								
H29.8.29								
H29.9.26								

【低気圧】
3.1m (3/31)

【低気圧】
4.7m (4/10)

【台風5号】
5.5m (8/6)

【台風18号】
5.5m (9/17)



2014 (H26) 年 11 月撮影

宮崎海岸に来襲した高波浪 (有義波高 3m 以上)

発生要因	ネダノ瀬波浪観測地点における観測値			
	発生日	最大有義波高 H1/3(m)	有義波周期 T1/3(s)	平均波向 (°)
低気圧	17/03/31	3.1	9.3	63
低気圧	17/04/10	4.7	7.3	61
台風5号	17/08/06	5.5	9.3	121
台風18号	17/09/17	5.5	9.1	84
低気圧	17/10/06	4.5	10.4	70
台風21号	17/10/22	6.0	10.3	79
台風22号	17/10/29	8.3	10.4	80
低気圧	18/02/28	3.1	6.6	189

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉 PA 前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H29.10.18								
H29.10.31								
H29.11.28								
H29.12.26								
H30.1.30								
H30.2.28								
H30.3.27								

【低気圧】
4.5m (10/6)

【台風 21号】
6.0m (10/22)

【台風 22号】
8.3m (10/29)

【低気圧】
3.1m (2/28)



【発生要因】
最大有義波高(発生月日)

(参考) 2016 (H28) 年度の宮崎海岸の状況

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園裏) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉 PA 前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H28.4.14								
H28.5.24								
H28.6.28								
H28.7.26								
H28.8.24								
H28.9.21								

【低気圧】
3.1m (4/17)

【低気圧】
3.1m (5/3)

【台風 16 号】
7.2m (9/20)



宮崎海岸に来襲した高波浪(有義波高 3m 以上)

発生要因	ネダノ瀬地点における観測値			
	発生起時	最大有義波高 H1/3(m)	有義波周期 T1/3(s)	平均波向 (°)
台風16号	09/20.04	7.2	7.7	110
低気圧	05/03.13	3.1	7.0	140
低気圧	04/17.03	3.1	6.7	141

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉PA前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H28.9.27								
H28.10.25								
H28.11.22								
H28.12.27								
H29.1.31								
H29.2.21								
H29.3.27								



【台風、高波浪】
最大有義波高

(参考) 2015 (H27) 年度の宮崎海岸の状況



【低気圧】
4.00m

【台風9号】
5.30m

【台風11号】
4.17m

【台風15号】
7.03m



宮崎海岸にもたらされた高波浪

順位	気象要因	最大値観測時刻		有義波高 (m)	有義波周期 (s)		
		年 月 日	時刻				
1	台風15号	15	8	25	6:00	7.03	8.8
2	台風9号	15	7	9	15:00	5.30	15.1
3	低気圧	15	12	11	0:00	4.19	8.8
4	台風11号	15	7	16	8:00	4.17	10.9
5	低気圧	15	4	13	5:00	4.00	9.2

	大炊田海岸② (9k600)	大炊田海岸① (8k600)	石崎川右岸 (6k600)	石崎浜海岸 (6k000)	住吉海岸(動物園東) (4k800)	住吉海岸 (3k800)	一ツ葉 PA 前 (3k000)	突堤北側 (2k200)
H27.10.28								
H27.11.25								
H27.12.28								
H28.1.28								
H28.2.24								
28.3.29								

【低気圧】
4.19m

